

# JCCA中国

Japan Civil Engineering Consultants Association Chugoku Branch.

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会中国支部

2024.3

VOL. 52





## 目次 CONTENTS

2024. 3. Vol.52

### ■巻頭言

- 1 建設コンサルタントの行方 支部長 小田 秀樹

### ■夢道人

- 2 中国地方整備局からのメッセージ  
魅力ある建設業界を目指して  
中国地方整備局 副局長 岩崎 福久
- 5 大学からのメッセージ  
繰り返し発生する近年の土砂災害から学んだこと  
広島大学特任教授 防災・減災研究センター長 海堀 正博

### ■会務

- 7 令和5年度中国支部 第53回定時総会  
7 役員会  
8 役員、常設部会委員の異動

### ■総務

- 9 総務部会等の開催  
10 国土交通功労表彰  
23 令和5年度鳥取県委員会 主要活動報告  
24 令和5年度災害時対応演習  
27 若手の会活動報告  
29 大学・高専への業界説明会開催  
30 講習会等  
30 建設技術フォーラム2023in ちゅうごく  
31 土木の役割、魅力に触れる～まちあるき～の開催  
32 官民合同新年互礼会

### ■業務

- 33 業務部会の開催  
34 令和5年度 意見交換会実施概要  
35 中国ブロック意見交換会  
51 広島高速道路公社との意見交換会  
58 中国地方整備局との意見交換会  
64 広島県との意見交換会  
72 広島市との意見交換会  
79 協会本部と中国支部意見交換会

### ■技術

- 80 技術部会の開催  
80 技術講習会、見学会等  
86 研修講師の派遣  
88 河川委員会の活動報告  
89 道路委員会の活動報告  
90 構造委員会の活動報告  
91 港湾委員会の活動報告  
93 防災委員会の活動報告  
96 地域計画委員会の活動報告  
98 ICT委員会の活動報告

### ■厚生

- 99 第58回 ゴルフ大会  
102 第13回 フットサル大会  
106 第56回 ボウリング大会

### ■グループ活動

- 108 コウノトリから繋がるネットワーク  
復建調査設計 若宮 慎二

- 111 企業対抗リレーマラソンinひろしま～出場報告～  
中電技術コンサルタント 永井 純平

### ■寄稿

- 112 創立60周年を迎えて  
八千代エンジニアリング 河辺 真一
- 114 パラクライミング応援に行ってきました  
エイト日本技術開発 四宮 好和
- 116 フリーアドレスの紹介  
荒谷建設コンサルタント 白石 友則

### ■読者のコーナー

- 118 一年を振り返って 長大 和田 龍汰  
118 入社して感じたこと  
エイト日本技術開発 安食 大輝
- 119 入社して感じたこと  
エイト日本技術開発 傍士智佐子
- 119 入社してからを振り返って  
復建調査設計 逢坂 勇輝
- 120 入社1年目を振り返って  
復建調査設計 鮫島 裕貴
- 120 入社して感じたこと  
中電技術コンサルタント 岩室明日葉
- 121 入社して感じたこと  
中電技術コンサルタント 谷 直樹
- 121 振り返りと今後の目標  
荒谷建設コンサルタント 栗栖健太郎
- 122 入社して感じたこと  
荒谷建設コンサルタント 小池 智文
- 122 一年目を振り返って  
八千代エンジニアリング 加藤 唯
- 123 入社して感じたこと  
八千代エンジニアリング 末広 明穂
- 123 入社して感じたこと  
八千代エンジニアリング 松田 隼輝
- 124 大学生から社会人へ ウエスコ 近藤 らら  
124 建コンの営業職を選んで ウエスコ 木村 勇翔  
125 入社して感じたこと 長大 川西 翔

### ■新任自己紹介

- 126 新任のご挨拶 応用地質 小林 誠二  
127 新任のご挨拶  
計測リサーチコンサルタント 梅本 秀二
- 128 ご挨拶 セントラルコンサルタント 大野 徹也  
129 新任のご挨拶 長大 道下 順一  
129 技術部会委員新任のごあいさつ  
大日本ダイヤコンサルタント 稲塚 裕右
- 130 新任ご挨拶 ニュージェック 松本 信雄  
130 新任のご挨拶  
オリエンタルコンサルタンツ 寺田 芳弘
- 131 新任のご挨拶 ヒロコン 岡谷 武英  
131 ご挨拶 復建調査設計 青木 順  
132 新任のご挨拶 エイト日本技術開発 小谷 満俊  
132 新任のご挨拶 エイト日本技術開発 長谷川忠司

### ■事務局

- 133 支部日誌  
137 事務局からのお知らせ

## 建設コンサルタントの行方



(一社)建設コンサルタンツ協会中国支部  
支部長 小田 秀樹

### 【建設コンサルタンツ協会設立60周年後の新たな歩み】

昨年は建設コンサルタンツ協会60周年を迎えることができました。この間協会は、40年間の成長期、50周年を迎えるころの10年間の衰退期、その後の国土強靱化のための予算確保や技術者単価の上昇により、再びの経営安定期を迎えています。

ただし、これから継続的に安心・安全な国土形成に向けて社会資本の整備に貢献するためには、担い手の継続的な確保、働き方改革や就業環境の改善、成果品の品質確保等に取り組んでゆかなければなりません。また、本書に掲載されている各機関との意見交換会議事を見ても、自治体における技術力による選定は多少の改善は見られるものの、依然として価格競争が主流となっています。元協会会長の高野氏が「技術力を発揮することに使命感を抱く技術者が、お金が安いだけで選定される職場に魅力を感じるだろうか?」と常に言われていました。私も同感ですし、皆様も同様のお考えだと思います。今後も要望を続けてゆきましょう。

### 【斉藤国交大臣との意見交換とDX推進への期待】

昨年10月14日(土)斉藤鉄夫国土交通大臣が支部長会社である弊社に来られ、私他10名程度の幹部と共に、意見交換を行う機会を得ました。大臣としての取り組みを説明いただいた後 ①設計業務委託等技術者単価及び、調査基準価格の引き上げ ②働き方改革推進のための計画的な業務発注と適切な工期設定・工程管理 ③DXの推進等による経費増大に伴う適正経費率導入への支援、の3点について大臣と意見交換を行いました。

これに加え、DX関連業務の例として、国土交通省都市局発注の広島駅北デジタルツイン

や広島国道事務所計画の西広島バイパス延伸地元説明用の3D動画及び模型等の説明を行い、建設コンサルタントの現在の取り組みなどを紹介させていただきました。日ごろから私たちの業界に理解をいただいている大臣及び政策秘書は熱心にご覧いただき、今後の計画・調査・設計・管理という一貫したサービスにも、DXの推進は必要であるとの認識を持たれたと思っています。

しかし、前石井大臣の時に導入が始まってしばらく時が経つBIM/CIMについても、設計⇒積算⇒施工⇒管理という一連のサービスに、連続した仕様で提供できる段階には至っていないことが課題として残っています。契約図書の電子化や簡素化、遠隔臨場による現地踏査や検査などについても、自治体を含めての導入はまだまだ道半ばと言わざるを得ません。私たちは、発注側と共に引き続き課題を解決し目標達成に向けて努力をしてゆかねばならないと考えます。

### 【古希を迎えての協会への思い】

中国地方ブロック及び、中国地方整備局との意見交換時は、第二部意見交換懇親会が開かれ、貴重なご意見をいただく機会を設けていますが、最新情報によると、当協会の進行方式が他協会へも普及しつつあるとか。引き続き実りある第二部意見交換を他自治体にも広げて行ければと思っています。

私事ですが、昨年古希を迎え「これからは、喋るよりは聞く。引っ張るより支える」を心がけることに決めました(あくまで目標です)。少し遅い気もしますが、今しばらく協会のお役に立てればと思っていますので、会員の皆様には、当協会中国支部に対する引き続きのご支援ご理解をお願いいたします。

## ■ 中国地方整備局からのメッセージ

### 魅力ある建設業界を目指して



中国地方整備局  
副局長 岩崎 福久

#### 1. はじめに

一般社団法人建設コンサルタンツ協会中国支部の会員の皆様には、平素より中国地方整備局の事業をはじめ、国土交通行政全般にわたり、多大なご尽力とご協力を賜っておりますことに、厚くお礼申し上げます。

また、貴協会の皆様は、計画、調査、設計、点検、管理等の各分野における進歩改善を図り、社会基盤整備の充実に貢献されるとともに、その社会的地位を向上させ、もって建設コンサルタンの健全な発展に多大なる尽力をされてきたことに、心から敬意を表する次第です。

#### 2. 激甚化・頻発化する災害への対応

昨年、中国地方では幾度も大雨に見舞われました。6~7月には島根県・山口県を中心に豪雨災害が発生、8月には台風第7号により、鳥取県東部を中心に甚大な被害が発生しました。

近年、災害が激甚化・頻発化しており、地域住民の命と暮らしを守り、社会経済システムが機能不全に陥らないよう、強靱な地域づくりをいち早く進めることが重要と認識しています。

こうした中、令和5年6月には、国土強靱化基本法が改正され、「国土強靱化実施中期計画」の策定が法定化されました。

「国土強靱化実施中期計画」には、計画期間、計画期間内において国土強靱化に関し実施すべき施策の内容及び目標、同施策のうちその推進が特に必要となるものの内容及びその事業の規模等について定めるものであり、さらに、7月には「国土強靱化基本計画」が改定され、これに基づき国土強靱化対策を進めていくこととなります。

また、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策は4年目を迎え、事業規模おおむね15兆円に対して、令和5年度補正予算まで

に累計約11.8兆円が予算化され、全体の約8割が確保されたところです。

引き続き、私共といたしましては、国民の命と暮らしを守る施策を関係機関等と連携し、防災・減災、国土強靱化対策の推進にしっかりと取り組んで参りたいと考えています。

#### 3. 中国地方整備局におけるインフラ整備

インフラ整備は、安全・安心して暮らせる社会のために必要不可欠なものであり、引き続き一丸となって取り組んでまいります。

例を挙げますと、太田川水系の樽床ダム等において、事前放流など既存ストックを最大限活用する計画を検討した上で、さらなる洪水調節機能の増強が必要な場合には、ダムの整備について検討を進めてまいります。

平成30年に被災した倉敷市で進めている小田川合流点付替え事業は、令和5年10月に通水式を終え最終段階を迎えており、令和6年3月の完成に向け工事を推進しています。

また、インフラは、経済の好循環を支える基盤としても必要不可欠なものです。

中国地方は、インフラ整備が不十分であり、都市部の渋滞や高規格道路のミッシングリンク、物流ネットワークの未整備、港湾施設の船舶大型化への対応など様々な課題を抱えています。これら課題に対し、令和6年3月には山陰道(大田中央・三瓶山IC~仁摩・石見銀山IC)の供用、また、令和5年10月には水島港で大型船に対応した航路整備が完了するなど、着実に対応を進めているところです。

そのような中、令和5年7月に閣議決定された国土形成計画(全国計画)を踏まえつつ、中国圏広域地方計画の改定を進めており、これまでに「基本的な考え方」を公表し「暮らし」「産業・経済」「安全・安心」「環境」の4つの柱に基づく



将来像などを提示したところです。中国圏は西日本の中央に位置し、交通の要衝であるとともに物流の中継地点としても重要です。日本海側と瀬戸内海側の二面を効果的に活用した交流促進、また物流の「2024年問題」対応のため、各地域を多様なモードでつなぎ、重層的なネットワークの形成を進めることが必要と考えています。

今後とも、課題に即した適切な整備を行っていくことで、地域交流・地域経済の活性化・国際競争力強化に寄与してまいります。

#### 4. 品確法(担い手三法)の改正

品確法は平成17年に制定され、平成26年には、建設業法・入契法と一体的に「担い手三法」として改正が行われました。

令和元年の品確法改正では、災害への対応、働き方改革関連法の成立、生産性向上の必要、調査・設計の重要性の踏まえ、品確法の対象に調査・設計の品質確保が位置づけられ、「新・担い手3法」として基本理念や発注者の責務が示されました。

品確法に基づき、公共工事の品質確保の促進意義や施策に関する基本的方針を指定した「品確法基本方針」が令和元年10月18日に閣議決定し、年明けに発注関係事務の運用に関する指針が策定され、令和2年4月より運用が開始されました。

喫緊の課題としては、4月の建設業への時間外労働時間の上限規制適用「2024年問題」が挙げられます。整備局が行う様々な事業や生産プロセス等において、データとデジタル技術の活用・取組を本格化し、更なる生産性向上を図るとともに、適正な履行期間の設定や履行期限の平準化等により働き方の改革に努めてまいります。

#### 5. 生産性向上及び働き方改革の取組

インフラ分野においては、激甚化・頻発化する災害対応やインフラ施設の老朽化対策の必要性は高まる一方、人口減少、少子高齢化に伴う深刻な人手不足の進行が懸念されており、建設産業界全体での生産性向上と働き方改革が急務となっています。

中国地方整備局では、2021(令和3)年10月

に「中国地方整備局インフラDX 推進本部」を設置し、整備局全体でインフラ分野のデジタル・トランスフォーメーション(DX)を強力に推進しています。

2016(平成28)年度からICT活用工事の取り組みを始め、2019(令和元)年度からはi-Construction 推進計画を策定、令和4年度からはこれを「中国地方整備局インフラDX推進計画」に改定し、毎年度策定する本計画に沿って各種取組を実行するとともに、点検、分析・評価し、改善を図っているところです。

中国地方整備局では、生産性向上及び働き方改革に関する以下のような具体的取組を推進しています。

##### 〔BIM/CIMの原則適用〕

中国地方整備局のこれまでの取組として、大規模構造物などを中心にBIM/CIMを活用、順次対象を拡大しながら事例を収集し、「BIM/CIM活用の手引き(案)」や「BIM/CIM活用事例集」を作成・公表してきましたが、令和5年度から業務・工事においてBIM/CIM原則適用を受け、この取組を更に推進することとしています。

また、BIM/CIMを効果的に活用し、建設生産・管理システムの効率化を図っていくためには、建設事業に関わる発注者及び受注者における人材育成が不可欠であり、中国地方整備局では、幅広い関係者がDXに関する専門性の高い研修や技術体験ができる人材育成の拠点として、中国技術事務所に「中国インフラDXセンター」の整備を進め、令和5年7月18日に暫定運用を開始したところです。建設生産・管理システムのプロセスにおいて活用可能なDX技術のうち、AR・VRコンテンツ等の体験が可能となっており、今後も、DXセンターで体験できる技術メニューや研修コンテンツの充実を図り、BIM/CIM活用促進を支える人材育成の環境整備に取り組むこととしています。

さらに、BIM/CIMに関するサポート体制として、未経験企業等がBIM/CIMに関する基礎知識や3次元ソフトの基本操作技術などの習得や能力向上に取り組みやすくなるようサポート制度を整備することにより、BIM/CIMの更なる活用促進を図ることとしています。

### 〔WEB会議等の活用〕

新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、その防止対策として、整備局管内の直轄工事及び業務の履行に必要な受発注者間の打合せをWEB化、また、全工事と地質調査業務の確認行為については、WEBカメラを利用した遠隔臨場とするなど、デジタル技術を活用した取組を実施しています。

### 〔履行期限の平準化〕

履行期限の平準化については、毎年度平準化目標を定め、各事務所等で取り組んでいます。具体的には、目標を達成するよう国債、翌債等を活用した計画的な業務発注に努めており、国債、翌債等の業務件数は、毎年増加しています。また、履行期限の延期が生じた場合は繰越を柔軟に活用して、できる限り履行期限が第4四半期にならないように取り組んでいます。

### 〔ウィークリースタンスの推進〕

平成30年12月より、全ての業務を対象にウィークリースタンスの取り組みとして、(1)「水曜日は、勤務時間外の連絡及び16時以降に掛かる打合せは行わない。」、(2)「水曜日に資料作成依頼を行う場合は、翌日木曜日を期限日としない。」、(3)「金曜日に資料作成依頼を行う場合は、翌週月曜日を期限日としない。」、(4)「資料作成依頼を正規の勤務時間外には行わない」、(5)「資料作成依頼を行う場合には、適切な期間を確保し期限を設定する。」の5項目を目標に掲げ、ワークライフバランスの改善を進めているところです。

### 〔入札契約における担い手確保・育成〕

若手技術者等の活躍・育成のために、平成26年度よりプロポーザル方式、総合評価落札方式の業務において、若手技術者(45歳以下)を管理技術者として配置する場合は管理補助技術者を配置できる取り組みを行っていますが、さらに、令和5年度からは、配置予定管理技術者に40歳以下の若手技術者を配置する場合は、入札手続きにおいて加点評価することとしています。

また、若手技術者を担当技術者として配置

しやすくするために、担当技術者のうち評価点上位者で評価する方法への見直しも行っていきます。

さらに、女性技術者の活躍を含めた働き方改革の一環としては、令和2年度よりプロポーザル方式の業務を対象に、厚生労働省の認定制度である「くるみん」「えるぼし」の認定企業に入札参加時の加点評価を行っています。

このように、次世代を担う技術者を増やし技術力を伝承するとともに、若手技術者や女性技術者の登用、活躍の場が増えるよう取り組んでいます。

## 6. おわりに

自然災害リスクの増大や社会資本の老朽化対策など、多種多様な課題が山積していますが、建設コンサルタントに求められる役割は益々重要になっており、中国地方の安全・安心の確保、持続的な発展のため、地域住民の皆様や建設業の皆様をはじめ関係の皆様と手を携えて様々な施策を進めていきたいと考えています。

建設業界に与えられた使命を果たしていくためには、建設業界をより魅力ある産業として、将来の担い手を確保するため、働き方改革を強力に推進していくことが必要です。

インフラ整備や防災・減災対策など地域の守り手として、建設コンサルタントと発注者が「良きパートナー」として連携し、国民の安全・安心の確保に向けて、事業推進に努めて参りたいと考えています。今後も、中国地方整備局の事業執行にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



## ■ 大学からのメッセージ

### 繰り返し発生する近年の土砂災害から学んだこと



広島大学特任教授  
防災・減災研究センター長 海堀 正博

平成30年(2018年)7月の豪雨災害(以下、「西日本豪雨災害」)では、広島県での犠牲者が突出して大きくなり、その原因が問題視されました。

まずは、「西日本豪雨災害」の誘因となった雨を考えます。広島県ではそれまでも、平成11年(1999年)6月の豪雨災害(以下、「6.29災害」)や平成26年(2014年)8月の豪雨災害(以下、「8.20災害」)などの大災害に見舞われていました。どちらも、数時間の強雨が引き金にはなっていましたが、最大24時間雨量や降り始めからの総雨量は300mm前後以下というものでした。それに対し、「西日本豪雨災害」の誘因となった大雨は、広島県の南東部で400~600mm超の総雨量になっており、この地域では過去に記録されていないような降り方でした。しかも、降雨量が多くなった状態でさらに強雨が加わっており、崩壊や土石流等の発生しやすい降雨パターンになっていたことがあげられます。

地質的な観点からは、もともと雨で崩れやすい花崗岩類の分布地域だけでなく、流紋岩類の分布地域でも崩壊や土石流等が多発し、最終的に雨量や降り方の条件さえ満たされれば、多少強いと言われる地質地域であっても崩れたり、土石流等となって流れることが確認されました。植生の観点からも同様で、むしろ広葉樹林地帯でも崩壊・土石流等が集中発生しており、地質的な観点と同じく、大雨と降雨パターン次第であることが確認されました。

防災気象情報の観点からは、災害につながる崩壊や土石流等の集中発生が起き始める日時よりずっと早い段階で大雨や洪水に関する注意報・警報は出されていましたし、また、「土砂災害警戒情報」も最終的に犠牲者の出たエリアのすべてに対して事前に発表され

ていたことが確認されています。

避難情報の観点からは、発災前日の段階から「避難勧告」等が発令されている自治体もあったように、ほとんど発災前には発令がなされていることもわかっています。

しかし、結果的には、広島県内で109人の死者が比較的早い段階で確認され、そのうち87人が土砂災害の犠牲者でした。その後、関連死としての44人が加わり、さらに今なお行方不明者が5人ということで、広島県内の犠牲者は150人超という非常に大きなものになってしまいました。

私たちは、建設コンサルタンツ協会の皆様のお力もお借りして、災害の原因となる気象条件、地質条件や土質・岩質の状況、植生の状況、崩壊や土石流等の発生・流動・堆積の状況等、また、それへの対応策等について、災害の度に問題の解決のための研究と実践に取り組んできました。それにも関わらず、「6.29災害」、「8.20災害」、「西日本豪雨災害」という大災害の犠牲者数は、32人、77人、150人超と、増える一方です。なぜこのような事態になっているのでしょうか？

「6.29災害」(1999年)はハザードマップが非公開の時代の災害です。被災者が危険性について知らなかったことから被害が大きくなった、といわれ、翌2000年からハザードマップの公開が始まっています。また、「土砂災害防止法」も2000年に制定され、2001年から施行されています。ただ、人の生命や身体に著しい被害が出る可能性の高い土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)の範囲内では、法的に居住制限や建築制限が設けられ、個人の主権を制限する法律でもあることから、住民説明会も複数回行われるなど厳格かつ慎重に進められ、最終的に指定作業が一段落するまで約20年を要

す結果となりました。しかも、ハザードマップは公開されましたが、その意味を知って活かされる状況になっていないことが後に明らかになります。

「8.20災害」(2014年)は、8月20日1時30分過ぎからのわずか2時間半ほどの強雨が引き金となって、多数の崩壊や土石流等が集中的に発生し、居住エリアに入り込んで多くの犠牲者を出す大災害になったものです。当時、1時15分に広島市全域に対して「土砂災害警戒情報」が発表されていました。広島市安佐北区や安佐南区から「避難勧告」が発令されたのは、それぞれ、4時15分、4時30分以降であり、3時過ぎから4時過ぎにかけて起きた多数の崩壊や土石流等による災害の発生後でした。発災直後から、「避難勧告」等が遅れたために多数の犠牲者が出る大災害につながった、と報じられました。そのため「8.20災害」以降、全国各地で「避難勧告」等がかなり早い段階でより広範囲に対して発令される事例が増えましたが、その分、「空振り」と感じてしまう数も増えたのではないのでしょうか。その後も「避難指示」等が発令されても避難率の低い状況が続いています。

「西日本豪雨災害」(2018年)では、先述したように広島県内だけで150人超の犠牲者となり、このうち避難行動中の犠牲者も少なくとも20人以上いることがわかっています。避難行動に移る前の「他人ごとの心理」や「正常化の偏

見」、また、他人に合わせて自分も避難しない「同調性バイアス」傾向が出て適切な避難のタイミングをつかみ損ね、多くの貴重な命を落とす結果につながっていました。

広島県は土砂災害危険度を示す「土砂災害警戒区域」等の数が全国一の多さです。また、近年の極端な異常気象の頻発状況を考えると、ハード対策もソフト対策も有効ではあるものの限界があるでしょう。今後は造成や宅地の区画割の段階で、いざという時を想定した宅地のレイアウトと危険度の伝達をしていく必要があります。また、災害を「自分ごと」と捉えてもらう人を増やす、「マイ・タイムライン」を始めとする取り組みを広げていくことが望まれます。そのためには、行政、民間、研究・教育機関、マスコミ、住民が力を合わせて、それぞれの立場からできる範囲で命を守る取り組みに貢献していくことが必要となります。建設コンサルタント協会の皆様には、日頃より社会貢献の分野で多大なるご尽力をいただいております。地域住民の防災意識の向上や自主防災活動の推進にもつながっています。広島大学防災・減災研究センターも、研究・教育の立場から、それらの推進につながるような活動を今後とも進めたいと思っています。今後ともどうぞよろしくをお願いします。

〈プロフィール〉

海堀 正博(かいぼり まさひろ)

学 位：農学博士

役 職：広島大学特任教授 防災・減災研究センター長

専門分野：砂防学、森林科学、防災科学

受 賞 歴：令和2年2月「赤木賞」受賞(一般社団法人全国治水砂防協会会長から)

令和5年6月「土砂災害防止功労者表彰」(国土交通大臣から)

令和5年9月「防災功労者内閣総理大臣表彰」受賞



## ■ 令和5年度中国支部第53回定時総会

令和5年4月20日(木)、広島市南区のTKPガーデンシティ広島駅前大橋ホール5Aにおいて、会員会社の代表者、役員その他関係者の出席のもと、第53回中国支部定時総会が開催されました。

令和4年度の事業報告、収支決算の承認、役員改選、細則変更に引き続き令和5年度活動計画、予算案の報告が行われました。

総会に引き続き、長年にわたり業務部会委員並びに岡山県委員長として、また技術部会委員及び総務部会委員として積極的に支部活動の取組みをされた辻和秀氏並びに長谷山弘志氏に「功労表彰」が小田支部長から授与されました。

その後、協会本部顧問の多田智氏による「日本経済を憂える」と題して特別講演が行われました。



第53回定時総会 小田支部長の挨拶



特別講演会 多田顧問



功労者表彰記念撮影

## ■ 役員会

### ● 第1回役員会

開催日：令和5年7月26日(水)

於：復建調査設計(株)会議室

- 内 容：(1) 総務部会の活動について  
 (2) 業務部会の活動について  
 (3) 技術部会の活動について  
 (4) 厚生部会の活動について  
 (5) その他

### ● 第2回役員会

開催日：令和6年1月24日(水)

於：復建調査設計(株)会議室

- 内 容：(1) 第54回定時総会の開催日程について  
 (2) 第54回定時総会の議案について  
 (3) 令和6年度事業計画について  
 (4) 令和6年度収支予算について  
 (5) その他

## ■ 役員、常設部会委員の異動

### ● 総務部会委員

株式会社長大

新委員

道下 順一

←

前委員

大塚 真弘

### ● 技術部会委員

大日本ダイヤコンサルタント株式会社

新委員

稲塚 裕右

新委員

松本 信雄

←

前委員

若槻 幹穂

株式会社ニュージェック

新委員

竹中 浩輔

←

前委員

山里 靖

パシフィックコンサルタンツ株式会社

### ● 業務部会委員

株式会社オリエンタルコンサルタンツ

新委員

寺田 芳弘

←

前委員

長棟 良紀

新委員

岡谷 武英

←

前委員

中田 武

株式会社ヒロコン

新委員

小谷 満俊

←

前委員

辻 和秀

株式会社エイト日本技術開発

新委員

長谷川 忠司

←

前委員

川上 浩

株式会社エイト日本技術開発

新委員

青木 順

復建調査設計株式会社

### ● 総務部会岡山県委員長

株式会社エイト日本技術開発

新委員長

小谷 満俊

←

前委員長

辻 和秀

### ● 独占禁止法に関する特別委員会

株式会社エイト日本技術開発

新委員

長谷川 忠司

←

前委員

川上 浩

新委員

柘野 功吉郎

←

前委員

仲井 貴義

株式会社ウエスコ

新委員

平田 勲

←

前委員

池上 慎司

中電技術コンサルタント株式会社

### ● JCCA 中国編集委員

株式会社ウエスコ

新委員

柘野 功吉郎

←

前委員

仲井 貴義



## ■ 総務部会等の開催

### ● 第1回総務部会・県委員長合同会議

開催日：令和5年6月27日(火)  
場 所：建設コンサルタンツ協会中国支部  
          エイトビル2階会議室

議 題：

- (1) 令和4年度活動報告及び令和5年度の活動について
  - ① 総務部会の活動
    - ・土木技術者育成会議報告
    - ・高専、大学での業界説明会(報告・予定)
    - ・若手の会(活動報告・活動計画)
    - ・RCCM資格試験について
    - ・災害時対応演習について
    - ・建設技術フォーラム開催について
    - ・新しい広報活動(まちあるき)について
  - ② 各県委員会の活動
  - ③ 第1回役員会について
  - ④ その他

### ● 第2回総務部会

開催日：令和5年12月14日(木)  
場 所：建設コンサルタンツ協会中国支部  
          エイトビル2階会議室

議 題：

- (1) 令和5年度第2回役員会について
- (2) 第54回定時総会について
- (3) 特別講演会開催について
- (4) 表彰者推薦について
- (5) リクルート活動について
- (6) 広報活動について
- (7) その他

### ● 第1回JCCA中国編集会議

開催日：令和5年10月27日(金)  
場 所：建設コンサルタンツ協会中国支部  
          エイトビル2階会議室

議 題：JCCA中国VOL.52の編集について

### ● 第30回中国支部若手の会

開催日：令和5年5月26日(金)  
場 所：建設コンサルタンツ協会中国支部  
          エイトビル2階会議室

- 議 題：
- (1) 各社よりメンバー及び会社の紹介
  - (2) 令和4年度活動実績、中期計画、令和5年度計画等の説明
  - (3) 企画検討のブレインストーミング(企画の案出し、選定、企画書作成)

### ● 第31回中国支部若手の会

開催日：令和5年6月21日(水)  
場 所：大日本ダイヤコンサルタント(株)  
          中国支店会議室

- 議 題：
- (1) 全体共有(総務部会 現場見学会の参加確認)
  - (2) 企画検討  
生産性向上チーム：若手懇談交流会、レジリエンス強化研修の検討  
業界PRチーム：業界説明会、ワークショップ、社長インタビュー、業界PRマンガ、業界PRポスターの検討

### ● 第32回中国支部若手の会

開催日：令和5年7月19日(水)  
場 所：ZOOMオンライン

- 議 題：
- (1) 全体共有(WillSummit、総務部会 呉高専業界説明会・現場見学会の参加確認)
  - (2) 企画検討  
生産性向上チーム：若手懇談交流会、レジリエンス強化研修の検討  
業界PRチーム：業界説明会、社長インタビュー、業界PRマンガの検討

### ● 第33回中国支部若手の会

開催日：令和5年9月6日(水)  
場 所：中電技術コンサルタント(株) 会議室

- 議 題：
- (1) 全体共有(WillSummit、総務部会 呉高専業界説明会の参加報告、若手懇談交流会・総務部会 現場見学会の詳細説明、厚生部会依頼の方向性決め)
  - (2) 企画検討  
生産性向上チーム：若手懇談交流会、レジリエンス強化研修の検討  
業界PRチーム：業界PRマンガ、社長インタビュー、ワークショップの検討

### ● 第34回中国支部若手の会

開催日：令和5年11月10日(金)  
場 所：復建調査設計(株) 会議室

- 議 題：
- (1) 企画検討  
生産性向上チーム：レジリエンス強化研修後のアウトプットまとめ  
業界PRチーム：業界PRマンガの検討
  - (2) 来年への意見出し(若手の会運営方法について)

## ■ 国土交通功労表彰

令和5年度の国土交通功労表彰は、中国地方整備局令和4年度事業を対象として、令和5年7月20日(木)、ホテルメルパルク広島6階[瑞雲]で功労者の表彰が行われました。中国支部会員の受賞は次のとおりです。

### ● 業務関係受賞者

受賞種別	受賞総数	内会員受賞数	会員比率(%)
優良業務請負団体局長表彰	25	21	84.00
優良業務請負団体事務所長等表彰	42	33	78.57
計	67	54	80.59
優秀建設技術者局長表彰	25	21	84.00
優秀建設技術者事務所長等表彰	41	33	80.48
計	66	54	81.81
合計	133	108	81.20



表彰者全体



中崎整備局長挨拶



会員の受賞

●『国土交通功労者』優良業務請負団体表彰(局長表彰)

表彰区分	部門	会社名	業務名	事務所名
局長表彰	土木	株式会社 建設技術研究所	令和4年度広島西部山系外土砂・洪水氾濫対策検討業務	広島西部山系防務事務所
	土木	株式会社 建設技術研究所	令和3年度芦田川水環境改善施策外評価検討業務	福山河川国道事務所
	土木	株式会社 建設技術研究所	令和3年度神戸川軟弱地盤対策詳細設計業務	出雲河川事務所
	地質調査	株式会社 建設技術研究所	令和3年度江の川因原地区水文調査検討業務	浜田河川国道事務所
	土木	株式会社 長大	令和3年度広島国道管内交通円滑化検討業務	広島国道事務所
	土木	株式会社 長大	令和2年度北条道路環境調査業務	倉吉河川国道事務所
	土木	いであ株式会社	令和3年度皆生海岸施設改良他検討業務	日野川河川事務所
	土木	日本工営株式会社	令和4年度コンクリート構造物ひび割れ制御対策検討業務	中国技術事務所
	測量	復建調査設計株式会社	令和4年度岡山倉敷立体他測量業務	岡山国道事務所
	土木	中電技術コンサルタント株式会社	令和2年度千代川水系河川整備計画他検討業務	鳥取河川国道事務所
	土木	中電技術コンサルタント株式会社	令和4年度中国インフラDXセンターソフトコンテンツ他検討業務	企画部
	地質調査	株式会社 エイト日本技術開発	令和3年度藤生長野バイパス水文調査計画検討業務	山口河川国道事務所
	土木	株式会社 エイト日本技術開発	令和3年度志戸坂峠防災第1トンネル外詳細設計業務	鳥取河川国道事務所
	土木	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和3年度松江国道事務所管内修繕測量設計業務	松江国道事務所
	土木	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和3年度可部バイパス測量設計業務	三次河川国道事務所
	土木	八千代エンジニアリング株式会社	令和3年度三篠川樽原地区樋門詳細設計他業務	太田川河川事務所
	土木	基礎地盤コンサルタンツ株式会社	令和3年度徳山・豊田道路地すべり詳細設計業務	山陰西部国道事務所
	港湾空港	パシフィックコンサルタンツ株式会社	徳山下松港下松地区棧橋(-19m)細部設計等業務	宇部港湾・空港整備事務所
	土木	令和4年度坂根堰管理フォローアップ検討業務 水源地環境センター・中電技術コンサルタント設計共同体	令和4年度坂根堰管理フォローアップ検討業務	岡山河川事務所
	土木	株式会社 片平新日本技研	令和3年度国道30号・53号橋梁外点検業務	岡山国道事務所
土木	株式会社 ウエスコ	令和4年度八田原水辺現地調査(陸上昆虫類等)外業務	八田原ダム管理所	

●『国土交通功労者』優良業務請負団体表彰(事務所長表彰)

表彰区分	部門	会社名	業務名	事務所名
事務所長表彰	土木	株式会社 片平新日本技研	令和3年度志戸坂峠防災坂根第1橋詳細設計業務	鳥取河川国道事務所
	土木	株式会社 エイト日本技術開発	令和4年度倉吉管内交安測量設計業務	倉吉河川国道事務所
	土木	株式会社 エイト日本技術開発	令和3年度江の川測量設計その3業務	浜田河川国道事務所
	土木	株式会社 エイト日本技術開発	令和3年度国道2号・180号橋梁外点検業務	岡山国道事務所



事務所長表彰	土木	株式会社 建設技術研究所	令和4年度松江国道事務所管内渋滞対策検討業務	松江国道事務所
	土木	株式会社 建設技術研究所	令和3年度旭川上流ダム耐震性能照査検討業務	岡山河川事務所
	土木	株式会社 建設技術研究所	令和3年度国道2号泉田高架橋外橋梁補修設計業務	岡山国道事務所
	土木	株式会社 建設技術研究所	令和3年度江の川水系多段階浸水想定図作成業務	三次河川国道事務所
	測量	株式会社 パスコ	令和3年度斐伊川水系定期縦横断外測量業務	出雲河川事務所
	土木	中電技術コンサルタント株式会社	令和3年度福光・浅利道路道路高度化検討業務	浜田河川国道事務所
	土木	中電技術コンサルタント株式会社	令和3年度広島南道路明神地区外測量設計業務	広島国道事務所
	土木	いであ株式会社	令和4年度浜田河川国道事務所管内橋梁補修設計他業務	浜田河川国道事務所
	土木	復建調査設計 株式会社	令和3年度益田西道路白上地区外測量設計業務	浜田河川国道事務所
	土木	復建調査設計 株式会社	令和4年度三次管内橋梁外点検その2業務	三次河川国道事務所
	土木	復建調査設計 株式会社	令和3年度山口西部橋梁点検業務	山口河川国道事務所
	土木	株式会社 ウエスコ	令和3年度旭川中上流陸域環境調査他業務	岡山河川事務所
	補償	株式会社 ウエスコ	令和3年度太田川河川事務所管内費用負担説明他業務	太田川河川事務所
	土木	株式会社 ウエスコ	令和3年度呉・広島・可部管内道路施設点検業務	広島国道事務所
	土木	株式会社 ニュージェック	令和3年度岡山環状南道路道路詳細設計他業務	岡山国道事務所
	港湾空港	株式会社 ニュージェック	管内港湾整備効果検討業務	広島港湾・空港整備事務所
	土木	日本工営 株式会社	令和4年度小田川付替施工計画検討業務	高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所
	土木	株式会社 総合技術コンサルタント	令和3年度福山道路長和地区ランプ橋詳細設計業務	福山河川国道事務所
	土木	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和3年度国道2号引野地区歩道詳細設計外業務	福山河川国道事務所
	補償	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和3年度藤生長野バイパス藤生地区外用地調査等業務	山口河川国道事務所
	測量	中国開発調査 株式会社	令和4年度太田川加計外流量観測業務	太田川河川事務所
	土木	八千代エンジニアリング株式会社	令和4年度広島国道管内渋滞対策検討業務	広島国道事務所
	土木	パシフィックコンサルタンツ株式会社	令和4年度岩国・大竹道路岩国トンネル修正設計業務	山口河川国道事務所
	港湾空港	パシフィックコンサルタンツ株式会社	境港外港地区防波堤(2)改良検討業務	境港湾・空港整備事務所
土木	株式会社 長大	令和3年度大井・萩道路2号橋外橋梁予備設計業務	山陰西部国道事務所	
測量	広建コンサルタンツ株式会社	令和4年度苫田ダム堆砂測量他業務	苫田ダム管理所	
地質調査	アサヒコンサルタント株式会社	令和4年度境海上保安部竹内船艇用品庫敷地調査業務	岡山営繕事務所	

●『国土交通功労者』優良業務請負団体表彰(部長表彰)

表彰区分	部門	会社名	業務名	事務所名
部長表彰	港湾空港	中電技術コンサルタント株式会社	中国地方整備局管内基準点設置測量	港湾空港部
	土木	令和4年度中国管内河川環境管理シート作成検討業務 いであ・リバーフロント研究所設計共同体	令和4年度中国管内河川環境管理シート作成検討業務	河川部

●『国土交通功労者』優秀建設技術者表彰

表彰区分	部門	氏名	会社名	業務名	事務所名
局長表彰	土木	村上 正人	株式会社 建設技術研究所	令和4年度広島西部山系外土砂・洪水氾濫対策検討業務	広島西部山系砂防事務所
	土木	湯本 圭輔	株式会社 長大	令和3年度広島国道管内交通円滑化検討業務	広島国道事務所
	土木	口石 孝幸	いであ 株式会社	令和3年度皆生海岸施設改良他検討業務	日野川河川事務所
	土木	下園 晋一郎	日本工営 株式会社	令和4年度コンクリート構造物ひび割れ制御対策検討業務	中国技術事務所
	測量	吉屋 和彦	復建調査設計 株式会社	令和4年度岡山倉敷立体他測量業務	岡山国道事務所
	土木	斎藤 健	株式会社 建設技術研究所	令和3年度芦田川水環境改善施策外評価検討業務	福山河川国道事務所
	土木	佐藤 孝治	中電技術コンサルタント株式会社	令和2年度千代川水系河川整備計画他検討業務	鳥取河川国道事務所
	地質調査	高津 順	株式会社 エイト日本技術開発	令和3年度藤生長野バイパス水文調査計画検討業務	山口河川国道事務所
	土木	榎田 敦之	株式会社 エイト日本技術開発	令和3年度志戸坂峠防災第1トンネル外詳細設計業務	鳥取河川国道事務所
	土木	李 宏樹	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和3年度松江国道事務所管内修繕測量設計業務	松江国道事務所
	土木	朝長 哲也	八千代エンジニアリング株式会社	令和3年度三篠川樽原地区樋門詳細設計他業務	太田川河川事務所
	土木	秋元 隆司	基礎地盤コンサルタンツ株式会社	令和3年度依山・豊田道路地すべり詳細設計業務	山陰西部国道事務所
	土木	佐々木 真希生	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和3年度可部バイパス測量設計業務	三次河川国道事務所
	港湾空港	寺島 彰人	パンフィックコンサルタンツ株式会社	徳山下松港下松地区栈橋(-19m)細部設計等業務	宇部港湾・空港整備事務所
	土木	吉川 智勝	株式会社 建設技術研究所	令和3年度神戸川軟弱地盤対策詳細設計業務	出雲河川事務所
	土木	磯部 久貴	令和4年度坂根堰管理フォローアップ検討業務 水源地環境センター・中電技術コンサルタント設計共同体	令和4年度坂根堰管理フォローアップ検討業務	岡山河川事務所
	土木	河島 陽平	中電技術コンサルタント株式会社	令和4年度中国インフラDXセンターソフトコンテツ他検討業務	企画部
	土木	安木 進也	株式会社 長大	令和2年度北条道路環境調査業務	倉吉河川国道事務所
	地質調査	万木 純一郎	株式会社 建設技術研究所	令和3年度江の川因原地区水文調査検討業務	浜田河川国道事務所
	土木	高 龍	株式会社 片平新日本技研	令和3年度国道30号・53号橋梁外点検業務	岡山国道事務所
土木	野崎 達也	株式会社 ウエスコ	令和4年度八田原水辺現地調査(陸上昆虫類等)外業務	八田原ダム管理所	

●『国土交通功労者』優秀建設技術者表彰

表彰区分	部門	氏名	会社名	業務名	事務所名
事務所長表彰	土木	吉國 大介	株式会社 片平新日本技研	令和3年度志戸坂峠坂根第1橋詳細設計業務	鳥取河川国道事務所
	土木	山本 博章	株式会社 エイト日本技術開発	令和4年度倉吉管内交安測量設計業務	倉吉河川国道事務所
	土木	中原 圭太	株式会社 建設技術研究所	令和4年度松江国道事務所管内渋滞対策検討業務	松江国道事務所
	測量	間野 耕司	株式会社 パスコ	令和3年度斐伊川水系定期縦横断外測量業務	出雲河川事務所
	土木	河島 陽平	中電技術コンサルタント 株式会社	令和3年度福光・浅利道路道路高度化検討業務	浜田河川国道事務所
	土木	石山 正人	いであ 株式会社	令和4年度浜田河川国道事務所管内橋梁補修設計他業務	浜田河川国道事務所
	土木	平尾 保洋	復建調査設計 株式会社	令和3年度益田西道路白上地区外測量設計業務	浜田河川国道事務所
	土木	郷田 信夫	株式会社 エイト日本技術開発	令和3年度江の川測量設計その3業務	浜田河川国道事務所
	土木	松下 太郎	株式会社 ウエスコ	令和3年度旭川中上流陸域環境調査他業務	岡山河川事務所
	土木	和田 一斗	株式会社 建設技術研究所	令和3年度旭川上流ダム耐震性能照査検討業務	岡山河川事務所
	土木	中園 康平	株式会社 ニュージェック	令和3年度岡山環状南道路道路詳細設計他業務	岡山国道事務所
	土木	光川 直宏	株式会社 建設技術研究所	令和3年度国道2号泉田高架橋外橋梁補修設計業務	岡山国道事務所
	土木	堀田 郁男	株式会社 エイト日本技術開発	令和3年度国道2号・180号橋梁外点検業務	岡山国道事務所
	土木	松尾 隆太郎	日本工営 株式会社	令和4年度小田川付替施工計画検討業務	高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所
	土木	林 浩二郎	株式会社 総合技術コンサルタント	令和3年度福山道路長和地区ランプ橋詳細設計業務	福山河川国道事務所
	土木	福光 年宏	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和3年度国道2号引野地区歩道詳細設計外業務	福山河川国道事務所
	土木	天満 真士	復建調査設計 株式会社	令和4年度三次管内橋梁外点検その2業務	三次河川国道事務所
	土木	深草 新	株式会社 建設技術研究所	令和3年度江の川水系多段階浸水想定図作成業務	三次河川国道事務所
	測量	御堂河内 聡	中国開発調査 株式会社	令和4年度太田川加計外流量観測業務	太田川河川事務所
	補償	寺尾 健一	株式会社 ウエスコ	令和3年度太田川河川事務所管内費用負担説明他業務	太田川河川事務所
	土木	渡部 和也	中電技術コンサルタント 株式会社	令和3年度広島南道路明神地区外測量設計業務	広島国道事務所
	土木	田中 秀治	株式会社 ウエスコ	令和3年度呉・広島・可部管内道路施設点検業務	広島国道事務所
	土木	石瀬 弘樹	八千代エンジニアリング 株式会社	令和4年度広島国道管内渋滞対策検討業務	広島国道事務所
土木	安田 直樹	復建調査設計 株式会社	令和3年度山口西部橋梁点検業務	山口河川国道事務所	
補償	石井 志津夫	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和3年度藤生長野バイパス藤生地区外用地調査等業務	山口河川国道事務所	



事務所長表彰	土木	山田 宣章	パシフィックコンサルタンツ株式会社	令和4年度岩国・大竹道路岩国トンネル修正設計業務	山口河川国道事務所
	土木	日高 卓也	株式会社 長大	令和3年度大井・萩道路2号橋外橋梁予備設計業務	山陰西部国道事務所
	測量	高垣 安由	広建コンサルタンツ株式会社	令和4年度苫田ダム堆砂測量他業務	苫田ダム管理所
	地質調査	尾崎 浩一	アサヒコンサルタンツ株式会社	令和4年度境海上保安部竹内船艇用品庫敷地調査業務	岡山営繕事務所
	港湾空港	小西 陽右	パシフィックコンサルタンツ株式会社	境港外港地区防波堤(2)改良検討業務	境港湾・空港整備事務所
	港湾空港	牧野 綾	株式会社 ニュージェック	管内港湾整備効果検討業務	広島港湾・空港整備事務所

●『国土交通功労者』優秀建設技術者表彰

表彰区分	部門	氏名	会社名	業務名	事務所名
部長表彰	港湾空港	近藤 良	中電技術コンサルタント株式会社	中国地方整備局管内基準点設置測量	港湾空港部
	土木	石垣 宏	令和4年度中国管内河川環境管理シート作成検討業務 いであ・リバーフロント研究所設計共同体	令和4年度中国管内河川環境管理シート作成検討業務	河川部

## ◇ 優秀建設技術者のプロフィール

### ※ 中国地方整備局長表彰

#### ● 口石 孝幸氏

会社名：いであ株式会社

職 位：国土保全事業部 海岸部長

趣 味：読書、映画鑑賞



#### ● 受賞業務の概要と感想

このたび、弊社が担当した「令和3年度皆生海岸施設改良他検討業務」に対して中国地方整備局長より優秀技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。

本業務は、皆生海岸で実施されている深浅測量等のモニタリング結果及び数値解析結果を用いて、皆生海岸の施設整備計画の検討を行ったものです。検討にあたっては、3次元海浜変形予測モデル等の数値シミュレーションを適用して、施設背後の地形変化や漂砂下手側海岸への影響について評価しました。さらに、気候変動予測データ(d2PDF、d4PDF)等を用

いて将来の潮位・波浪の長期変化量を推定し、気候変動の影響を踏まえた計画外力の設定を行い、気候変動が皆生海岸の海岸保全整備事業に与える影響を検討しました。また、これらの成果を皆生海岸技術検討委員会に提出し、将来の施設整備の方向性を示したことが高評価につながったものと考えます。

今後は、この受賞を励みにさらに、さらに技術力の向上に努力したいと考えております。最後になりましたが、日野川河川事務所の関係者の皆様にはご指導・ご協力を賜り、この場を借りて深くお礼を申し上げます。

## ◇ 優秀建設技術者のプロフィール

### ※ 中国地方整備局長表彰

#### ● 野崎 達也氏

会社名：株式会社ウエスコ

職 位：防災・環境事業部 九州環境計画課

趣 味：鳥と虫と酒とコーヒー



#### ● 受賞業務の概要と感想

この度は、八田原水辺現地調査(陸上昆虫类等)外業務に対し、中国地方整備局長より優良業務及び優秀技術者表彰を賜り、厚く御礼申し上げます。

本業務は河川水辺の国勢調査の一環として、八田原ダムにおける昆虫類とプランクトンの生息実態を把握・分析したものです。特に昆虫類では、既往調査の約2倍の希少種を確認して学識者の信頼に足る調査を実現し、ダム管理への活用や地域還元を図りました。一例を挙げると、ダム湖岸に整備された水質浄化施設がもつ多面的機能(水生昆虫の生息場)を解明

し、止水・流水・ヨシ原等の環境多様性の重要性を整理しました。また展示標本と啓発パネルを作成し、ダム訪問者に八田原ダムの魅力を伝える工夫を行いました。こうした取組みに加え、昆虫以外の種群(流域に分布する鳥類など)に関する地域課題の相談を受け、丁寧な対応を心掛けました。このように、一業者の枠を超えて行政上の良きパートナーとして振舞えたことも、高い評価を頂いた一因と考えています。

この受賞を励みに、社会資本の整備・管理に一層貢献していく所存です。末筆ながら、業務を通じてご指導頂いた八田原ダム管理所の皆様に、この場を借りて深甚の謝意を表します。

## ◇ 優秀建設技術者のプロフィール

### ※ 中国地方整備局長表彰

#### ● 榎田 敦之氏

会社名：株式会社エイト日本技術開発

職 位：防災保全事業部 広島支店 地盤技術グループ プロジェクトマネージャー

趣 味：バスケット、キャンプ



#### ● 受賞業務の概要と感想

この度は、「令和3年度志戸坂峠防災第1トンネル外詳細設計業務」に対し、中国地方整備局長から優良業務表彰および優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございます。また、業務期間中において、中国地方整備局や鳥取河川国道事務所の方々にご指導・ご鞭撻をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

本業務は、一般国道373号志戸坂峠防災に計画されている志戸坂第1トンネル、第2トンネルの詳細設計です。現道の国道373号は、冬季にスタックによる通行止めや事故が頻発する

等の交通課題を抱えていました。そこで、冬季交通の円滑化やリダンダンシーを確保するため、当事業が進められてきました。本業務において技術的な特徴を一つだけ挙げるとすれば、「土石流堆積物の不良地山が分布するトンネル坑口部の設計」です。私自身、土石流に係るトンネル設計は初めてでしたので、社内のトンネル熟練技術者に加え、砂防技術者と侃侃諤諤の議論を重ねに重ね、なんとか最適解を導き出して設計に反映できたことが評価いただけたのではないかと感じています。

最後になりましたが、本業務に関わっていただいた社内技術者の方々にも御礼申し上げます。ありがとうございました。

## ◇ 優秀建設技術者のプロフィール

## ❖ 中国地方整備局長表彰

## ● 高津 順氏

会社名：株式会社エイト日本技術開発

職 位：防災保全事業部 山口支店 地盤技術グループ グループマネージャー

趣 味：野球観戦、フレンチブルドッグ



## ● 受賞業務の概要と感想

この度は、「令和3年度藤生長野バイパス水文調査計画検討業務」に対して、中国地方整備局長より優良業務及び優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございます。

本業務は、藤生長野バイパス工事による事業影響等を事前に予測し、水文調査計画を策定することが目的でした。調査対象地内に井戸等の水源が600箇所以上存在することが確認され、それらの水源に対し、現地調査及び各種解析結果をもとにリスクレベルを評価し、ランクに応じた水文調査計画を策定しました。

現地調査では、個別民家等へ赴き、水源の確認やヒアリングにより検討に際して必要な情報を得ました。当該業務期間中のコロナ感染拡大や特殊詐欺事件の発生等により、いかにして地元の方に不審がられないように調査を進めるかについて苦心したことが思い出されます。

業務履行にあたり、ご指導頂きました中国地方整備局山口河川国道事務所の方々、調査に快く協力して頂いた地元の皆様、担当技術者一同に心より感謝いたします。今回の受賞を励みに、技術者として更なる成長に努めて参りたいと思います。

## ◇ 優秀建設技術者のプロフィール

## ❖ 中国地方整備局長表彰

## ● 寺島 彰人氏

会社名：パシフィックコンサルタンツ株式会社

職 位：技術部長

趣 味：バイクツーリング、テニス



## ● 受賞業務の概要と感想

受賞業務は徳山下松港下松地区においてファーストポートとして石炭バルク貨物船を受け入れるための栈橋整備事業にあたって、係留ドルフィン設計とジャケット栈橋の工事の進捗に伴う修正設計を実施したものです。

-19mの計画水深に対して現況水深が-25m程度と非常に深い箇所に斜杭のドルフィンを設置することから、上部工整備の難易度を踏まえて場所打ち構造から複数のプレキャスト構造に見なおした上で施工性に重点を置いて複数のプレキャスト構造案の比較検討を実施し、プレキャスト構造への

変更に伴う基本設計の修正設計、施工時の杭の挙動を考慮した構造検討など、施工に配慮した検討を実施しました。

業務実施にあたって、発注者側の担当者の方々にご指導いただきながら評価いただける成果が出せたこと感謝の念に堪えません。技術的にも良い経験が出来た業務で、今後もこのような業務や発注担当の方に出会えば技術者冥利に尽きます。今後も発注者と良い関係を築きエンドユーザーと施工を見据えた業務遂行を心掛けていきたいと思えます。

## ◇ 優秀建設技術者のプロフィール

## ❖ 中国地方整備局長表彰

## ● 秋元 隆司氏

会社名：基礎地盤コンサルタンツ株式会社

職 位：関西支社 設計部 担当部長

趣 味：散歩、読書



## ● 受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が受注した「令和3年度俵山・豊田道路地すべり詳細設計業務」において中国地方整備局長より優良業務表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございます。

本業務は、当該本線に影響を及ぼす可能性のある地すべり地形において、地すべり機構の妥当性、対策工設計の設計条件・方針を整理し、検討委員会資料を整理したものです。既往調査検討地すべりにおいて調査観測結果の再整理、新地形図を用いた微地形判読を行い、地すべりブロックの妥当性を判

断しました。また、対策工設計ではBIM/CIMにより三次元で地すべりブロックと対策工を視覚化し配置等の妥当性を確認しました。

私は東北支社からの業務管理・技術指導等をリモートにて行い、本業務の実働は中国支社メンバーの力に依るところが大きく、その成果による表彰であります。この受賞を励みとし、これからもインフラ整備事業に貢献するとともに、技術力の向上に努めていく所存であります。最後になりましたが、業務期間においては多くのご指導を頂きました山陰西部国道事務所の関係者の皆様に深く御礼申し上げます。



## ◇ 優秀建設技術者のプロフィール

### ※ 中国地方整備局長表彰

#### ● 吉川 智勝 氏

会社名：株式会社建設技術研究所  
職 位：大阪本社 水工部 主任技師長  
趣 味：映画やMVの鑑賞



#### ● 受賞業務の概要と感想

この度は、「令和3年度神戸川軟弱地盤対策詳細設計業務」に対し、優秀業務請負団体表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございます。業務遂行にあたり、様々なご指導をいただいた出雲河川事務所職員の皆様や関係者の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

本業務は、一級河川斐伊川水系神戸川3k~7k付近の両岸(延長約7km)における「築堤盛土により発生した地盤変状の宅地等への影響解消」を目的とした軟弱地盤対策工の詳細設計業務です。対策工は、既往設計との整合から「40m程度の長尺矢板を含む応力遮断矢板(ウォータージェット併用)」を採用

し、本業務では約2.6km区間の設計を行いました。本事業は、令和7年度完了予定のため、施工性や実現性に優れた設計となるように、発注者や施工業者と協力しつつ①工期短縮や事業費縮減を目的とした試験施工や追加地質調査等の提案、②施工実績を反映した遅延リスク低減策の提案、③三次元管理台帳の作成、④対策効果把握のためのモニタリング計画立案等を行いました。

メンバー一同、今回の受賞を励みとし、継続的な自己研鑽に努め、今後も安心・安全な社会の構築に貢献していきたいと思っております。

## ◇ 優秀建設技術者のプロフィール

### ※ 中国地方整備局長表彰

#### ● 斎藤 健 氏

会社名：株式会社建設技術研究所  
職 位：大阪本社 上下水道室 室長  
趣 味：読書、スポーツ観戦



#### ● 受賞業務の概要と感想

この度、「令和3年度芦田川水環境改善施策外評価業務」において、中国地方整備局長より優良業務履行団体表彰・優秀建設技術者表彰を賜りまして、誠にありがとうございます。

芦田川では、これまで河川管理者、下水道管理者、地方公共団体、事業者、地域住民の方々が一体となって、水環境改善を推進してきました。本業務では、芦田川の水環境基準の達成を継続・維持していくため、【①芦田川下流域の水環境改善】に引き続き取り組むとともに、新たに【②持続的な情報発信】、

【③ごみ対策の強化】に取り組む方針とした「第Ⅱ期芦田川水環境改善アクションプラン」を作成しました。

芦田川は、私が入社以来関わり続けている河川であり、このような形で評価をいただけたのも、偏に当社関係者の支援と、福山河川国道事務所の皆様のご指導の賜物と感謝しております。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

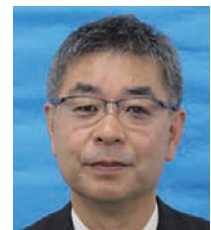
この受賞を励みとし、技術者としての更なる技術力の向上、後進の育成に努め、引き続き社会資本整備に貢献していきたいと思っております。

## ◇ 優秀建設技術者のプロフィール

### ※ 中国地方整備局長表彰

#### ● 村上 正人 氏

会社名：株式会社建設技術研究所  
職 位：部長  
趣 味：スポーツ観戦、ランニング、将棋



#### ● 受賞業務の概要と感想

この度、「令和4年度広島西部山系外土砂・洪水氾濫対策検討業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務履行団体表彰・優秀建設技術者表彰を賜りました。本業務を遂行するにあたり、広島西部山系砂防事務所職員の皆様には様々な御指導、御支援を頂きました。この場をお借りして心より御礼を申し上げます。

広島西部山系砂防事務所では、土石流危険渓流における安全度向上を目的に施設整備が進められていますが、平成30年7月豪雨では、土石流災害に加え上流域で生産された細粒土砂を多く含む土砂が下流河道で堆積し氾濫する土砂・洪水

氾濫が発生しました。本業務は、これまでの事業実施状況や近年の災害実態を踏まえ、広島西部山系、安芸南部山系の代表的な5溪流に対して土砂・洪水氾濫対策計画を立案したものです。

検討にあたっては、学識者や国土技術政策総合研究所を委員とし、本省、整備局、広島県をオブザーバーとする「広島西部山系砂防基本計画技術検討会」に3回諮り、指摘と助言に対して迅速かつ誠実に対応して土砂・洪水氾濫対策計画をとりまとめたことが評価されたポイントと思われます。

この受賞を励みとし、技術者としての更なる資質向上、安心・安全の社会資本整備に貢献していきたいと考えます。

## ◇ 優秀建設技術者のプロフィール

## ❖ 中国地方整備局長表彰

## ● 万木 純一郎 氏

会社名：株式会社建設技術研究所

職 位：グループ長

趣 味：キャンプ

## ● 受賞業務の概要と感想

この度、「令和3年度江の川因原地区水文調査検討業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務履行団体表彰・優秀建設技術者表彰を賜りました。本業務を遂行するにあたり、浜田河川国道事務所職員の皆様には様々な御指導、御支援を頂きました。この場をお借りして、心より御礼を申し上げます。

本業務は、島根県邑智郡川本町因原地区で発生した水害(R3.8洪水)に関して、周辺利水施設の位置や利用状況、地形・地質の把握を行い、遮水矢板の施工による堤防安全性の確認と周辺の利水環境に与える影響について予測解析し、施工影



響を評価するための水文調査計画を立案しました。

堤内地で噴砂痕が複数確認され、災害復旧への対応が迫られる中、重要水源である漁協井戸への配慮も必要な状況でした。地下水予測解析結果を丁寧に説明し、協議を重ねて漁協関係者の理解を得たことで災害復旧工事に着手できたこと、堤防安全性確認(2次元モデル)と周辺利水影響予測(3次元モデル)それぞれに適切な浸透流解析モデルを構築したこと等が評価されたポイントと思われます。

この受賞を励みとし、技術者としての更なる資質向上、安心・安全の社会資本整備に貢献していきたいと考えます。

## ◇ 優秀建設技術者のプロフィール

## ❖ 中国地方整備局長表彰

## ● 佐々木 真希生 氏

会社名：株式会社荒谷建設コンサルタント

職 位：道路部 道路設計課 次長

趣 味：2輪全般

## ● 受賞業務の概要と感想

この度、弊社が実施しました「令和3年度可部バイパス測量設計業務」に対して、中国地方整備局長より優秀建設技術者局長表彰を賜り、誠にありがとうございます。業務を通して、ご指導いただきました三次河川国道事務所の皆様には心より感謝いたします。

本業務では、一般国道54号可部バイパス延伸事業に関する設計説明会の実施と事業用地の確定を目的とした道路予備設計および法面・擁壁予備設計等を実施したものです。BIM/CIM活用業務として計画道路約1.5km(上下線セパレート)の



CIMモデルを作成し、設計説明会において道路完成イメージを確認するためのイメージ図や動画の作成、VR体験等に活用しました。完成イメージの共有によって地元関係者との円滑な合意形成が図られた点、目的遂行のためチーム一丸となって迅速かつ真摯に対応した点が高く評価されたと考えております。

この表彰を励みに、今後も社会資本整備へ貢献していけるよう更なる自己研鑽に努めたいと思います。

## ◇ 優秀建設技術者のプロフィール

## ❖ 中国地方整備局長表彰

## ● 李 宏樹 氏

会社名：株式会社荒谷建設コンサルタント

職 位：鳥取支社 技術部 技術部長

趣 味：映画鑑賞、スポーツ観戦(テレビ)

## ● 受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施しました「令和3年度松江国道事務所管内修繕測量設計業務」に対して、中国地方整備局長より優良業務表彰及び優秀建設技術者表彰を賜り誠にありがとうございます。業務遂行にあたり、ご指導いただきました松江国道事務所の皆様、ならびに関係者の皆様には、心より厚く御礼を申し上げます。

本業務は、令和3年度6月・7月・8月の集中豪雨による災害対応(測量・各種詳細設計・各種資料作成)、緊急点検(切土法面・遮音壁・グレーチング)、各種資料作成(倒竹防止対策・凍結防止剤自動散布装置効果検証等)、防災カルテ箇所の修



繕測量設計など多岐にわたる内容を実施した業務になります。

このうち、令和3年8月の集中豪雨により大規模地すべりが発生した国道9号小田地区の災害復旧について、令和4年12月開通に向け、測量・設計・関係機関協議を延滞なく対応できたこと、この事象を踏まえ、現道(国道9号)の脆弱性に関する資料作成を実施したことに対して高い評価をいただいたものと考えております。

今回の受賞を励みに、更なる自己研鑽に努め、社会資本整備に微力ながら貢献するとともに、若手技術者への技術継承に努めたいと考えております。

## ◇ 優秀建設技術者のプロフィール

### ※ 中国地方整備局長表彰

#### ● 河島 陽平 氏

会社名：中電技術コンサルタント株式会社

職 位：交通・都市本部 道路交通部 兼 先進技術センター 担当課長

趣 味：旅行、読書



#### ● 受賞業務の概要と感想

この度は、「令和4年度中国インフラDXセンターソフトコンテンツ他検討業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務請負団体表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございます。業務遂行にあたり、ご指導・ご協力頂きました中国地方整備局の皆様、ならびに関係者の皆様には、厚く御礼申し上げます。

本業務は、本年7月に暫定オープンされた中国インフラDXセンターで活用されているコンテンツ(AR、VR等)に関して計画・作成等を行った業務です。現場の生産性向上、働き方改革、DX人材育成など、未来の絵姿を示す整備シナリオ(案)の

提案を含め、発注者の皆様と議論を重ねながら一体となって取り組み、センター開所に向けた諸課題を組織的に取り組んで解決できたことを評価して頂いたものと考えております。

インフラ分野におけるDXを推進する上では、デジタルデータの活用に加えて、XRやAI、RPAなど多様な技術を柔軟に取り入れ、技術活用の最適化を進めながら取り組むことが重要であり、それらの技術を活用していく意識改革や人材育成が重要です。

今回の受賞を励みに、より一層の自己研鑽に努め、インフラ分野のDX推進に微力ながら貢献すると共に、DXを推進する人材の育成に努めていきたいと考えております。

## ◇ 優秀建設技術者のプロフィール

### ※ 中国地方整備局長表彰

#### ● 佐藤 孝治 氏

会社名：中電技術コンサルタント株式会社

職 位：河川砂防部 計画グループ グループ長

趣 味：野球、テニス



#### ● 受賞業務の概要と感想

この度は、「令和2年度千代川水系河川整備計画他検討業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務請負団体表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。業務遂行にあたり、御指導・御協力を頂きました鳥取河川国道事務所の皆様、ならびに関係者の皆様には、厚く御礼申し上げます。

本業務は、鳥取県の東部に位置し、鳥取市を貫流する一級水系千代川について、変更河川整備計画を策定するため、今後の治水対策に対する整備目標や整備内容の他、関係機関協

議資料作成や学識者を交えた委員会運営補助を実施したものです。一級水系では、これまで2巡目の河川整備計画は策定されておらず、千代川が先行河川として策定することになりました。整備目標の設定や整備内容の妥当性は、至近の知見を踏まえた検討が必要となり、整備局や本省と繰り返し協議を実施するため、柔軟かつ迅速な対応や、工程管理を重視した業務遂行が高評価を頂けたと考えています。

この度の受賞を励みに、今後も土木技術者としてより一層の技術研鑽と、微力ながらも社会資本整備に尽力するとともに、将来を担う若手技術者の育成や指導に努めたいと思います。

## ◇ 優秀建設技術者のプロフィール

### ※ 中国地方整備局長表彰

#### ● 安木 進也 氏

会社名：株式会社長大

職 位：環境事業部 社会環境4部 部長代理

趣 味：料理、ビール、子供と公園



#### ● 受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施致しました「北条道路環境調査業務」に対し、中国地方整備局長より「優秀建設技術者表彰」ならびに「優良業務履行団体表彰」を賜り、誠に有難うございました。ご指導いただきました倉吉河川国道事務所の皆様、困難な業務と一緒に対応してくれた同僚の皆さんに心より御礼申し上げます。

本業務は北条道路において、道路建設に伴う風況の変化により発生が懸念される飛砂及び霜害の現況を把握し、今後適切な対応を行うため、風、霜、飛砂等の現地調査、道路完成後の予測評価等を行ったものです。霜や飛砂といった定形の

調査・予測手法がないものについて、質・量ともに十分な現地調査を行い、3次元シミュレーションによる高精度予測にて影響程度や具体的な対策を提案できたことが、評価につながったものと考えます。

私の出身は鳥取県であり、地元において仕事ができ、評価されたことは、本当に嬉しく、仕事をしていく上での大きな糧となりました。この受賞を励みとして、今後も中国地方の発展に貢献できるよう、引き続き技術研鑽、技術継承に取り組んで参ります。今後とも皆様方のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## ◇ 優秀建設技術者のプロフィール

## ❖ 中国地方整備局長表彰

## ● 湯本 圭輔 氏

会社名：株式会社長大

職 位：社会基盤事業本部 計画事業部 計画5部 部長

趣 味：読書、仏像鑑賞



## ● 受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施致しました「令和3年度広島国道管内交通円滑化検討業務」に対し、中国地方整備局長より「優秀建設技術者表彰」ならびに「優良業務履行団体表彰」を賜り、誠に有難うございました。

本業務は、地域における交通状況の把握、事故・渋滞等の交通課題の整理、社会経済状況・周辺の開発計画を踏まえた今後の広島都市圏の道路整備方針の検討を行うとともに、都市圏臨海部の東西軸を担う広島南道路(木材港西～廿日市)の新規事業化に向けた検討ならびに関係機関協議等の資料作成

を行いました。

新規事業化に向けては、ETC2.0等のビッグデータを用いた交通特性の可視化、橋梁形式の見直しによるコスト縮減、JCT部における道路設計など多岐にわたる検討を行いました。また、検討結果は3Dモデルをはじめ図表を多用した資料としてとりまとめ、道路計画の妥当性や必要性を的確かつ分かりやすく伝えることで、スムーズな調整に貢献したと考えます。

今回の受賞を励みに今後とも一層の努力に努め、刻一刻と変化する社会情勢においても必要とされる社会資本整備に貢献して参りたいと存じます。

## ◇ 優秀建設技術者のプロフィール

## ❖ 中国地方整備局長表彰

## ● 下 蘭 晋一郎 氏

会社名：日本工営株式会社

職 位：大阪支店 交通都市部 道路インフラマネジメントグループ課長

趣 味：スポーツ観戦



## ● 受賞業務の概要と感想

2カ年に渡る検討により、コンクリート構造物の品質確保・向上に向けたひび割れ制御対策の手引きを作成するため、規模の大きいコンクリート構造物を施工する際に発生する温度ひび割れについて検討した業務です。温度ひび割れ制御に関する設計時・施工時で各担当者が担う役割や照査方法、対策内容等を分かりやすく示した手引きを作成しました。

1年目は資料収集と手引き素案の作成、2年目は手引きの具体化の位置付けとして、2カ年に渡る検討であったことから、ロードマップを作成することにより、手引き作成の目的、最終

ゴールを見据えた検討プロセス、検討内容を明確化することで、検討内容の妥当性を示すことや手戻り防止を意識しました。また、本業務はアドバイザー会議によって、有識者に意見を頂きながら検討を進める必要がありました。短い期間の中で有識者の意見を汲み取りながら手引きを作成することは苦勞でしたが、実行性のある手引きをまとめあげることができた際は大きな喜びでした。今後、技術者が本手引きを活用し、各建設プロセスで担う役割を理解し、責任をもって取り組むことで、温度ひび割れが制御され、ひいては長寿命化に寄与することを期待します。

## ◇ 優秀建設技術者のプロフィール

## ❖ 中国地方整備局長表彰

## ● 朝長 哲也 氏

会社名：八千代エンジニアリング株式会社

職 位：大阪支店 河川・水工部 部長

趣 味：サッカー、フットサル



## ● 受賞業務の概要と感想

このたびは、弊社が実施しました「令和3年度三篠川樽原地区樋門詳細設計他業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務ならびに優秀技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。業務を通じてご指導賜りました太田川河川事務所の関係者の皆さまには、心より厚く御礼を申し上げます。

本業務は、三篠川樽原地区において、無動力フラップゲート式の剛支持樋門の予備・詳細設計を実施しました。また、丁地区において液状化に伴う地盤変形解析を行った耐震性能照査や川表翼壁などの樋門修正設計、同地区全体の築堤や護岸、

樋門などのBIM/CIMモデルを作成し、可視化による設計照査を実施するとともに、施工計画の検証や共有などの活用を目的に時間軸を付与した4Dモデルも作成しました。

業務全体を通して、発注者との密なコミュニケーション、解析や設計の複数作業を同時に実施する執行体制の構築と工程管理、CIMモデルといった新技術の導入などを、担当者全員で執行したことを評価していただいたものと考えております。

最後になりますが、今回の受賞を励みに、今後もさらなる自己研鑽に努め、新たな技術を積極的に取り入れて、社会資本整備に貢献していきたいです。

◇ 優秀建設技術者のプロフィール

❖ 中国地方整備局長表彰

● 吉屋 和彦 氏

会社名：復建調査設計株式会社

職 位：空間情報部 情報技術課 主任エンジニア

趣 味：子供と遊ぶこと



● 受賞業務の概要と感想

この度は、「令和4年度岡山倉敷立体他測量業務」において、中国地方整備局長より優良業務表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、厚く御礼申し上げます。

本業務では、一般国道2号の渋滞解消や渋滞に伴う事故削減を目的とした交差点立体化事業に必要な基礎資料を得るため、測量調査を行ったものになります。当該地は、交通量が非常に多く、道路占用物件の移設や既設水路及び架空送電線との離隔確保など、設計と条件が多い区間であることから、UAVレーザ測量による三次元点群測量を実施し、取得した点群データを展開して三次元地形モデルを作成しました。UAV

の飛行では安全性を考慮し、車道内上空では計測を行わない計測計画を立案したり、離発着地点は交通の妨げとなる歩道上是避け、事前に承諾を得た駐車場で行うなど安全管理に配慮するとともに、地元トラブルが発生しないよう現地入場に関する挨拶を徹底しました。

今回の受賞は心から嬉しく思っており、受賞が励みとなりました。今後はより一層の自己研鑽に努め、責任を持って社会に貢献していきたいと考えています。業務を通してご指導頂きました岡山国道事務所の皆様には心より感謝申し上げます。

◇ 優秀建設技術者のプロフィール

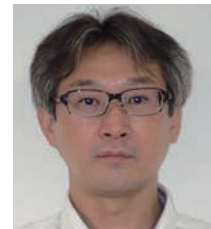
❖ 中国地方整備局長表彰

● 高 龍 氏

会社名：株式会社片平新日本技研

職 位：執行役員中国支店長

趣 味：ジョギング、スキー



● 受賞業務の概要と感想

本業務は、令和3年度と4年度に岡山国道事務所管内の国道30号と53号の道路橋と溝橋の定期点検及び第三者被害予防措置点検を行ったものであり、疲労亀裂の疑いのある鋼トラス橋等について磁粉探傷試験の詳細調査も行った。また横断歩道橋の定期点検と附属物点検も行っている。

側道橋や歩道橋等、幅員が狭い橋梁の点検に対して、小型橋梁点検車(MBI-70)や遮音壁・施設点検車(YZ30FC)等の

新技術を活用し、点検の効率化や安全性の向上に努めた。剥落片が落下した橋梁の緊急点検を行うと共に、床版補修工事中の橋梁に対して臨時点検を実施し対応方針を示した。一方、学生への現地点検実習等にも取り組み、公共事業への理解が深まるよう活動した。

業務を通じて、社内外の諸先輩方及び発注者様等、多くの方々にご指導頂き、無事業務を終えることができた。ここに感謝の意を表します。

## ■ 令和5年度 鳥取県委員会主要活動報告

鳥取県委員会 委員長 井上 孝之

### 1. 建コン協鳥取BIM/CIM勉強会(第8回)

令和5年10月6日(金)の開催に向け準備を進めていましたが、8月に発生した台風7号豪雨災害への応援業務のため中止となりました。

### 2. 鳥取県との意見交換会

例年11月に開催していました意見交換会は、令和6年2月6日(火)に延期となりました。

### 3. 鳥取大学への業界説明会

令和5年12月5日(火)鳥取大学工学部と農学部へ業界説明会を行いました。

今年は講師役に中国支部総務部会の杉山委員と高濱委員に会場にお越しいただき、参加学生へ熱のこもった業界説明となりました。

また、オンライン参加で中国支部若手の会の武田氏・岡本氏・妹尾氏から「建コンを選んだ理由、魅力、キャリアステップ」などわかり易く伝えていただきました。

講 師：杉山委員、高濱委員、武田氏・岡本氏・妹尾氏の以上5名

参加者：会場6名、WEB参加1名



鳥取大学工学部棟会場の模様



## 令和5年度 災害時対応演習

災害時対応演習は、「災害時行動計画」に基づき、災害対策本部、災害対策現地本部、並びに各災害対策支部が参加して、大災害の発生を想定して演習を行いました。本年度は、北海道日高沖を震源とする大規模地震・津波が発生したことを想定し、災害対策北海道支部に現地対策本部を設置し、地震発生時における災害対策が円滑に遂行されること、各支部との

連絡体制及び支援要請に対する的確に対応することを目的に実施しました。中国支部内では、本部スケジュールの中で災害対策中国支部を設置して、会員各社へ連絡体制の確保を目的として被災情報を支部へ通報及び災害対策本部からの応援要請に対する支援の確認等を行いました。

### 地震発生概要

地震発生日時：令和5年9月1日(金) 11:00

地震発生地域：北海道日高沖

地震規模：日高沖を震源とするマグニチュード8.2の地震が発生し、苫小牧市および浦河町で最大震度6強を観測した。その他の北海道太平洋沿岸部を中心に震度5強～震度4を観測した。また、この地震に伴い津波が発生し、釧路市付近およびえりも町付近で5mの高さ、苫小牧市、登別市付近においても2～3mの高さの津波が発生した。

- 被災状況：(1) 人的被害：死者・行方不明者数850名  
 (2) 建物被害：全壊棟数500棟、半壊1,000棟、一部破損3,000棟以上  
 (3) 道路被害：国・道道500ヶ所以上で路面・構造物被害  
 (4) ライフライン被害：電気、ガス、上下水道の施設被害多数  
 (5) 港湾被害：岸壁エプロン部亀裂および液状化箇所多数  
 (6) 河川被害：堤防崩壊100箇所以上発生  
 (7) 鉄道被害：JR在来線および北海道新幹線において運転休止が発生

### 演習の主要項目

演習の主眼は連絡・伝達網及びその機能のチェックとする。

- (1) 本部(災害対策本部)と支部(災害対策北海道現地本部ならびに他の全支部の災害対策支部)との連絡・伝達網が正常に機能できるか否かを検討する。
- (2) 支部(災害対策北海道現地本部ならびに他の全支部の災害対策支部)と会員各社との連絡網が正常に機能できるか否かを検討する。
- (3) 会員会社は出来るだけ同時に各社ごと演習を行い、その成果を検証する。

## 中国支部独自の演習

中国支部は、災害対策中国支部を復建調査設計(株)会議室に立ち上げ、本部との連絡体制の確認を行いました。

また、中国支部独自の取り組みとして災害対策支部設置、会員各社との連絡体制の確保の被害状況報告及び本部から要請のあった北海道支部管内の支援について、会員各社からの支援要請に対して各社に判断いただき連絡体制の確認を行いました。

令和5年度の参加会員社数は、連絡確認30社、支援回答29社でした。



災害対策中国支部の演習状況

## ●中国支部との災害協定締結状況(令和5年12月現在)

### (1) 中国地方整備局

協定締結先：中国地方整備局長

協定締結日：平成24年4月2日

協定参加会員：50社

目的：地震、大雨、台風等の異常な自然現象及び予期できない災害等の場合に、中国地方整備局が管理、または工事中の施設等において発生した災害の応急対策業務に関し、緊急的な応急対策調査・設計を実施するにあたり、協会は協力して被害の拡大防止と被害施設の早期復旧に資する。

### (2) 鳥取県

協定締結先：鳥取県知事

協定締結日：平成26年7月2日

令和2年4月20日改訂

協定参加会員：24社

目的：災害時における県民の生命、身体及び財産の安全並びに生活を確保するための応援業務において、協会の協力を得て迅速かつ的確に実施できるよう、必要な基本的事項を定める。

(3) 広島高速道路公社

協定締結先：広島高速道路公社理事長

協定締結日：平成31年3月1日

協定参加会員：50社

目的：地震、大雨、台風等の異常な自然現象又は予想できない災害等の場合に、所管施設において発生した災害の緊急的な応急対策業務に関し、協会の支援を受けて業務を実施することにより、被害の拡大防止と被害施設の早期復旧に資する。

(4) 広島県、広島県内23市町

協定締結先：広島県知事、県内23市町の首長

協定締結日：令和3年6月11日

協定参加会員：19社

目的：広島県内に暴風、洪水、高潮、地震その他の異常な天然現象により大規模な災害が発生した場合における協会及び協会会員の支援協力について必要な事項を定め、公共土木施設の被災箇所の情報収集・調査・把握、その後の公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法施行令第6条第1項の規定による申請及び復旧工事を実施するための測量・設計を迅速に行う。

(5) 本州四国連絡高速道路株式会社

協定締結先：本州四国連絡高速道路株式会社 岡山管理センター

協定締結日：令和5年2月1日

協定参加会員：9社

目的：地震、大雨、台風等の異常な自然現象又は予想できない災害等の場合に、甲が管理する施設において発生した災害の応急対策業務に関し、緊急的な応急対策調査・設計を実施するにあたり、協力して被害の拡大防止と被災施設の早期復旧に資することを目的とする。



## ■ 若手の会 活動報告

### 1. 組織の目的、メンバー

中国支部若手の会は、魅力ある建設コンサルタント業界の実現のため、業界で働く若手からアクションを起こすべく、平成28年11月に設立しました。現在は、①生産性向上、②若手人材の交流、③業界PR、④リクルートを活動の軸にしています。

メンバーは26名(13社、平均年齢29歳)で、4つの軸を2チームで活動しています。

No	所属企業	メンバー
1	相生エンジニアリング(株)	岩瀬 大佑
2		高橋 祐貴 ▲
3	(株)荒谷建設コンサルタント	青山 芹奈
4		國本 裕也
5		桑原健二郎 ◎
6	いであ(株)	熊谷 憲一
7		増井 優哉
8		森 淳輝
9	(株)ウエスコ	福岡 航大
10		堀田 健斗
11	(株)エイト日本技術開発	門脇 悠太
12		川畑 輝起
13		吉見 和
14	(株)オリエンタルコンサルタンツ	妹尾 優大
15	シンワ技研コンサルタント(株)	岡本 裕希
16		武田 和希
17	大日本コンサルタント(株)	小泉 陸人
18		山田 聡志
19	中電技術コンサルタント(株)	井野口慎之輔 ▲
20		竹本幸士郎
21	パシフィックコンサルタンツ(株)	田原 正隆
22		森川 裕基
23	(株)ヒロコン	青野 光輝
24		上戸田拓也 ◆
25	(株)福山コンサルタント	濱崎 瑛貴 ◆
26	復建調査設計(株)	西原 章太

◎:代表 ▲:業界PRリーダー ◆:生産性向上リーダー

### 2. 令和5年の活動内容

#### 1) 生産性向上について

前年度行った意識調査アンケートの「必要なマインド」に関する設問で、若手社員から「ストレス耐性(ストレスを受け流す)」という意見が挙がりました。その意見をもとに、(株)リスクルに講師を委託し、レジリエンス強化研修を実施しました。中国支部及び他支部から計25名が参加し、レジリエンス(メンタルダメージによる生産性低下の防止や早期回復)について学びました。



#### 2) 若手人材の交流について

前年度行った意識調査アンケートで「参加したい企画」に関する設問で、若手社員から「同世代とつながる交友イベント」という意見が挙がりました。その意見をもとに、広島市内のカフェを貸切り、入社10年目までを対象にした若手懇親交流会を実施しました。約40名が参加し、コロナ禍で減少していた業界内の交友を深めました。



### 3) 業界PRについて

① SNS(Instagram、note)を運用し、協会や若手の会の活動、業界ネタなどを紹介しています。Instagramはフォロワーが約360名となり、記事のいいね!が50個つくようになりました。引き続き、業界内でもフォローいただけるとうれしくなります。



② 来期企画に向けて、子ども向けドローン体験をトライアル開催しました。保護者、子どもの意見を来期企画に活かしていきます。



③ 一般の方に親しみを持ってもらうために、動物キャラで業界あるあるなどを紹介するPRマンガを広島在住のイラストレーターと制作中です(2023年12月時点)。

### 4) リクルートについて

総務部会主催の学生向け業界説明会(呉高専、鳥取大学)に参加し、若手の会メンバーは自身の業務紹介を行いました。呉高専では学生との対話形式にチャレンジし、学生たちの職場見学につながりました。



### 5) その他

① 本部若手の会主催のWILLSUMMITに中国支部から2名参加し、本部・他支部メンバーと話し合う中で、組織を越境したつながりをつくりました。



② ①のつながりを活かし、近畿支部・北陸支部の若手組織と、それぞれが行っている学生向け業界説明会について、意見交換をWEBにて行いました。

③ 総務部会主催の小学校5~6年生向けまちあるき企画に参加し、参加した保護者、子どもへの説明を行いました。



### 3. 令和6年の活動について

令和5年度は、「建コンではたらく人、学生、子どもに向けた企画を考えて、実行する」をミッションとして活動しました。目標の動員数100人に対して、約7割の結果でしたが、実行力がつきました。本年度の経験を活かし、令和6年度も引き続き、建コンではたらく人、学生、子どもに向けた企画を実行し、魅力ある建設コンサルタント業界の実現を目指していきます。



## ■ 大学・高専への業界説明会開催

総務部会では、大学生、高専生に建設コンサルタントの仕事の内容や魅力、やりがいなどを伝え、業界を理解し、一人でも多くの学生に就業していただくことを目的として、大学・高専に赴き業界説明会を行っています。

ここ数年は若手の会の協力を得て、若手目線での業界の魅力ややりがいなども伝えていきます。

今年は、会社訪問を実施した事例もあります。今年度説明会を開催した大学・高専は以下の通りです。

建設コンサルタントの認知度はあまり高いとは言えず、今後も地道な広報活動を行っていきたいと考えています。

### 令和5年度業界説明会開催大学・高専

開催月日	大学・高専名	参加者数
R5.6.7	山口大学(対面実施)	3年生:約90名
R5.7.4	呉高等専門学校(対面実施)	3年生:43名
R5.10.24	山口大学(対面実施)	1年生:80名
R5.11.2	松江工業高等専門学校(対面実施)	4年生:43名
R5.12.5	鳥取大学工学部(対面+WEB)	7名
R5.12.6	島根大学総合理工学部(対面実施)	3年生:50名
R5.12.21	広島工業大学(対面実施)	1年生:51名 2年生:55名
R6.1.11	広島工業大学(対面実施)	1年生:60名 2年生:57名



鳥取大学 WEB説明会(R5.12.5)



呉高専説明会(R5.7.4)



鳥取大学 WEB説明会(R5.12.5)



会社訪問状況



## ■ 講習会等

### ● 建設関連5団体共催独禁法講習会

開催日：令和5年10月12日(木)

場所：広島県民文化センター

主催：建設コンサルタンツ協会中国支部、日本補償コンサルタント協会、全国上下水道コンサルタント協会中国・四国支部、全測連中国地区協議会、中国地質調査業協会

内容：・独占禁止法の遵守について 公正取引委員会事務総局近畿中国四国事務所  
中国支所 総務課 浅川 敬宏氏  
・建設コンサルタント業務等の入札契約制度について  
中国地方整備局技術調整管理官 山田 明氏

参加者：5団体96社 173名(建設コン協中国支部24社 69名)

事業者が行う経済取引における公正な競争の促進に必要な“独占禁止法上の遵守事項等”を再認識し、不祥事を未然に防止することを目的に平成6年度から実施しています。

## ■ 建設技術フォーラム2023inちゅうごく

「建設技術フォーラム2023inちゅうごく」は、令和5年10月24日(火)～10月25日(水)に開催されました。

今年のテーマは、「防災・減災、国土強靱化とインフラDX」～デジタル技術の躍進により災害に屈しない国土を目指す～として開催されました。今年度は、メイン会場として広島産業会館東展示館でのリアル開催とオンライン会場の併用開催、さらに特設会場として中国技術事務所での開催となりました。

リアル開催には、96ブース、オンライン展示89社が参加(建設コンサルタンツ協会中国支部からは、エイト日本技術開発、荒谷建設コンサルタント、いであ、中央開発、中電技術コンサルタント、ウエスコ、日本工営、八千代エンジニアリング、復建調査設計の9社の参加)

来場者数は、約2,700名 来場校 7校311名でした。

特設会場では、中国インフラDXセンターのDX体験と中国地方整備局が保有するTECFORCE 機材の展示を行いました。

基調講演

「国土交通省におけるインフラ分野のDX」

…国土交通省大臣官房

森下 博之 参事官



開会式テープカット



参加者のブース

## ■ 土木の役割、魅力に触れる～まちあるき～ の開催

総務部会  
部会長 來山 尚義

### ●経緯

中国支部総務部会では、毎年、大学、高専に出向き、業界説明会を実施しています。この一環として、土木を目指す人を少しでも増やそうと、小学生を対象に、土木の役割、魅力に触れる～まちあるき～を企画し、この度実施しました。

### ●概要

行事名：土木の役割、魅力に触れる  
～まちあるき～

主 催：中国支部総務部会

日 時：令和5年11月18日(土)  
13:30～16:00

参加者：小学生5,6年生、保護者

工 程：アストラムライン不動院前バス停集合  
～太田川大芝水門～国道54号線牛田  
地下道～広島市牛田浄水場、水道資  
料館～新牛田公園～太田川牛田樋管～  
本川京橋川分水～工兵橋～アストラム  
ライン白島駅解散

### ●当日の概要

偶然にも土木の日に重なった当日、午前中は雨が降り、開催が危ぶまれましたが、午後は一転晴れとなり、無事開催することができました。

開催場所に近い小学校と、建コン協中国支部の会員への案内により応募があった7組14名に、総務部会と若手の会から7名の説明者が加わり、計21名の集団で出発しました。

主要な箇所立ち止まり、土木施設の概要や役割などを説明しました。歩く途中では、クイズラリーをしたり、疑問に答えたり、和気あいあいと進みました。

途中、休憩を兼ねて立ち寄った水道資料館では、床面に貼ってある広島地域の航空写真を見ながら、ダムや川が蛇行している様子、断層が多くあることなどを説明し、とても興味を持って聞いてもらいました。

最後に、吊り橋の工兵橋を渡り、クイズラリーの答え合わせをして、解散となりました。

参加者からは、“普段何気なく見ている土木施設がどのように作られどんな役割をしているか分かった”、“土木施設の大きさを感じた”などの意見もあり、概ね好評でした。

### ●今後の活動

今回、初めての試みでしたが、参加者集めに苦労した、小学生にわかりやすい説明ができなかった、などの反省もあります。これらの反省をもとに、企画を考え、来年度以降も続けていきたいと思っています。



## ■ 官民合同新年互礼会

令和6年官民合同新年互礼会は、1月4日(木)にリーガロイヤルホテル広島において開催されました。国歌斉唱で始まり、広島県建設工業協会の檜山会長の新年挨拶に続き、来賓の中国地方整備局長、広島県土木建築局長、

広島市都市整備局長、広島高速道路公社理事長及び西日本高速道路㈱中国支社長の挨拶が行われました。本年は参加者に制限はなくなりました。

(参加者：約600名 支部参加者：62名)



檜山広島県建設工業協会会長のあいさつ



中崎中国地方整備局長のあいさつ



## ■ 業務部会の開催

### 第1回業務部会

開催日：令和5年6月12日(月)

場 所：広島YMCA国際文化センター本館  
4階404号

内 容：令和4年度第3回業務部会議事録の  
確認  
令和4年度発注機関との意見交換会開  
催結果について  
令和4年度協会本部・中国支部意見交  
換会について  
令和5年度業務部会関連行事について  
令和5年度中国ブロック意見交換会に  
ついて  
令和5年度中国地方発注機関別意見  
交換会について  
中期行動計画(2023～2026)について  
業務部会ワーキンググループの設置に  
ついて  
その他

### 第2回業務部会

開催日：令和5年9月5日(火)

場 所：広島YMCA国際文化センター本館  
4階404号

内 容：令和5年度第1回業務部会議事録の  
確認  
令和5年度中国地方ブロック意見交換  
会開催結果について  
令和5年度中国地方発注機関別意見  
交換会について  
令和6年度地方ブロック意見交換会「要  
望と提案」に関する意見聴取結果につ  
いて  
中国支部業務部会ワーキンググルー  
プの設置について  
令和4年度就業実態の調査について  
その他

### 第3回業務部会

開催日：令和6年1月23日(火)

場 所：広島YMCA国際文化センター403号  
室

内 容：令和5年度発注者との意見交換会開催  
結果について  
令和6年度ブロック意見交換会について  
令和5年度協会本部・中国支部意見交  
換会について  
その他



## 令和5年度 意見交換会実施概要

意見交換実施先	発注者側出席者	建コン側出席者
1. 中国地方ブロック (中国地方整備局・ 中国5県・岡山市・ 広島市) (R5.8.10)	<p>&lt;中国地方整備局&gt; 中崎局長 牧野副局長、岩崎副局長 企画部長、河川部長、道路部長 港湾空港部長、営繕部長 技術調整管理官、技術開発調整官 技術管理課長、技術管理課課長補佐</p> <p>&lt;各県・岡山市・広島市&gt; 鳥取県土木整備部技術企画課長 島根県土木部技術管理課長 岡山県土木部技術総括監 広島県土木建築局建設企画担当部長 広島県土木建築局技術企画課技術管理担当監 山口県土木建築部技術管理課長 山口県土木建築部技術管理課主査 岡山市財政局財務部監理検査課課長 広島市都市整備局次長</p>	<p>&lt;建コン協本部&gt; 中村会長 大本副会長(対外活動委員長) 多田副会長 常任理事(総務部会長) 常任理事(企画部会長) 常任理事(技術部会長) 常任理事(情報部会長・広報戦略委員長)代理 常任理事(資格・CPD部会長) 常任理事(東北支部長) 常任理事(近畿支部長) 常任理事(四国支部長) 常任理事(九州支部長) 対外活動部会委員 常任委員長 対活副委員長 参与・企画部長、業務部長、企画部次長</p> <p>&lt;中国支部&gt; 小田支部長 坪井副支部長、小谷副支部長 川口支部理事、來山常任委員 金本業務部会長 吉岡業務部会副部会長 業務部会委員 16名</p>
2. 中国地方整備局 (R5.11.14)	<p>舟橋企画部長 企画部技術調整管理官 企画部技術開発調整官 企画部技術管理課長 企画部技術管理課課長補佐</p>	<p>小田支部長 坪井副支部長、小谷副支部長 永田技術部会長 山本技術部会副部会長、金本業務部会長 吉岡業務部会副部会長、 業務部会委員 15名</p>
3. 広島県 (R5.11.16)	<p>細羽建設企画担当部長 建設産業課長、建設産業課主査 技術企画課技術管理担当監 技術企画課主査 2名 建設DX担当課長、建設DX担当主査</p>	<p>小田支部長 坪井副支部長 來山総務部会長 山本技術部副会長、木原技術部会委員 金本業務部会長、吉岡業務部会副部会長 業務部会委員 10名</p>
4. 広島市 (R5.11.24)	<p>三宅都市整備局次長 都市整備局技術管理課長 都市整備局技術管理課建築管理担当課長 財政局契約部工事契約課長 道路交通局道路部街路課長 下水道局施設部管路課建設担当課長 都市整備局技術管理課課長補佐 3名 都市整備局技術管理課主任技師</p>	<p>小田支部長 坪井副支部長 金本業務部会長 吉岡業務部会副部会長 業務部会委員 2名</p>
5. 広島高速道路公社 (R5.11.7)	<p>友道理事(総括) 総務部長、保全管理部長 企画調査部長、建設部長、 建設第一課長、技術管理課長</p>	<p>小田支部長 坪井副支部長 來山総務部会長、永田技術部会長 金本業務部会長、吉岡業務部会副部会長 業務部会委員 3名</p>

追記 令和6年1月19日(金)に岡山県との意見交換会及び令和6年2月6日(火)に鳥取県との意見交換会が開催されました。諸事録等内容については、JCCA中国53号に掲載する予定です。

## ■ 中国ブロック意見交換会(R5.8.10開催)

令和5年8月10日(木)に広島市南区のTKPガーデンシティ広島駅前大橋において、国土交通省中国地方整備局をはじめ中国地方5県と広島市、及び岡山市の発注者と建コン協本部の意見交換会が開催されました。

国土交通省からは中崎局長をはじめ12名の幹部職員が、自治体からは中国5県、広島市、岡山市から9名の幹部職員が出席されました。

建コン側からは、中村会長をはじめ本部の副会長・理事等18名が出席し、中国支部からは小田支部長と坪井副支部長、小谷副支部長、

川口支部理事、來山常任委員、金本業務部会長、吉岡業務部会副会長および業務委員16名の合計23名が出席しました。建コン協から「建設コンサルタントの要望と提案」と調査資料集等を提示し、Ⅰ.担い手確保・育成のための環境整備、Ⅱ.技術力による選定、Ⅲ.品質の確保・向上、Ⅳ.「DX推進の環境整備」と「成長と分配の好循環の実現」の4項目について、忌憚のない意見を交わすことができました。

意見交換会の議事の要旨は、下表の通りです。



地方ブロック意見交換会の状況

### ● 発注者との意見交換会要旨

#### ■ 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

##### I. 担い手確保・育成のための環境整備

【建コン協 働き方改革 スローガン:完全週休2日・深夜残業ゼロの実現(長時間労働の解消)】

##### (1) 建設産業全体の働き方改革と生産性向上に向けた受発注者協働による取組み推進・強化

##### ① 履行期限(納期)の平準化と標準履行期間の確保への取組み強化

1) 建設コンサルタント業務の納期分散の実現のため、設計変更後の目指すべき納期目標(建設コンサルタント業務の第1四半期20%程度・第2四半期30%程度・第3四半期15%程度・第4四半期35%程度・3月15%以内)と整合を図った施策の強化と計画的展開、および施策の活用状況の把握

→ 国債(ゼロ国債・2ヶ年国債)・翌債の活用(秋納期業務の発注)

→ 繰越の柔軟な運用

→ 前倒し発注等発注時期の分散化

##### <中国地方整備局からの回答>

- 中国地方整備局では、履行期限の平準化の取組みとして、毎年度平準化目標を定め、各事務所等で目標を達成するよう国債、翌債等を活用して計画的な業務発注に努めており、国債、翌債等の業務件数は、毎年増加しています。また、工期延期が生じた場合は繰り越しを柔軟に活用して、できる限り履行期限が第4四半期にならないように取り組んでおります。



■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

- 令和4年度の平準化の結果としては、履行期限が第4四半期となる件数の割合が目標42%以下に対して50%、その内3月は目標30%以下に対して約34%で、目標達成には至っていないものの、目標値に近づいており、更なる分析と対応策の周知徹底が必要と認識しております。
- 令和5年度も更なる平準化を図るため、第4四半期で40%以下、3月30%以下を新たな目標として取り組んでいるところです。引き続き、履行期限が第4四半期になることを削減させるとともに履行期限の平準化に努めて参ります。

- 2) 発注時および変更時における条件明示の徹底により、標準履行期間を踏まえた適切な履行期間の確保(BIM/CIM対応や第三者照査期間、測量や地質調査等関連調査の進捗具合など)  
→標準履行期間を確保できない場合の履行期限の延期

<中国地方整備局からの回答>

- 詳細設計業務においては、発注時に条件明示チェックシートに基づき設計条件を明示しており、①基本的な設計条件・計画条件、②関係機関との調整実施、③貸与資料、において必要な設計条件等を受注者へ確実に明示するとともに、適正な履行期間の確認も行うこととしております。
- BIM/CIM対応や第三者照査期間を考慮した履行期間をどの程度確保するかにつきましては、貴協会のご意見を伺うなどして、必要な工期の確保に努めて参ります。
- 受注者の責に帰することができない理由により、当初予定していた履行期間が確保できなくなった場合は、受発注者で協議の上、適切な工期の確保に努めております。
- 標準作業期間(標準履行期間)については、適切な設定となるよう受発注者間で情報共有を図っていくことが重要と考えておりますので、引き続き貴協会のご協力をお願いします。

- 3) 年度末納期と技術提案書作成時期の重複を解消するためのプロポーザル方式・総合評価落札方式業務の公示・提案時期の分散化

<中国地方整備局からの回答>

- 年度末における業務負担の更なる軽減を図るため、早期発注や国債等を活用しつつ、業務の平準化及び公示時期の分散化について、引き続き取り組んで参ります。

- 4) 業務スケジュール管理表に基づく適確な契約管理(変更契約時期の適切化：3月実施の回避等)

<中国地方整備局からの回答>

- 業務スケジュール管理表は、全ての「詳細設計業務」及び「検討業務等」で作成することとしております。
- 作成した業務スケジュール管理表に基づいた適正管理を徹底することで、履行期限が3月にならないように努めて参ります。

- ① 履行期限(納期)の平準化と標準履行期間の確保への取組み強化

【1）・2）・3）・4)についての自治体からの回答】

<鳥取県からの回答>

- ゼロ県債、早期繰越を活用することで、履行期限の平準化、適正工期の確保に取り組んでいます。
- 業務関係標準積算基準に基づき、適切に履行期間を算定することとしています。また必要に応じて履行期限の延長も柔軟に行うこととしています。
- プロポーザル方式及び技術提案型の総合評価落札方式による発注件数は少ない状況であるが、公告、提案時期の分散化にも配慮していきます。
- 鳥取県では、業務スケジュール管理表で管理していませんが、設計図書への条件明示のほか、履行報告書によるスケジュールの管理、ワンデーレスポンスの徹底により、業務の管理を行っています。

## ■ 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

### <島根県からの回答>

- 納期分散については、引き続き早期の債務設定や繰越手続きを行うこと等により、工期の分散が図られるよう努めていきます。
- 発注時(変更時)の条件明示について、設計図書、特記仕様書等に業務の内容・条件を明示することとしており、今後とも徹底に努めていきます。また、履行期限の延期につきましては、受注者の責によらない場合、契約変更の手引きに従い対応して参ります。
- プロポーザル・総合評価落札方式業務について、現時点では発注件数が多くないため分散化の取組予定はありませんが、今後とも動向を注視していきます。
- 業務スケジュール管理表の導入は行っていませんが、引き続き早期の債務設定等により年度末に過度な契約手続きの集中が発生しないよう努めていきます。

### <岡山県からの回答>

- 本県では、第4四半期納期率の目標も踏まえ、建設産業の働き方改革に資するようゼロ県債や2か年債務、翌債を活用し、前倒し発注や履行期限(納期)の分散化、標準履行期間の確保に努めているところであり、引き続き、履行期限(納期)の平準化や標準履行期間の確保に努めてまいります。
- また、条件変更等により、適切な履行期間が確保できない場合には、必要に応じて履行期限の延期等の対応をしてまいります。(第4四半期納期率の令和5年度目標：0.40)

### <広島県からの回答>

- 履行期間の算定にあたっては、外業・内業日数や不稼働係数を考慮した計算式を用いるとともに、発注時の翌債の活用や繰越の柔軟な運用を行うことで、適切な履行期間の確保に取り組んでいるところです。
- 履行期限に影響する条件等については、設計図書へ明示することとしております。
- また、業務内容の追加等により、履行期間に変更が生じる場合は、適切な履行期間の確保が可能となるよう努めてまいります。
- 計画的な受注に繋がるよう、業務の発注時期・内容等について、4半期毎に発注見通しとして公表しております。
- 業務スケジュール管理表については導入していませんが、現状、受注者から提出される工程計画及び履行状況を毎月確認しております。なお、計画と実施にズレが生じる恐れがある場合は、受発注者間において原因とその対応について共有し、改善に努めることとしております。

### <山口県からの回答>

- 本県では目指すべき納期目標は設定していませんが、ゼロ県債や翌債の活用、繰越の柔軟な運用、早期発注による計画的な事業執行により、適正な工期の確保や納期の平準化を図っているところです。
- 関連業務等に関する設計条件については、発注時に設計図書に明示するよう努めており、契約後にやむを得ない理由により年度内に業務が完了しない場合は、繰越制度の活用により適正な履行期間を確保するよう工期延伸を行っています。
- 現状、プロポーザル方式や総合評価落札方式による発注件数は少ない状況であるため、公告・提案時期の分散化が急務な状況にはありませんが、発注に当たっては留意いたします。
- 業務工程については、受注者からの実績報告や打合せ協議等により適宜、進捗状況の把握を行っています。変更契約については適時的確に締結し、3月実施の回避に努めてまいります。

### <岡山市からの回答>

- 履行期限の平準化の取組として、目標値を40%に掲げ、ゼロ市債や繰越設定なども活用しながら、計画的な業務発注に努めているところです。
- 今後も業務の平準化及び発注時期の分散化について引き続き取り組んでまいります。

■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

<広島市からの回答>

- 本市では、履行期限が年度末に集中することがないように、発注の平準化や計画的な早期執行に努めています。
- 業務スケジュール管理表を用いた管理については、受発注者間の協議により適宜協議し進捗確認を行っております。

② 受発注者協働によるワークライフバランスの更なる改善に向けての施策の推進・強化

1) 「ウィークリースタンス」の全業務への適用、実施計画および実施報告による確実な推進と地方自治体への展開の一層の強化

<中国地方整備局からの回答>

- 平成30年12月より、全ての業務を対象にウィークリースタンスの取り組みとして、  
「水曜日は、勤務時間外の連絡及び16時以降に掛かる打合せは行わない。」  
「水曜日に資料作成依頼を行う場合は、翌日木曜日を期限日としない。」  
「金曜日に資料作成依頼を行う場合は、翌週月曜日を期限日としない。」  
「資料作成依頼を正規の勤務時間外には行わない」  
「資料作成依頼を行う場合には、適切な期間を確保し期限を設定する。」  
の5項目を特記仕様書に記載し、ワークライフバランスの改善を進めております。また、令和元年7月以降に契約した業務では、ウィークリースタンスの実施状況の記録と、特記仕様書に示した実施報告シートにより、完成検査で検査職員に状況報告していただくとともに、技術管理課に電子メールで提出してもらう取り組みを行っています。
- 令和4年度のウィークリースタンス報告案件のうち、取組が達成できた業務は9割を占めています。
- このような結果を踏まえながら、引き続き、取り組み状況を確認し、ワークライフバランスの改善に努めます。

2) 新たな取り組みや好事例の水平展開の更なる推進

<中国地方整備局からの回答>

- ウィークリースタンスの実施状況については、地整ウェブサイトよりエクセル様式をダウンロード頂き、技術管理課に電子メールで提出してもらう取組を行っていますが、今後は、webアンケート方式などの検討により、効率化を図っていく予定です。
- 取組については、他地整や地方自治体にも情報共有を図っていきます。

3) 深夜・休日勤務につながる業務指示、待機指示(委員会对応業務に多い)の削減と解釈の違い等による手戻り発生や過剰要求による作業量増大を排除するために、特記仕様書および協議記録簿への具体的記述と業務実施内容の相互確認の徹底

<中国地方整備局からの回答>

- 業務内容により統一的な対応が難しい部分がありますが、発注者として受注者のワークライフバランスに配慮し、業務の指示等は深夜や休日勤務等が生じないように、事務所に対し引き続き指導して参ります。
- また、手戻りの発生や過剰要求による作業量増大の排除についても、引き続き事務所を指導して参りますので、受発注者相互確認の徹底におきましては貴協会のご協力も合わせてお願いします。



## ■ 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

- 4) 実態に即した適切な費用計上(緊急時のやむを得ない場合における短期的深夜対応・休日出勤等に対する割り増し)

### <中国地方整備局からの回答>

- 緊急時等において短期間での作業となる場合は、実態に即した歩掛見積により、適切に設計変更を行います。

- 5) 計画系業務を含む幅広い業務を対象とした業務スケジュール管理表及びワンデーレスポンスの実施等の徹底

### <中国地方整備局からの回答>

- 業務スケジュール管理表については、計画系業務などについても「検討業務等」の様式を積極的に活用すること、ワンデーレスポンスについては、全ての業務を対象とすることとして、事務連絡を发出しております。特記仕様書にも記載するよう、引き続き適切な対応に努めるよう事務所を指導して参ります。
- また、様式改善などの課題がありましたら、情報提供をお願いします。

- 6) 入札・契約関連書類の統一ならびに簡素化による事務負担軽減

### <中国地方整備局からの回答>

- 入札・契約関係書類について、中国地方整備局では書類の統一化を図っているところです。
- 平成29年度から実施している一括審査方式について、令和5年度は対象業務を更に拡大して実施しているところです。
- また、令和2年5月からプロポーサル方式や総合評価落札方式における評価テーマ数の削減等の対応を行っており、受注者の事務負担軽減に努めているところです。
- 引き続き、事務の負担軽減となるよう努めて参ります。

## (2) 受発注者協働による災害対応に向けた継続的な環境改善

- ① 被災地域に対する迅速かつ適切な災害対応(費用面を含む)と改正労働基準法遵守との両立

- 1) 災害対応業務への従事職員が対応していた既往業務への効果的な対応(業務一時中止命令や工期延期の実施、管理技術者交代要件の緩和)

### <中国地方整備局からの回答>

- 災害対応等が必要となった場合は、受注者と情報共有を図り、業務の一時中止や工期延期など、迅速な災害復旧を優先した円滑で柔軟な対応を行うよう取り組んでいるところです。
- 管理技術者の交代については、やむを得ない事由(死亡、傷病、退職、出産、育児、介護等)がある場合は認めております。仕様書等への交代要件の記載の要望等があれば、本省に伝えて参ります。

- 2) 災害対応業務への従事職員に対して労働基準法第33条の適切・確実な適用に関する厚生労働省への働きかけ

### <中国地方整備局からの回答>

- 労働基準法第33条については、厚生労働省から各都道府県労働局長への通知(令和元年6月7日)が発出されており、「地震、災害、風水害、雪害、爆発、火災等の災害への対応(差し迫った恐れがある場合における事前の対応含む。)、急病への対応その他の人命又は公益を保護するための必要」については、36協定で定めた限度とは別に労働時間の延長等が認められております。また、平成30年9月18日通知より、地質調査、測量及び建設コンサルタント業務も対象となる事業場として認められているところです。

■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

- 3) 広域(複数の発注者)にまたがる災害対応マネジメントに対する受発注者協働での支援体制・仕組みの整備・充実(国による災害指定に関する対応、災害対応の要請の一元化、早期の支援体制構築のための被害情報収集を目的とした協会からの自主的なリエゾン派遣の検討、官民合同の災害訓練開催、ICT技術の活用など)及び地方自治体に対する国の支援

<中国地方整備局からの回答>

- 中国地方整備局では、平成24年度に「災害時における中国地方整備局所管施設の災害応急対策業務に関する協定」を貴協会と締結しており、広域にまたがる災害においても迅速に対応できる体制を整えているところです。
- 地方自治体支援としては、災害時の資機材提供等に関する協定を5県2市と締結しており、また、リエゾン派遣については中国管内全市町村と協定を締結するなど、支援体制を構築しております。
- 中国地方整備局では、毎年総合水防演習を開催しております。貴協会としても積極的な参加をお願いします。
- 災害調査において、要請があった場合は貴協会のご協力をお願いするとともに、様々なICT技術を積極的に活用して参りますので、貴協会からも先進事例の情報提供等をお願いします。

- 4) 緊急的な災害対応業務実施に対する表彰制度の拡充と水平展開

<中国地方整備局からの回答>

- 中国地方整備局では、災害応急対策や防災活動に対する協力又は支援等において、特に顕著な功績があった団体を「災害対策関係功労者」として表彰しています。

(3) 人材確保・育成

- ① 若手・女性・シニアなど多様な技術者の活用・育成のための入札・契約制度の改善の継続(若手：技術者表彰制度の導入とその有効活用など)(女性：担い手(女性)育成支援：女性を含めた様々な技術者が係る制度の試行・改善など)(シニア：照査技術者を継続できる評価制度、管理技術者実績ではなく照査技術者実績を評価・考慮など)

<中国地方整備局からの回答>

- 若手技術者等の活躍・育成のために、平成26年度よりプロポーザル方式、総合評価落札方式の業務において、若手技術者(45歳以下)を管理技術者として配置する場合は管理補助技術者を配置できる取り組みを行っております。
- さらに、令和5年度からは、配置予定管理技術者に40歳以下の若手技術者を配置する場合は、入札手続きにおける選定・指名段階で2点、特定・入札段階で1点を加点点評価することとしております。
- また、若手技術者を担当技術者として配置しやすくするために、担当技術者のうち評価点上位者で評価する方法への見直し等も行っております。
- 令和2年度よりプロポーザル方式の業務を対象に、女性技術者の活躍を含めた働き方改革の一環として、厚生労働省の認定制度である「くるみん」「えるぼし」の認定企業に入札参加時の加点点評価を行うこととしております。
- 経験豊富なシニア技術者に継続的に照査技術者等として活躍してもらうことは、品質確保や技術の伝承からも有益だと考えており、中国地方整備局での照査技術者の実績評価では、照査技術者として従事した実績も評価することとしております。

<鳥取県からの回答>

- 本県では令和2年度から若手技術者を総合評価落札方式における配置予定技術者の加点点対象するとともに、若手技術者を対象とした優良技術者の表彰制度も設けています。

## ■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

- 若手技術者の育成支援として、若手技術者の業務従事機会の確保のためのモデル業務について、令和5年度からの実施を検討しています。
- 女性技術者、シニア技術者の活用に特化した制度はないため、国や他の自治体の事例を参考にさせていただきます。

### <島根県からの回答>

- R4年8月から、総合評価方式において、若手技術者の活用・育成を図るため、満35歳以下の技術者を担当技術者として配置する場合に加点する評価項目を導入しています。またこれに伴い、国の制度を参考にした「管理補助技術者制度」を総合評価方式において導入しました。
- ※「管理補助技術者制度」：管理技術者の経験の少ない若手技術者(満45歳以下)又は女性技術者を管理技術者として配置する場合、総合評価での加算点がベテラン技術者に比べ低くなるおそれがあることから、管理技術者としての経験、実績を有するベテラン技術者を「管理補助技術者」として管理技術者とは別に配置できる制度。
- 当該業務の総合評価での加算点は「管理補助技術者」で評価する。
- 当該業務の管理技術者としての実績は、若手又は女性管理技術者に付与する。
- 「管理補助技術者」は担当技術者で計上する。

### <岡山県からの回答>

- 本県では、来年度から優良業務委託表彰を行う予定としておりますが、技術者表彰制度の導入については、今後の検討課題であると考えております。
- また、女性技術者、シニア技術者の活用などを考慮した入札制度は実施しておりませんが、担い手確保等の観点から、国や他県の状況を参考に幅広く検討してまいりたいと考えております。

### <広島県からの回答>

- 若手(40歳以下)及び女性技術者については、総合評価落札方式の実績評価2型(企業及び技術者の業務成績評定点等を評価する型式)において管理技術者として配置する場合、加点評価することとしております。
- 照査技術者については、配置要件として管理技術者実績等を求めておらず、「技術士やRCCMの資格保有者又はこれと同等の能力と経験を有する技術者」としていることから、シニア技術者においても、必要な資格を有することで照査技術者として配置できることとしております。

### <山口県からの回答>

- 本県では、入札参加資格審査においては、子育て支援や女性活躍支援について評価していますが、若手・女性・シニア技術者の活用などを考慮した入札・契約制度は、現在のところ実施しておりません。
- 本年度から業務委託において、総合評価落札方式及び優良業務表彰制度を導入したところであり、多様な技術者の活用・育成に関して、将来的な評価項目への追加等について、国や先行する自治体の動向を研究し検討してまいります。

### <岡山市からの回答>

- 本市においては、現在のところ、若手・女性・シニアなどの技術者の活用・育成を考慮した入札制度は実施しておりませんが、今後は国や先行する自治体の動向を研究し、参考としていきたいと考えています。

### <広島市からの回答>

- 本市では、建設コンサルタント等業務において、若手技術者、女性技術者及びシニア技術者の活用・育成のための入札契約制度を実施していませんが、他の自治体等の状況を注視していきたいと考えています。



■ 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

II. 技術力による選定

(1) (国) プロポーザル方式・総合評価落札方式等の適確な運用・改善

① 計画系プロポーザル業務の業務規模の改善

<中国地方整備局からの回答>

- プロポーザル方式での業務発注にあたっては、技術者単価の上昇分を的確に反映した業務規模（発注金額）とするよう、検討して参ります。

② 国土交通省登録資格組合せ評価試行の適切な運用

- 1) 令和4年度、および令和5年度試行結果を踏まえた適切な対応
- 2) 本格導入については、余裕を持ったスケジュールでの導入

<中国地方整備局からの回答>

- 令和4年度の試行結果を踏まえ、技術士とRCCM・土木学会認定技術者の資格の組合せによる加点は行わないこととして、令和5年2月に試行内容を見直しております。
- 令和5年度は、技術士とRCCM・土木学会認定技術者以外の国土交通省登録技術者資格の組合せなどにより、より幅広い技術力を確保することで、業務成果の充実が期待出来る業務への試行を実施して参ります。
- また、本格導入にあたっては、試行結果を踏まえ、余裕を持ったスケジュールとなるよう本省に伝えて参ります。

(2) (地方自治体) 発注方式の改善(技術力を基本とした選定・発注の仕組みの導入促進)

改正品確法第22条の「発注関係事務の運用に関する指針(運用指針)」に基づき、発注者の役割、責任として、以下の発注方式への取組みを強化

- ① 業務の内容や地域の実情等に応じたプロポーザル方式・総合評価落札方式による発注量の増加
  - 1) 国の「斜め象限図」の周知と適用促進
  - 2) 技術力・品質に優れた企業が選定されず、くじびきによる選定が多発する価格のみによる一般競争入札の撤廃(不良不適格業者の排除、簡易な技術競争の導入促進)
  - 3) ブロック発注者協議会での技術力を基本とする発注方式の議論

<鳥取県からの回答>

- 本県では令和4年度から予定価格が300万円以上については総合評価落札方式による発注を基本とする入札制度に改正を行ったところです。
- 総合評価落札方式の対象業務の選定についても国の「斜め象限図」も参考としながら定めており、発注機関にも情報提供を行っています。

<島根県からの回答>

- 本県では「斜め象限図」を参考に、業務が高度になるに従って、価格競争、総合評価方式、プロポーザル方式の順で落札方式の選定を行っています。(R2年度実績：総合評価6件、R3年度実績：総合評価5件・プロポーザル1件、R4年度実績：総合評価9件・プロポーザル2件)
- 本県では、くじ引きによる選定はほとんど発生していません。今後も、本県の実情を踏まえ、国および他県の取組状況等を参考にしながら、入札制度の検討を行って参りたいと考えています。
- ブロック発注者協議会では業務委託の発注方式の議論は特に行っていませんが、今後、各県の発注方式の実態など情報交換を行って本県に適した発注方式を検討したいと考えています。

## ■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

### <岡山県からの回答>

- 本県では、プロポーザル方式は業務内容に応じて高度な調査設計業務等において個別に実施しているところであり、今後も必要に応じて実施してまいります。また、土木工事の建設コンサルタント等業務では総合評価落札方式は実施しておりませんが、制度の導入については今後、検討してまいりたいと考えております。

### <広島県からの回答>

- 業務の発注にあたっては、業務内容を踏まえた適切な発注方式を選定しているところです。
- プロポーザル方式については、技術的に特殊・高度な業務や、設計成果が変化する可能性がある業務等において実施しているところです。
- 総合評価落札方式については、入札者の提示する技術等によって、事業の成果に差違が生じることが期待できる業務に適用しております。令和5年6月からは、原則として、災害復旧事業に伴う業務や技術的難易度の低い調査業務や点検業務を除く、請負対象設計金額1,500万円以上の測量・建設コンサルタント等業務に適用を拡大しており、内容に応じて技術評価型や実績評価型を選定しているところです。

### <山口県からの回答>

- 本県では、プロポーザル方式の統一的な制度運用はしていませんが、個別案件として、令和2年度から技術的難易度が高い一部の業務においてプロポーザル方式を実施しています。
- 本年度から、一部の土木関係コンサルタント業務において総合評価方式を試行導入したところであり、その事務処理要領の策定に当たっては、「斜め象限図」を含む国のガイドラインを参考にしています。
- 今後も制度の試行状況や先行する国や他の自治体の状況等を参考にしながら、制度の本格導入に向けた検討を進めてまいります。

### <岡山市からの回答>

- 建設コンサルタント業務等の発注方法は原則一般競争入札としているが、必要に応じて個別にプロポーザル方式を実施しているところであり、プロポーザル方式については積極的な活用を進めていきます。
- 入札契約方法の選択については、国や先行する自治体の事例を研究し、今後の参考としていきたいと考えています。

### <広島市からの回答>

- 本市の土木関係の建設コンサルタント業務において、プロポーザル方式や総合評価落札方式の事例はありませんが、創造性や高度な技術力等が求められる建設コンサルタント業者を対象とした一部の委託業務においては、プロポーザル方式や総合評価落札方式の事例が数件あります。
- プロポーザル方式や総合評価落札方式の技術競争による発注方式の活用については、今後、発注関係事務の改善に向けた更なる取組を推進する必要があることを踏まえ、国の動向や他の政令市の状況等を注視し検討してまいりたいと考えています。

■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

(3) (国、地方自治体)地域の担い手づくりのための地域コンサルタントの活用の拡大と育成

① 地域のコンサルタントの技術力向上が図れる仕組みの導入促進

<中国地方整備局からの回答>

- 地域コンサルタントの技術力向上や育成を目的に、令和2年度から「業務チャレンジ型」を試行しております。「業務チャレンジ型」は、業務成績、表彰実績を評価せず、災害協力・災害協定締結などの地域貢献度を評価し、求める実施方針を簡易なものとする事で、国土交通省の実績がない企業の競争参加機会を確保するものです。
- 令和5年度からは、これまで2,000万円以下の業務を対象としていたものを、金額による制限をなくす改善をしたところです。
- また、令和2年9月からは、土木関係建設コンサルタント業務において、地元企業でも対応可能な業種(測量、地質調査)を含む業務を対象とした「地元企業参加型(JV評価)」を試行しております。地元企業参加JVでの参加者数が少ない状況であることから、貴協会員への周知をお願いします。
- 引き続き、技術力向上や育成を目的としたこれらの仕組みを活用し、地域コンサルタントの受注機会確保に努めて参ります。

Ⅲ. 品質の確保・向上

(1) 受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み

① 設計条件明示チェックシートの契約図書としての明確化(業務公示時の特記仕様書に添付)及び受発注者双方の効果的な運用・活用

<中国地方整備局からの回答>

- 予備設計等で作成した条件明示チェックシートを基に、事務所で「設計業務の条件明示検討会(仮称)」を開催し、詳細設計業務発注時に明示すべき設計条件を確認することとしております。
- 条件明示チェックシートについては、契約後の業務着手時等に受注者に提示することとして特記仕様書記載例にも明示しており、その確実な運用について、事務所等への周知徹底を図っているところです。

<鳥取県からの回答>

- 特記仕様書に、条件明示チェックシートの活用を明示し、効率的な運用を図ることとしています。

<島根県からの回答>

- 令和3年度より業務条件書を整備し、特記仕様書とともに設計条件を明示する取組を行っています。今後も効果的に活用できるように努めます。

<岡山県からの回答>

- 本県では、設計条件明示チェックシートは活用しておらず、特殊な設計条件等がある場合には、発注時に特記仕様書に明示することとしておりますが、他県の状況を注視しながら検討して参りたいと考えています。

<広島県からの回答>

- 条件明示チェックシートは導入しておりませんが、特記仕様書において業務発注毎に設計条件を明示することとしております。
- なお、条件明示チェックシートの取組みについては、国や他県の動向を踏まえ、検討してまいります。



## ■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

### <山口県からの回答>

- 本県では、設計条件については特記仕様書や業務条件書に記載することとしており、設計条件明示チェックシートは利用していません。その利用については、国や他の自治体の状況を参考に今後研究してまいります。

### <岡山市からの回答>

- 本市では、設計条件については、設計書や特記仕様書などに記載し、積算条件の明示に努めています。条件明示チェックシートについては、発注者と受注者の双方にとって必要であり、導入に向けて、国や先行する自治体の状況を参考にしながら、引き続き検討してまいりたいと考えています。

### <広島市からの回答>

- 本市では、設計書や特記仕様書等に設計条件等を記載するなど、設計条件の明確化に努めています。設計条件明示チェックシートの活用につきましては、他の自治体等の状況を注視していきたいと考えています。

## (2) 詳細設計及び三者会議等における総合的な品質の確保

- ① 詳細設計における各工種の設計目的・設計条件・成果内容の明確化と適切な費用計上
  - 1) 施工計画における作業実態と歩掛との乖離の解消(見積り等により実態に即した費用計上)
  - 2) 特に指定仮設と任意仮設の仕様書や設計協議における違いの明確化、任意仮設と指定仮設の成果の取扱い(任意は参考図、指定は設計図)、その責任所在の明確化と歩掛の改善、指定仮設への条件変更時の設計変更

### <中国地方整備局からの回答>

- 作業実態と標準歩掛に乖離がある場合は、見積等により適切に費用計上するよう、引き続き指導を徹底して参りますので、必要に応じて発注者との協議をお願いします。

- 3) 関係機関協議内容の明示(機関名、協議内容、協議回数)、修正設計における“修正”設計内容の明示による適切な契約・設計変更

### <中国地方整備局からの回答>

- 関係機関協議による修正設計の必要が生じる場合は、適切な設計変更に努めて参りますので、必要に応じて発注者との協議をお願いします。

## (3) 維持管理・更新事業等における技術的課題解消に向けた発注契約方式などの改善

- ① 設計者・施工者連携方式(設計の受注者が工事段階で関与する方式、工事の受注者が設計段階から関与する方式(ECI方式))の検討等合理的な入札契約制度の選定
  - 1) ECI方式については、橋梁修繕の他、災害対応も含めた設計者・施工者連携方式として活用

### <中国地方整備局からの回答>

- 中国地方整備局では、技術提案・交渉方式「技術協力・施工タイプ」(ECI方式)を「国道2号大樋橋西高架橋工事」で活用したところであり、設計段階から施工者のノウハウを取り入れることにより効率的で安全な施工が可能となったこと等から、今後も、「工事の仕様の確定が困難な工事」「仕様の前提の決定が困難な工事」においては、技術提案・交渉方式の活用を検討します。
- また、橋梁修繕の他、災害対応も含めた設計者・施工者連携方式としても、要件が合致する案件がある場合においては、積極的な活用を検討します。

■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

② 点検・診断、補修・補強設計における適切な費用計上

1) 点検・診断における仕様や積算条件の明確化とそれに基づく実勢価格に応じた積算価格の設定

<中国地方整備局からの回答>

- 「橋梁定期点検要領」及び「橋梁における第三者被害予防措置要領(案)」に基づく橋梁点検は、橋梁定期点検業務等積算基準により積算しております。
- これらの要領によらない点検及び診断については、見積もりにより積算しておりますが、現地の状況等により積算条件が異なるため、積算条件を明確にした上で見積もりを行い、適切に積算を行うこととしております。

2) 補修・補強設計における条件明示と見積りによる適切な積算価格の設定、条件変更時の適切な設計変更

<中国地方整備局からの回答>

- 業務発注にあたっては、適正な条件明示に努めるとともに標準歩掛の適用がない設計にあたっては、見積もりによる積算を行っているところです。
- 引き続き、適正な条件明示と積算を行うよう事務所を指導して参ります。

③ 高度な技術が要求される場合の補修・補強設計業務におけるプロポーザル方式の採用

<中国地方整備局からの回答>

- 補修・補強設計業務の発注にあたっては、業務内容や規模等に応じ、適切な発注方式を選定しているところです。技術的に高度なものや専門的な技術を要する大規模又は特殊な構造物で、技術提案に基づいた仕様を作成することが優れた成果に結びつく業務については、プロポーザル方式の活用を行うこととしています。
- また、設計段階から施工者が関与することで、発注時に詳細仕様の確定が困難な事業に対応するECI方式による発注など、適切な発注方式を検討して参ります。

IV. 「DX推進の環境整備」と「成長と分配の好循環の実現」

(1) DXの推進

① 受発注者協働による働き方改革に資するDX推進：DX推進による業務効率化の促進

1) 電子入札システム、電子契約システムを活用した「書類の電子化(電子決済、ペーパーレス化)」「手続きの簡素化」「情報の共有化」「移動・郵送等の時間短縮」の促進

<中国地方整備局からの回答>

- 中国地方整備局では、令和4年12月20日に「中国地方整備局インフラDX推進計画2023」を策定し、各種取組を実施しているところです。
- 電子入札システム、電子契約システム等の既存のシステムの活用においては、提出や通知書類を郵送からシステムによる電子データの送受信に変更したり、FAXからメールでの送信に切り替えるなどの取組を実施しており、今後も手続きの簡素化や円滑な情報共有に繋がる取組を推進して参ります。

## ■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

### 2) 情報共有システム(ASP)を積極的に活用した「事業・業務の情報等に関する電子化」「情報共有化」の促進

#### <中国地方整備局からの回答>

- ・業務における情報共有システム(ASP)については、受注者の希望により一部で活用されておりましたが、受発注者双方の業務環境の改善による生産性向上をめざし、令和5年度からは、原則として全ての業務で情報共有システムを活用しているところです。

### 3) 遠隔臨場を積極的に活用して「移動時間や待ち時間の解消」「現場情報の共有化」の促進

#### <中国地方整備局からの回答>

- ・工事および業務の監督・検査業務における移動時間、時間調整および待機時間を削減するため、Webを活用した遠隔臨場を全面的に実施するとともに、フォローアップ調査を行い、課題を抽出、課題への対応についても検討して参ります。
- ・地質調査業務におけるボーリングの検尺においては、既に原則全ての業務を対象に遠隔臨場を実施しています。測量、設計等の現地確認作業時においても、webを活用する場面が考えられますので、工夫した取組をお願いします。

### 4) テレワークガイドライン(案)の活用、発注者のテレワーク環境整備の加速化、各種技術基準類の電子化・Web公開などの推進

#### <中国地方整備局からの回答>

- ・多様な働き方の実現のため、中国地方整備局では、どこでも繋がるネットワークを整備しており、テレワーク環境整備を加速化しております。
- ・また、中国地方整備局が公表している各種技術基準類については、「技術管理資料提供システム」による電子化を基本として情報公開しているところです。

### 5) 各発注機関のインフラDX推進計画や実施状況等の情報の公開

#### <中国地方整備局からの回答>

- ・中国地方整備局は令和4年12月20日に「中国地方整備局インフラDX推進計画2023」を策定しました。令和5年度は本計画に基づき、社会経済状況の変化に対応した社会資本整備や公共サービスを提供するとともに、建設現場の生産性向上を図りつつ、整備局職員を含めた建設業界の働き方改革を実現することを目指し、各種取組を実施しているところです。
- ・「中国地方整備局インフラDX推進計画2023」及び実施状況については、整備局ウェブサイトにて公表しております。

### ① 受発注者協働による働き方改革に資するDX推進：DX推進による業務効率化の促進 【1）・2）・3）・4）・5)についての自治体からの回答】

#### <鳥取県からの回答>

- ・本県では令和5年8月より電子契約を導入することとしています。
- ・これまで情報共有システムは工事のみを対象としていましたが、「鳥取県電子納品・情報共有運用ガイドライン」の改正を行い、R5.1.1以降、業務委託にも適用を拡大しています。
- ・「鳥取県建設工事・測量等業務の遠隔臨場に関する実施要領」を策定し、R5.1.1以降、遠隔臨場の適用を可能としています。



## ■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

- 本県では職員がテレワークの環境が整っています。各種技術基準類については、鳥取県のホームページで公開しています。
- 鳥取県では、従来からの業務システムを刷新し、生産工程におけるデータ取得と利活用を図りながら、受発注者双方の生産性向上、新技術を担う人材の確保・育成、さらには業界の働き方改革を実現するために、「とっとり建設DXマスタープラン」を今年度作成することとしており、完成後はホームページ等で公開する予定です。

### <島根県からの回答>

- 電子入札システムについては、既に県内15市町との共同利用を行っており、入札情報や資格申請手続等を電子化しています。電子契約については、R4から実証事業を実施しており、今後は効果検証をふまえて導入について検討していきます。
- ASPについて、R元年6月から試行を開始し、R3年4月からは「島根県発注工事等における情報共有システム実施要領」により、当初設計額2億円以上の工事について必須として運用しています。今後は、さらに利用促進に努めます。
- 遠隔臨場については、R2年10月から試行を開始し、R3年8月に全地方機関への機器を配備完了しており、受注者が希望した場合にも、容易に取り組みめる環境を整えています。
- テレワークガイドライン(案)の活用等については、引き続き国や他県の状況を参考にしつつ、業務の効率化につながるよう検討していきます。
- DX推進計画にあたるものとして、R4年3月に「島根県ICT総合戦略」を策定・公表しています。同戦略は、ICT利活用により各種産業のデジタル化を加速、県民の利便性向上や行政効率化等を目指すための、県が取るべき方向性及び施策目標をとりまとめており、毎年度実施状況などを更新し公表する予定です。

### <岡山県からの回答>

- 電子入札システムは活用済みですが、電子契約システムの導入については他県の状況を注視しながら検討を行ってまいりたいと考えております。
- 託業務の情報共有システムについては、機能の一部が利用できることとしておりますが、全面的な運用については、他県の状況を注視しながら検討してまいりたいと考えています。
- 遠隔臨場については、本年度から試行を開始したところであり、今後、効果や課題等の検証を行ってまいりたいと考えております。
- 各種技術基準類の電子化、Web公開については、著作権の問題も含めて研究してまいりたいと考えております。
- DX推進については、岡山県DX推進指針に基づき、激甚化・頻発化する自然災害への備えやインフラの老朽化、担い手不足等、建設分野における課題に対応するため、3次元データやビッグデータ等のデジタルデータとAIやIoT等のデジタル技術を活用し、安全・安心や生産性の向上を図る取組を推進することとしており、本年度は、航空レーザ測量を活用した3次元デジタル地形図整備事業及び道路維持管理DX事業を推進しております。

### <広島県からの回答>

- 電子入札システムについては、平成16年度から建設工事及び建設コンサルタント業務の入札に利用しています。また、電子契約システムについては、導入に向けて検討を進めているところです。
- 情報共有システムについては、平成25年度から電子納品を行う全ての案件を対象に、県が調達した情報共有システムを利用することとしております。

## ■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

- 遠隔臨場については、令和3年10月から、「建設現場等の遠隔臨場に関する試行要領」を制定し、受注者から希望があった場合の業務を対象に実施することとしております。また、令和5年5月に試行要領を改定しており、遠隔臨場の更なる促進に努めているところです。なお、遠隔臨場に必要となる機材(リース料)や通信費は、設計変更で計上できることとしています。
- テレワークについては、令和元年度に全職員がテレワークを実施できる環境を整備し、情報共有システムやWEB会議システム等を活用した、打合せや検査を実施しているところです。なお、WEB会議等の機材(リース料)や通信費は、設計変更で計上できることとしています。また、設計図書の電子閲覧や、共通仕様書や標準積算基準書などの基準書類の電子化・Web公開も行っております。
- 本県においては、建設分野における調査、設計、施工から維持管理のあらゆる段階において、デジタル技術を最大限に活用し、官民が連携してインフラ(公共土木施設等)をより効果的・効率的にマネジメント(管理・運営)していくため、目指す姿や具体的な50項目の取組案をとりまとめた「広島デジフラ構想」を令和3年3月に策定し、地方機関も含め取組を推進しているところです。
- なお、「広島デジフラ構想」の取組については、毎年上半期、下半期毎に進捗状況をとりまとめ、公表しております。(https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hiroshimadejihurakousou/)

### <山口県からの回答>

- 本県においては、電子入札システム、電子契約システムともに導入済みです。
- 情報共有システム(ASP)及び遠隔臨場について、全ての工事及び業務を対象として、受注者が希望する場合に活用できるものとしています。
- テレワークについては、デスクトップPCからノートPCへの更新やWEB会議のソフト導入、公用携帯番号の付与等により実施可能な環境を整備しています。また、県の各種技術基準やマニュアル等については県のホームページ上で公開しています。
- 山口県建設DX推進計画(第零版)を今年2月に策定・公表しています。計画では、産学官が協働してDXを推進するとともに、今後の社会情勢の変化や技術開発の進展等を踏まえ、新たな取組を追加するなど、柔軟にアップデートしながら、建設産業の担い手不足や自然災害の激甚化・頻発化、インフラの老朽化などの課題に取り組むこととしています。

### <岡山市からの回答>

- 一般競争入札の案件においては、全て電子入札を実施しています。また、参加資格の確認書類についても電子化を図っているところです。
- 電子契約については、国や先行する自治体の事例を研究し、今後の参考としていきたいと考えています。
- 情報共有システム(ASP)については、昨年度から一部の工事で試行的に活用を予定しています。
- 遠隔臨場については、岡山市が発注するすべての工事(営繕工事及び小規模工事を除く)を対象とし、受注者希望型で実施しているところです。また業務委託では未実施であり、今後他都市の状況をみて検討してまいりたいと考えています。

### <広島市からの回答>

- 現在導入している電子入札システムについては、業務効率化の観点から改善の余地がないかを、また電子契約システムについては、その導入等に関し、他の自治体等の状況などを参考に検討していきたいと考えています。
- 情報共有システム及び遠隔臨場のコンサルタント業務への活用促進については、今後、他の自治体等の状況などを参考に検討していきたいと考えています。

■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

- 本市職員のテレワークについては、コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、限定的なものとなっています。また、WEB会議については機器の充実や会議用の空間を確保するなど、推進に向けて取り組んでいます。
- 本市では「広島市DX推進計画」を令和4年に策定し、HP上で公開しております。また、実施状況については今後公開する予定です。

② i-ConおよびBIM/CIMの推進(ライフサイクルマネジメントの生産性向上)

- 1) BIM/CIM設計照査シートの充実(対象工種の拡充、段階的に必要となる照査項目の設定、「条件明示チェックシート」および「工事発注時チェックシート」との整合性の確保)

<中国地方整備局からの回答>

- 3次元モデルの設計照査については、「BIM/CIM設計照査シートの運用ガイドライン(案)」のBIM/CIM設計照査シートで定められている照査項目を確認することで、成果の品質確保や手戻り防止等につながると考えております。BIM/CIM設計照査シートの充実については、貴協会のご協力のもと取り組んで参ります。

- 2) 積極的な活用事例の発信(BIM/CIMポータルサイトの活用)や協議の場の設置(例えば、適用PTによる推奨項目の拡充など)

<中国地方整備局からの回答>

- 中国地方整備局では、令和元年度から令和2年度にかけて実施された事例をもとに「BIM/CIM活用の手引き(案)」をとりまとめております。今後は、令和5年度から位置づけられた推奨項目の拡充に繋がる事例の収集により、手引きを改訂し活用事例の発信に繋げていく予定です。
- また、この手引き案を活用していただくべく、外部識者で構成される「中国地方生産性向上研究会」と連携しながら積極的な発信について取り組んで参ります。
- また、貴協会と山陰西部国道事務所が策定した「設計・施工のための点群データ活用ガイドライン(案)」については、他の事務所等への横展開を図っていきたいと考えておりますので、引き続きご協力をお願いします。

- 3) デジタル情報のサプライチェーンの構築に向けた「IFC検定制度」の活用による3Dソフトの開発目標の明確化、照査の自動化およびアノテーション機能等の強化の開発促進の要請、東京大学i-con寄付講座協調領域検討会と協働によるAPIの開発のあり方や生産性向上に資するアプリケーション開発の検討の促進

<中国地方整備局からの回答>

- 3Dソフトの開発における制度構築や開発目標、あるいは機能の強化については、業界の状況や意見を参考にしながら、本省と国総研が連携して取り組んでいると聞いています。
- ご要望等については、本省や国総研に伝えて参ります。

- 4) BIM/CIMモデルを管理・継承するマネジメント体制・役割の検討の促進

<中国地方整備局からの回答>

- BIM/CIMモデルを管理・継承するマネジメント体制・役割については、今後の課題と認識しており、勉強して参りたい。



## ■ 広島高速道路公社との意見交換会(R5.11.7開催)

令和5年11月7日(火)広島市南区のTKPガーデンシティ広島駅前大橋において、広島高速道路公社と建コン協中国支部の意見交換会が開催されました。

広島高速道路公社からは友道理事(総括)をはじめ7名の幹部職員が、中国支部からは小田支部長と坪井副支部長、來山総務部会長、金本業務部会長をはじめ11名が出席しました。

第2回開催の今回は、広島高速道路公社及び中国支部から、提出資料を基に説明を行い、その後それぞれの資料の内容について自由討論となりました。

広島高速道路公社資料

- ① 広島高速道路公社の事業(高速5号線、連結路)、広島高速道路の事業展開
- ② 令和5年度測量・建設コンサルタント等業務発注見通し、広島高速道路公社中期発注見通し

建設コンサルタンツ協会中国支部資料

- ① 建設コンサルタント業界の実情
- ② ICT委員会の活動内容と事例紹介
- ③ 協会が関係する勉強会・技術研修の紹介

意見交換会の議事の要旨は、下表の通りです。

### ● 広島高速道路公社との意見交換会要旨

#### ■ 広島高速道路公社・建設コンサルタンツ協会からの情報提供と意見交換

##### I. 広島高速道路公社から情報提供

##### (1) 広島高速道路公社の事業(実施中の事業、今後の事業展開)

###### ① 高速5号線の整備状況

- 広島高速道路公社が施行する都市高速道路事業と広島市が施行する道路事業の合併施行により事業を推進
- 二葉の里地区及び中山地区について、高架橋などの構造物は概ね完成
- 現在は牛田地区でトンネル工事、温品地区で橋梁工事を施工中

###### ② 高速5号線シールドトンネル工事の進捗状況

- トンネル区間は全体で1.8km、そのうちシールド工法で掘削している区間は1.4kmであり、早期の工事完了を目指している。

###### ③ 高速2-5号線 連結路の工事進捗状況

- 令和4年9月、高速5号線本線と連結路の接続部分の橋梁工事に着手した。残る橋梁工事についても順次発注しており、下部工および上部工について公告している。
- トンネル区間と同様に早期完成に向けて工事を進めていく。

###### ④ 広島高速道路を取り巻く状況の変化、広島都市圏における開発の進展

- 広島都市圏は、サッカースタジアムの建設、沿岸部の開発、紙屋町・八丁堀地区との開発、広島空港の広域拠点としての機能強化、広島駅周辺地区の開発が進められている。
- 広島高速道路公社においては、これらの開発計画の進展にあわせて、また広島南道路などの幹線道路の整備にあわせて高速道路のネットワーク整備を進めていくことにしている。

## ■ 広島高速道路公社・建設コンサルタンツ協会からの情報提供と意見交換

### ⑤ 広島高速道路の今後の事業展開

- 今後の事業展開の前に、幹線道路の整備の状況等について説明したい。まず東広島・安芸バイパスが令和5年3月19日に供用開始し、引き続き明神高架橋を中国地方整備局にて整備をいただいている。また、西広島バイパスの延伸についても来年から事業着手すると聞いている。さらに、広島南道路についても木材港以西が昨年度事業化されている。今後10年位で様変わりするのではないかと考えている。
- 広島高速道路公社としては、まず高速2号線について早期に取り組みたいと考えている。明神高架橋の工事促進に加え、東広島・安芸バイパスに接続する西条バイパスの4車線化が今年度から進められる予定であり、これらが完成すると交通量の増加が見込まれるため、4車線化と東雲南向きランプ整備の早期事業化に取り組む。
- 高速3号線についても4車線化を早期に進めたい。広島南道路の整備あるいは沿線の開発、商工センター地区のまちづくり計画の進展にあわせ、高速3号線の整備に対応していく。
- 高速4号線の山陽自動車道への接続について、現在、広島市において環境アセスメント等の準備が進められている。手続きが終わればすぐにでも事業化したいと考えている。
- 高速1~5号線だけでなく、東部線Ⅱ期や南北線等についても事業化の検討を行っていききたい。

### ⑥ 道路施設の老朽化に伴う更新

- 全国の高速道路会社の動向として、本年6月にNEXCOや首都高速等の高速道路会社において改修費などを確保できるように、更なる料金徴収期限の延長を可能とする改正法が成立(最長2065年まで⇒最長2115年まで)
- 他の高速道路会社に比べ、比較的施設の新しい広島高速道路においても、広島高速1号線の一部区間で橋梁の経年劣化(約40年経過)が進行し健全性に課題が生じつつあることから、今年度から早期に措置すべきものについて床板取替などの対策工事に着手している。
- 広島高速道路公社における今後の対応として、更新時期の到来を見据え、計画的な施設更新ができるように財源の確保などに取り組んでいきたいと考えている。
- さらに、管理コストの低減や利便性の向上を目的としたETCの専用化、温品パーキングエリアの駐車場拡張計画にも取り組んでいきたい。

## (2) 今年度および中期の発注見通し

### ① 令和5年度測量・建設コンサルタント等業務発注見通し(令和5年11月1日時点)

- 今年度は高速5号線や連結路の整備に向けた調査・設計を発注しており、皆様の協力を得て多くの業務において事業を進めている。
- 今後の予定としては、調査業務等の発注を予定している。

### ② 中期発注見通しの公表(令和5年10月2日時点)

- 令和6年度・7年度の発注見込みとしては、高速5号線の工事に伴う調査業務が主となっている。
- 新規路線の事業化が計画に位置付けられ、事業実施の段階となったら、いち早くお知らせできるよう公表を行っていききたい。

## ■ 広島高速道路公社・建設コンサルタンツ協会からの情報提供と意見交換

### ■ 意見交換

#### 【建設コンサルタンツ中国支部からの質問】

- 維持管理が今後益々重要となってくると思われるが、40年で対策が必要となった要因として、予想よりも交通量が多かったのか、建設当時の資材等の問題なのか、わかる範囲で教えていただきたい。

#### 【広島高速道路公社からの回答】

- 高速1号線は供用して37~38年と最も古い路線であるが、損傷が著しい原因が大きく2つあると考えている。1つは整備年度が古いということで、当時の床板防水の水準が低かったため、鉄筋の腐食や腐食膨張による劣化の進行が考えられる。もう1つは、気温が下がる地区のある高速1号線では管理水準を確保するため凍結防止剤を散布していることから腐食が進みやすい環境にある。平成26年から法令点検を実施しており、点検の結果をみて損傷が進んでいる箇所は床板の取替等を行っている。今後はできるだけ大規模な改修を行わず長く構造物をもたせる取り組みが必要と考えている。
- 適切な償還を行うため交通量や維持管理費、建設投資に向けた検討を進めている。これについて建設コンサルタンツ協会の皆様の知恵を拝借しながら、よい事業展開ができるように検討していきたいので、協力をお願いしたい。

#### 【建設コンサルタンツ中国支部からの意見】

- 高速1号線は切土区間が多いので、構造物の保全が都市部よりも少なく済むと思われるが、全体を管理しようとするとうまくいかず手間がかかってしまう。このため、施工時の状況や交通量の状況をみながら重点的に対応していかざるを得ない面がでてきている。他の自治体では2割もできていないという実態もある。床板防水がしっかりできているところは40年でなく50~60年もつであろうと思われるので、それらを見極めていく時代になっていくのではないかと考えている。

## II. 建設コンサルタンツ協会中国支部からの情報提供

### (1) 建設コンサルタンツ協会の実情について

本日の資料は令和5年8月10日に開催された令和5年度中国地方ブロック意見交換会において、建設コンサルタンツ協会から国、地方公共団体に対して提示した「要望と提案」のうち主要項目について取りまとめたものである。今後に向かっての課題整理の一助になると考えている。また国、地方公共団体に対して提示した「要望と提案」であり、広島高速道路公社に対する「要望と提案」というわけではないので、その点をご理解いただきたい。

#### ① 担い手確保・育成のための環境整備

- 労働基準法の改正により、残業時間の上限規制が制定され、罰則規定も設けられている。建設コンサルタントにおいては「働き方改革」は継続的に必要と考えている。
- 一人当たりの月別所定外労働時間について全国の建設コンサルタンツ協会を対象とした調査結果を見ると、1月~3月、特に3月の所定外労働時間が多くなっており、課題と考えている。
- その原因の一つとして認識しているのが、業務の履行期限(納期)であり、変更契約後の納期が1月~3月、特に3月末に集中している。
- このような状況から国および地方公共団体に対して履行期限(納期)の平準化をお願いしている。



## ■ 広島高速道路公社・建設コンサルタンツ協会からの情報提供と意見交換

- 協会自体も取り組みをしていかないといけないということで、ウィークリースタンスの取り組みを受発注者協働で行っている。実施状況を地整ごとに調査した結果、すべての地整で9割方実施ができている。ウィークリースタンスはかなり浸透ができていると認識している。また、協会内で実施の効果を調査した結果では、「自分たちのペースで仕事をすることができた」、「休日出勤が減り、身体を休めることができた」、「週に一度はノー残業デーを実施できた」など、ウィークリースタンスの取り組みは時間外の縮減にある程度効果があるという認識を持っており、今後も受発注者協働でのウィークリースタンスの実践が必要なものと考えている。
- 協会では、人材不足が顕著になってきている。若手・女性・シニアなど多様な技術者の活躍のための環境整備が必要と認識しており、一つの例として入札・契約制度の改善をとおした環境整備が必要ということで国・地方公共団体をお願いしている。
- 環境整備(制度導入)の例として、国の取り組みを「令和5年度 地方ブロック意見交換会 要望と提案【調査資料集】」pp90～93に記載しているので参考にさせていただきたい。

### ② 技術力による選定

- 国土交通省においては、プロポーザル方式・総合評価落札方式等、技術力による選定が浸透している。
- 難易度の高い業務における総合評価落札方式からプロポーザル方式への移行、価格競争方式から総合評価落札方式への移行をお願いしている。
- 国土交通省における発注方式の構成比率は概ねプロポーザル方式40%程度、総合用落札方式50%程度、価格競争・随意契約が10%程度で長年推移している。
- 広島高速道路公社業務でも同様に技術力による選定を導入していただけており、その制度をさらに活用していただければと考えている。

### ③ DX推進の環境整備

- 受発注者協働による働き方改革に資するDXの推進が必要であると認識しており、具体的にはBIM/CIM、電子入札・電子契約・情報共有システム、遠隔臨場の活用推進が必要と考えている。
- BIM/CIMについてはかなり浸透してきていると認識している。電子入札・電子契約・情報共有システム、遠隔臨場については、それぞれのシステムを導入することにより書類の電子化、ペーパーレス化、手続きの簡素化、移動・輸送等の時間短縮、移動時間の短縮等にメリットがあると認識している。これらの活用推進を地方公共団体をお願いしている。
- 電子化に代表される情報技術の活用により業務の効率化が実現できるのではないかと考えている。

## ■ 意見交換

### 【広島高速道路公社からの質問】

- 広島高速道路公社ではまだ電子入札のシステムが確立されていない。どういった方法で取り入れるかを検討していきたいと考えている。公社内での職員のLANが立ち上がった段階であり、今後これを加速させてDXの推進に向けて努力していかなければならないと認識している。良い知恵があればお示しいただきたい。

### 【建設コンサルタンツ中国支部からの回答】

- 「令和5年度 地方ブロック意見交換会 要望と提案【調査資料集】別冊資料-① 建コン協としてのDXへの取り組み検討 テーマ1：受発注者協働による働き方改革に資するDX推進」の中で、関東・近畿・九州の3地方整備局の実態についてのみ状況が取りまとめられている。中国地区の中国地方整備局、5県、岡山市、広島市の状況については把握しきれていない。

## ■ 広島高速道路公社・建設コンサルタンツ協会からの情報提供と意見交換

今年度から来年度にかけてワーキングを作って調査をしていきたいと考えている。少なくとも電子入札システムは各地方公共団体で導入済みのものであるが、電子契約システムは広島県が今年度から開発を始められているようである。情報共有システムについては、広島県は工事中情報共有システムを早期に導入されている。遠隔臨場については、ボーリングの検尺が主と思われるが取り組みがされているところである。協会として情報収集を行い、必要な情報を提供していきたいと考えている。

### 【広島高速道路公社からの質問】

- 建設業界の技術者確保のため所定外労働時間対策は重要だと考えている。工期の設定・平準化、ウィークリースタンス、ワンデーレスポンスなど時期によって重要度が変わってくると思われるが、協会ですべて重要と思われるものがあれば示していただきたい。

### 【建設コンサルタンツ中国支部からの回答】

- 個人的な意見になるが、3月末に納期が集中する実態があり、改正労働基準法により単月の上限が設定されている中で、3月に業務が集中すると対応しづらいと考えている。納期の平準化が重要なポイントではないかと思っているが、これまでコンサルタント業務に従事してきたようにはいかないという実態も理解できる。翌債の活用により工期延伸や、早期発注していただけることが一つの方法ではないかと思っている。
- 国土交通省では「ウィークリースタンス実施報告シート」を作成し、令和元年7月1日以降に契約を行う全ての業務を対象に受注者から提出を求めているが、完成検査時に検査職員に報告となるので正直なところが記載されていない、積極的に提出されていないという課題がある。また、履行期限の平準化で第4四半期(1月～3月)の納期を40%以下とすることを目標としているが、変更後の工期では60%を超過しているのが実態であり、3月工期では40～45%となっている。平準化に向けて繰越や翌債の活用などの取り組みがされているが、目標未達となっている。
- 国土交通省では業務の平準化に向け、「条件明示チェックシート」の活用により条件明示の徹底に取り組んでいる。予備設計の段階で、この業務の中で条件を抽出してチェックシートを作成し、詳細設計を受注した業者に渡して、発注者と受注者で明示すべき条件と時期の確認を整理して、「業務スケジュール管理表」を作成し活用することの取り組みを行っている。また、業務の途中段階でもワンデーレスポンスにより早期の問題解決を図ることとしている。さらに、三者会議の実施により設計者側からの意図の説明、発注者側からの施工上の留意事項の説明、施工者から現場条件に適した技術提案の説明等を行い、それらに関する質疑応答を通じて、参加者間の情報共有を図ることとしており、平成29年から地質技術者等の参加による品質確保の試行も実施されている。
- 地質調査における遠隔臨場の試行により、時間の削減や事務所内において複数の担当者で確認を行うなどの取り組みが実施されている。また、最近ではコンクリート構造物の出来形管理においても部分的に遠隔臨場が実施されている。
- 先ほど建コン側から説明した資料において、当初納期では3月納期の数が1,600件程度であったものが、変更後は2,500件程度と900件近く増加している。業務スケジュール管理表に示される、初期の段階の基本条件の設定(道路条件や地質条件)が遅れや、関係機関との調整に時間を要したため、設計期間が不足することにより3月末まで工期が延伸されることが現実として発生している。一方、3月は次年度業務の契約時期になっている。プロポーザル、総合評価の現地確認・提案書作成の時期と重なってくる。基本条件の設定や関係機関との調整による遅れは国土交通省、地方自治体の個別の状況を踏まえながらどこを解決していきたい。広島高速道路公社は年度跨ぎ業務の発注が可能であるので、柔軟に対応していただければと考えている。

## ■ 広島高速道路公社・建設コンサルタンツ協会からの情報提供と意見交換

- 「令和5年度 地方ブロック意見交換会 要望と提案【調査資料集】」のp17に協会がイメージした「年度末納期集中の改善のための納期分散施策と納期目標の設定イメージ」を掲載している。またその下段に中国地方整備局の「業務サイクルを見直した平準化への取り組み」を掲載しているので紹介する。
- 工期延期については、一方では大型業務が延期になると「手持ち業務」が減らないという問題があるため、むやみに延期というのも協会としてはお願いしていない。

## (2) ICT委員会の活動と事例紹介

### ① ICT委員会について

- 協会中国支部技術部会には現在7つの委員会(河川、道路、構造、港湾、防災、地域計画、ICT)がある。
- ICT委員会は令和4年7月に設立することが決定された。これまで技術部会のなかでCIMワーキングとして活動を行っていたが、近年DXの推進ということで協会本部が環境整備を挙げているので、これに対応すべく、i-ConやBIM/CIM、ICT全般に関する新たに対応できる組織が支部内に必要ということで、昨年度から委員会を設置している。
- ICT委員会の活動は①i-ConstructionおよびBIM/CIMに関する事項、②各種ICT関連技術およびDX推進に関する事項、③地方整備局や関連する団体とのICT関連意見交換会等への参画、④ICT及びBIM/CIM関連の本部情報の共有である。
- 意見交換会の開催ということで、昨年度は広島県建設DX担当との意見交換会、近畿支部ICT委員会との意見交換会を実施している。
- 研修講師の派遣ということで、昨年から今年度にかけて中国地方整備局、広島市、岡山市に研修講師を派遣している。現在、広島高速道路公社とも研修開催に向けて対応しているところであり、11月下旬から12月上旬にかけて実施することで吉川課長と調整している。
- 立ち上げから1年しかたっていないため、いろいろな活動が手探りの面があるが、各社いろいろなレベルの差もあるので、その辺の状況を踏まえながら取り組むことによってお互いのレベルをアップしていくという活動を行っていききたい。またいろいろな発注者の方々との意見交換を通じて対応を強化していきたい。

### ② BIM/CIM活用事例の紹介

#### 1) モデルの種類と概要

- 3次元モデルの作成にあたって、使用目的が異なると作成データ、作成するレベル(尺度)が異なる。
- 道路分野で使用するモデルはICT建機への入力を主目的とした「土工形状モデル」と地元説明等の対外協議用ツールとして使われる「統合モデル(道路)」であり、使用目的によって異なる。
- 土工形状モデルはマシンガイダンスでバックホウを動かすためのデータで構成されたモデルである。
- 統合モデルは設計レベルによって詳細度が異なる。概略設計や道路予備設計Aは詳細度200であり、中心線をどこにもってくるかということを決めるレベルで標準横断をもって作成するレベルである。道路予備設計Bや道路詳細設計では詳細度300となり、具体的に路面表示を入れたり、ランプが入ってきたり、河川の付替や平面交差の道路などかなり細かいところまで作り込んでいくレベルとなる。



## ■ 広島高速道路公社・建設コンサルタンツ協会からの情報提供と意見交換

### 2) 統合モデルの活用事例

- 関係機関協議での活用では、警察と信号や標識の視認性等の確認や建築限界干渉の確認を行っている。
- AR技術の活用では、現地においてAR機器を用いて現地に投影することで、現地状況を確認しながら将来計画等のイメージを共有することが可能となる。
- 3次元モデルができると3Dプリンタで模型を作成し地元説明に活用することも可能となる。
- VR技術の活用では、VR鳥観図を作成することによりVRのモデル中で類似の周辺眺望、景観の確認が可能となる。
- ストリートビューのような連続する画像を作成し、現地の画像とデジタルの将来画像を対比しながら確認することも可能。

### 3) 設計レベルに応じた地形モデル

- UVレーザーで地形測量を行うことが増えると思われるが、点群データでは設計に必要な情報が表現されないため、設計に活用しづらい。
- このため、3次元地形モデルを作成することが必要であり、これにより路線測量が省略できるメリットも生じる。

### 4) その他

- 西広島バイパスについてデジタル空間モデルに計画の高架道路をはめ込んだモデルの紹介
- エキキタエリアの3次元都市空間作成モデル(デジタルツイン)の紹介

## (3) 協会が関係する勉強会・技術研修の紹介

### ① 広島高速道路公社 令和5年度橋梁設計勉強会について

- 今年度3回勉強会を開催することで計画している。
- 発注者がチェックすべき項目やミス事例等をテキストに盛り込むという要望もいただいている。
- ただ講義を聴くだけでなく、演習やグループワークも取り入れる予定。
- これらを踏まえ、今年度は第1回～第3回の内容を計画している。

### ② 発注機関への研修講師の派遣(令和4年度)

- 中国地方整備局：基礎技術、構造物設計、橋梁管理実務研修について5回実施
- 広島市：アスファルト舗装、構造物設計、CIM研修について3回実施
- 公益財団法人岡山県建設技術センター：コンクリート構造物の点検・診断・補修、会計検査の指摘事項の検証について2回実施
- 広島県：測量調査・道路設計・橋梁設計に一般および形式別橋梁講座について2回実施
- 山口河川国道事務所：橋梁の計画と設計研修について1回実施
- 岡山県：CIM研修について1回実施
- 先ほど照会した技術部会の各委員会から講師を選定し派遣する形で、毎年実施している。

## ■ 中国地方整備局との意見交換会(R5.11.14開催)

令和5年11月14日(火) 広島市南区のTKPガーデンシティ広島駅前大橋において、国土交通省中国地方整備局と建コン協中国支部の意見交換会が開催されました。

中国地方整備局からは舟橋企画部長をはじめ5名の幹部職員が、中国支部からは小田支部長と坪井副支部長、小谷副支部長、永田技術部会長、金本業務部会長をはじめ22名が

出席しました。

今回は、一般テーマとして「担い手確保・育成のための環境整備」、「技術力による選定」、「品質の確保・向上」、「DX推進の環境整備」の4項目、特定テーマについて意見を交わすことができました。

意見交換会の議事の要旨は、下表の通りです。

中国地方整備局意見交換会の状況



意見交換会状況



小田支部長挨拶

### ● 中国地方整備局との意見交換会要旨

#### ■ 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び中国地方整備局からの回答

##### I. 担い手確保・育成のための環境整備

##### (1) 働き方改革に向けた受発注者協働による取組み推進・強化

- ① 「ウィークリースタンス」の取組みは積極的に推進していただいておりますが、「16時以降の打合せ」等、課題もあると思いますので、取組みが形骸化しないよう事務所等への継続的な指導をお願いします。なお、「ウィークリースタンス実施報告書シート」の回収率が低いこと、実態がつかみ切れていないことが懸念されます。回収率向上のための改善検討をお願いします。(例えば、発注機関名は、事務所名のみとする(担当課を記載しない)。業務名ではなく、業務分野のみとする(道路予備設計、道路詳細設計、河川事業評価等)等。)

##### 【中国地方整備局からの回答】

- 平成30年12月より、全ての業務を対象にウィークリースタンスに取り組んでおり、その結果をとりまとめ、事務所等に周知するなどしてワークライフバランスの改善を進めております。
- 特に16時以降の打合せ、勤務時間外の作業がなくなるように、事務所に対し改めて周知するとともに、引き続き、ウィークリースタンスに取り組む、状況を確認し、ワークライフバランスの改善に努めます。
- ウィークリースタンスの実施状況については、地整ウェブサイトよりエクセル様式をダウンロード頂き、技術管理課に電子メールで提出してもらう取組を行っていますが、今後は、webアンケート方式などの検討により、効率化を図っていく予定です。

## ■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び中国地方整備局からの回答

- ウェブアンケートにおいては、回収率向上に繋がるよう工夫して参ります。
- 一方、「ウィークリースタンス実施報告シート」は、完了検査時に検査職員に対して報告をするとともに、技術管理課に提出頂くよう特記仕様書に記載しておりますので、未提出がないよう協会員の皆様に周知徹底いただきますようお願いいたします。

- ② 納期(変更後)の年度末集中はかなり緩和され、改善していただいております。引き続き、国債(ゼロ国債、2ヶ年国債)・翌債の活用及び繰越の柔軟な運用により、納期平準化に向けた取組みをお願いします。なお、引き続き、計画的な業務発注に配慮いただくとともに、業務内容や業務規模に応じた適正な履行期限の確保をお願いします。

### 【中国地方整備局からの回答】

- 中国地方整備局では、履行期限の平準化の取り組みとして、毎年度平準化目標を定め、各事務所等で目標を達成するよう国債、翌債等を活用して計画的な業務発注に努めており、国債、翌債等の業務件数は、毎年増加しています。また、工期延期が生じた場合は繰り越しを柔軟に活用して、できる限り履行期限が第4四半期にならないよう取り組んでおります。
- 令和4年度の平準化の結果としては、履行期限が第4四半期となる件数の割合が目標42%以下に対して50%、その内3月は目標30%以下に対して約34%で、目標達成には至っていないものの、目標値に近づいており、更なる分析と対応策の周知徹底が必要と認識しております。
- 令和5年度も更なる平準化を図るため、第4四半期で40%以下、3月30%以下を新たな目標として取り組んでいるところです。引き続き、履行期限が第4四半期になることを削減させるとともに履行期限の平準化に努めて参ります。

- ③ 業務発注時や変更時には、引き続き、条件明示チェックシートによる条件明示の徹底をお願いします。また、手戻り防止には、業務スケジュール管理表の業務管理への活用が有効と考えられます。引き続き、計画業務を含む幅広い業務を対象とした活用推進をお願いします。

### 【中国地方整備局からの回答】

- 詳細設計業務においては、発注時に条件明示チェックシートに基づき設計条件を明示しており、①基本的な設計条件・計画条件、②関係機関との調整実施、③貸与資料、において必要な設計条件等を受注者へ確実に明示するとともに、適正な履行期間の確認も行うこととしております。
- 業務スケジュール管理表は、全ての「詳細設計業務」及び「検討業務等」で作成することとしております。
- 業務の初回打合せ時において、貴協会企業からも活用する旨を発注者に伝えるなど、働きかけをお願いします。

- ④ 業務発注段階で、業務内容等を可能な限り明確にさせていただくとともに、業務実施段階で、業務内容、及び、技術者資格の範囲が極力変化しないようお願いします。

### 【中国地方整備局からの回答】

- 業務発注段階においては、可能な限り業務内容を明確にするよう事務所に周知します。
- 業務実施段階で大幅な内容変更が生じないよう事務所には指導しているところです。また、新規工種や業務内容が大幅に変更となる場合は、別途発注が基本と考えていますが、やむを得ず変更追加する場合には、事前に受注者に対応の可否を相談いたします。

## (2) 人材確保・育成

- ① 若手技術者のモチベーション向上のため、若手技術者の表彰制度の導入検討をお願いします。(例えば、北陸地方整備局や九州地方整備局で導入されている若手技術者表彰制度等。)



■ 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び中国地方整備局からの回答

【中国地方整備局からの回答】

- 若手技術者のモチベーションの向上については、担い手育成の観点から重要事項と考えております。
- 若手技術者等の活躍・育成の取り組みとしては、平成26年度よりプロポーザル方式、総合評価落札方式の業務において、若手技術者(45歳以下)を管理技術者として配置する場合は管理補助技術者を配置できる取り組みを行っております。
- さらに、令和5年度からは、配置予定管理技術者に40歳以下の若手技術者を配置する場合は、入札手続きにおける選定・指名段階で2点、特定・入札段階で1点を加点点評価することとしております。
- 若手技術者のモチベーション向上のための表彰制度については、他地整の事例などを参考に勉強して参ります。

- ② シニア人材の活躍のため、照査技術者を業務実績として評価していただいておりますが、加えて、技術継承のための制度の導入検討をお願いします(例えば、四国地方整備局で導入されているプロポーザル方式等における60才以上のシニアが担当技術者として配置された場合の加点点措置等)。

【中国地方整備局からの回答】

- 経験豊富なシニア技術者に継続的に照査技術者等として活躍してもらうことは、品質確保や技術の伝承からも有益だと考えております。他地整の事例などを参考に勉強して参ります。

II. 技術力による選定

(1) プロポーザル方式・総合評価落札方式等の適確な運用・改善

- ① プロポーザル方式、総合評価落札方式の導入・拡大を進めていただいております。引き続き、斜め象限図の適切な活用に基づく発注方式の選定、および、難易度の高い業務における総合評価落札方式からプロポーザル方式への移行、価格競争方式から総合評価落札方式への移行等技術力を重視した業務の拡大をお願いします。

【中国地方整備局からの回答】

- プロポーザル方式、総合評価落札方式等、発注方式の選定については、斜め象限図を活用し、適切に設定して参ります。また、難易度の高い業務においては、引き続きプロポーザル方式を適用していきます。
- 難易度の高い業務における総合評価落札方式からプロポーザル方式への移行、価格競争方式から総合評価落札方式への移行については、業務内容を十分に勘案し、技術力を重視した業務となるか否か適切に判断した上で、発注方式を検討して参ります。

- ② 総合評価落札方式において、令和4年度より、技術士・博士と国土交通省登録資格とを組み合わせ加点する評価方法の試行が開始されておりますが、令和5年度の試行方針(案)を踏まえ、引き続き、組み合わせ加点方式の採用により業務成果の向上が期待できる業務を対象とする等、適切な組み合わせ加点となるようお願いします。また、本格運用にあたっては、余裕を持ったスケジュールでの導入をお願いします。なお、現時点(令和5年度上期)までの試行実績についての情報提供をお願いします。

【中国地方整備局からの回答】

- 令和5年度は、技術士とRCCM・土木学会認定技術者以外の国土交通省登録技術者資格の組合せなどにより、より幅広い技術力を確保することで、業務成果の品質向上が期待出来る業務への試行を実施して参ります。
- また、試行結果を踏まえ、本格導入にあたっては、余裕を持ったスケジュールとなるよう本省に伝えて参ります。
- R5年度上半期時点において、2業務において試行を行っております。

## ■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び中国地方整備局からの回答

### (2) 地域の担い手づくりのための地域コンサルタントの拡大と育成

- ① 令和元年度より、地域コンサルタントの技術力向上、育成を目的とした「業務チャレンジ型」、地元企業の受注機会拡大のための「地元企業参加型JV」の導入を試行していただいておりますが、地域コンサルタント、地元企業の経営の安定や技術力向上に有効と考えられますので、試行の継続をお願いします。

#### 【中国地方整備局からの回答】

- 地域コンサルタントの技術力向上や育成を目的に、令和2年度から「業務チャレンジ型」を試行しております。「業務チャレンジ型」は、業務成績、表彰実績を評価せず、災害協力・災害協定締結などの地域貢献度を評価し、求める実施方針を簡易なものとする事で、国土交通省の実績がない企業の競争参加機会を確保するものです。
- 令和5年度からは、これまで2,000万円以下の業務を対象としていたものを、金額による制限をなくす改善をしたところです。
- 一方、「業務チャレンジ型」で発注した業務の入札参加者において、新規参入業者は少ない状況が見受けられます。新規参入が促されるよう、引き続き貴協会会員への周知をお願いします。
- また、令和2年9月からは、土木関係建設コンサルタント業務において、地元企業でも対応可能な業種(測量、地質調査)を含む業務を対象とした「地元企業参加型(JV評価)」を試行しております。地元企業参加JVでの参加者数が少ない状況であることから、貴協会会員への周知をお願いします。

## Ⅲ. 品質の確保・向上

### (1) 受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み

- ① 重要事項の決定が必要な打合せには総括調査員または主任調査員に出席いただくよう指導していただいておりますが、速やかな意思決定による業務効率化や手戻り防止に効果があると思っておりますので、引き続き、事務所等へのご指導をお願いします。なお、個々の業務において、協会側からも、積極的にご出席をお願いする予定です。

#### 【中国地方整備局からの回答】

- 意志決定が必要となる主要な打合せには、総括調査員及び主任調査員が出席し、回答の必要な事項があれば、ワンデーレスポンスにより対応するよう事務所に周知しているところですが、業務進捗に支障をきたすことがないように、引き続き周知して参ります。
- 貴協会員からも、積極的に出席してもらうよう各事務所へ働きかけをお願いします。

### (2) 詳細設計等での三者会議における総合的な品質の確保

- ① 施工段階で、発注者、設計者、施工者、三者間の設計思想の伝達や情報共有のための「三者会議」を実施していただいております。地質技術者を加えた合同会議は、設計者、施工者、地質技術者相互にとって、リスク(例えば、地すべりが懸念される地区、急傾斜地、軟弱地盤上において、構造物を施工する場合に地質技術者の参加が有効)の早期発見、品質確保、技術力向上に効果が期待されますので、引き続き、積極的な推進をお願いします。

#### 【中国地方整備局からの回答】

- 設計思想の伝達及び情報共有を目的として三者会議を実施しています。
- 三者会議は、施工者の希望により発注者が判断し開催していますが、品質確保、技術力向上としての効果を勘案し、積極的に活用して参りますので、ご協力をお願いします。

■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び中国地方整備局からの回答

- 地質技術者につきましても、合同協議への参加が有益と判断する場合は、発注者から参加をお願いするものと考えています。設計者の立場で地質技術者の参加が必要と思われる場合は、発注者と適宜協議して頂きたいと思えます。

IV. 「DX推進の環境整備」

(1) DXの推進

- ① 令和3年度より、地質調査における遠隔臨場が試行されていますが、測量・設計に関わる現場情報の共有にも有効と考えられますので、引き続き、試行の拡大、積極的な活用の推進をお願いします。

【中国地方整備局からの回答】

- 地質調査業務におけるボーリングの検尺においては、既に原則全ての業務を対象に遠隔臨場を実施しています。
- 測量、設計等の現地確認作業時においても、webを活用できる場面がありましたらご提案頂き、調整させていただければと思います。

- ② プロポーザル等の提案書の作成に資する資料閲覧(クラウドサービスの活用)や業務受注時の貸与資料ダウンロードシステムによる電子成果品の貸与により、移動時間短縮等、効率化が実現できています。引き続き、インターネットの積極的な活用推進による効率化への取組みをお願いします。また、ヒアリングのWeb会議活用については、今後とも、継続的な実施をお願いします。

【中国地方整備局からの回答】

- 技術提案書作成のための資料閲覧については、従来は紙ベースで閲覧いただいておりますが、クラウドサービスを活用した閲覧システムを構築し、令和4年7月から運用を行っております。
- また、令和4年11月からは、貸与資料ダウンロードシステムの利用を開始しており、業務効率化の観点から、事務所に活用を指導しておりますので、積極的な利用をお願いします。
- ヒアリングや打合せ時におけるweb会議の活用は、引き続き実施して参ります。

- ③ プロポーザル方式における評価結果の内訳の早期公表については、各所に周知いただいておりますが、業務効率化のため、引き続き、インターネット(入札情報サービス等)による早期公表の検討をお願いします。

【中国地方整備局からの回答】

- プロポーザル方式の評価結果の公表については、現在は紙による閲覧で公表しているところですが、インターネットを用いた公表に向けて検討中です。

- ④ 令和5年度より、BIM/CIMが原則適用となっていますが、データの互換性、ソフトウェアの互換性等、色々な課題が明らかになりつつあります。引き続き、受発注者連携により、意見交換会等を通じた情報共有や課題解決の取組みをお願いします。

【中国地方整備局からの回答】

- ご指摘のとおり、データの互換性、ソフトウェアの互換性の他、人材育成においても様々な課題があります。受発注者のみならず、ソフトウェアベンダーを含めた意見交換会の実施など、情報共有や課題解決に向けた取組みを進めて参りたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願い致します。



## ■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び中国地方整備局からの回答

### V. その他

- ① 総合評価落札方式において、開札後に保留通知をいただきますが、落札決定までの時間がかかる場合があります。業務処理体制の確立等のため、極力、速やかな決定をお願いします。

#### 【中国地方整備局からの回答】

- 総合評価落札方式において、開札後の保留通知から落札決定まで一週間を目安にしております。履行確実性の確認が必要となった場合は二週間を目安にしております。
- 速やかな落札決定が可能となるよう、業務処理体制の確保に努めて参ります。

- ① 平成29年10月より、「一括審査方式」による業務発注が試行されていますが、試行を継続していただくとともに、発注にあたっては、業務の目的・内容・評価項目が同一となるよう、また、業務規模(金額)が同程度となるよう、厳格な適用条件による運用をお願いします。

#### 【中国地方整備局からの回答】

- 「一括審査方式」を活用した発注にあたっては、当該方式の適用条件について改めて事務所に周知するとともに、適切な運用を行うよう、事務所に対し指導して参ります。
- 受発注者双方の業務の効率化、受注機会の確保の観点から取り組みを進めておりますので、引き続きご理解・ご協力をお願いします。

#### 【特定テーマ】

##### (1) インフラDX推進に向けた取り組みについて

#### 【話題提供等】

- 中国地方整備局における令和5年度上期までのインフラDXの取組みについての情報提供をお願いします(中国地方整備局)。
- 建設コンサルタンツ協会中国支部ICT委員会の活動について情報提供します(建設コンサルタンツ協会中国支部)。

#### 【中国地方整備局からの情報提供】

※参考資料P41～をもとに説明

(インフラDX推進計画2023、フロントローディングの取組、中国インフラDXセンターの暫定運用開始など)

#### 【建コン中国支部からの情報提供】

※建設コンサルタンツ中国支部ICT委員会活動報告をもとに説明

(活動内容、西広島バイパス事業概要など)

## ■ 広島県との意見交換会(R5.11.16開催)

令和5年11月16日(木)広島市中区の広島YMCA 2号館 地下コンベンションホールにおいて、広島県と建コン協中国支部の意見交換会が開催されました。

広島県からは細羽総括官をはじめ8名の幹部職員が、中国支部からは小田支部長と坪井副支部長、來山総務部会長、金本業務部会長をはじめ17名が出席しました。

今回は、一般テーマとして「担い手の確保・育成のための環境整備」、「技術力による選定」、「品質の確保・向上」「DX推進の環境整備」の4項目、1つの特定テーマについて意見を交わすことができました。

意見交換会の議事の要旨は、下表の通りです。



細羽総括官の挨拶



中国支部説明状況

### ● 広島県との意見交換会要旨

#### ■ 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び広島県からの回答

##### I. 担い手の確保・育成のための環境整備

##### (1) 受発注者協働による働き方改革および生産性向上の推進・強化

① 業務の平準化については、積極的に取り組んでいただいておりますが、引き続き、繰り越しの柔軟な対応を含む標準履行期限の確保、前倒し発注等発注時期の分散化による業務納期の平準化への取組みの継続をお願いします。

##### 【広島県からの回答】

- ・働き方改革の観点から適切な履行期間の確保に努めている。
- ・債務負担行為、繰越、翌債等の制度を活用し、引き続き履行期間の平準化と適切な履行期間確保に努めていく。

② すでに、「労働環境改善」として、ウィークリースタンスを実践していただいておりますが、今後とも、着実な推進と形骸化しないような取組みをお願いします。

##### 【広島県からの回答】

- ・令和元年6月より災害対応等の緊急を要する業務を除く全ての業務を対象に、労働環境改善を図るためウィークリースタンスを実施している。
- ・引き続き受発注者双方で設定したウィークリースタンス実施項目を着実に実施するよう取り組んでいく。

## ■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び広島県からの回答

- ③ 共通仕様書に明示されているワンデーレスポンスについては、関係職員に対して文書で周知していただいておりますが、引き続き、着実な取組みをお願いします。

### 【広島県からの回答】

- ワンデーレスポンスの取組についてもウィークリースタンスと同様に引き続き調査職員等に周知徹底していく。

- ④ 成果品の品質確保、業務の手戻り防止のため、「設計・測量チェックマニュアルH13.4」により、業務着手時、履行中、変更時の条件明示の徹底をお願いします。一方、国土交通省で導入されている「条件明示チェックシート」による条件明示の徹底、「業務スケジュール管理表」による業務の進捗管理が有効と考えられますので、引き続き、導入・活用に向けての検討をお願いします。

### 【広島県からの回答】

- 各業務の諸条件については設計と条件の整理及び設計図書への明示に努めると共に、業務段階毎に受発注者間で確認を実施し品質確保並びに手戻り防止に努めていく。
- 「設計・測量チェックマニュアル」については最新の各基準に合わせた改訂を予定している。
- 業務の進捗管理については業務着手時に業務計画書において業務工程を受発注者で協議すると共に業務履行中については履行報告書で進捗状況の把握を行っている。「条件明示チェックシート」や「業務スケジュール管理表」の導入については他県等の導入状況等を把握した上で、今後検討していく。

## (2) 企業経営の安定と処遇改善に向けての環境整備

- ① 安定的な企業運営の観点から、管理技術者が複数の業務に従事する必要があります。引き続き、合併業務における管理技術者配置条件の緩和の検討をお願いします。(例えば、国土交通省同様、管理技術者の配置を業務全体で1名とする等)

### 【広島県からの回答】

- 複数の分野に跨る業務の場合は設計金額の構成割合が最も大きい分野を主たる業務分野として発注しているが、管理技術者については全ての分野毎への配置を求めており、業務に関する責任の一元化という観点からも一定の合理性はあると考える。今後、国等の運用も参考にしながら技術者配置の考え方の再整理も含めて検討していきたい。

## (3) 人材の確保・育成

- ① 若手技術者・女性技術者の活用促進に向けて総合評価落札方式(実績評価2型)の評価項目を導入していただいております。引き続き、若手技術者の年齢制限の緩和(例えば、国土交通省同様、45歳以下を若手とする)の検討をお願いします。

### 【広島県からの回答】

- 中長期的な担い手確保・育成の観点から総合評価落札方式での評価項目として導入している。年齢制限の緩和については、効果等について国や他県の事例等を参考にしながら検討していきたいと考えている。



## ■ 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び広島県からの回答

### (広島県からの関連質問1)

- 若手技術者のインセンティブとして40歳以下を45歳以下に引き上げて欲しいという要望を頂いたが、こういった主旨からの思いであるか確認させて頂きたい。

### (建設コンサルタンツ中国支部からの回答1)

- 参考資料(白書)でも整理しておりますが、そもそも人材不足の実情を発端に、ターゲットとなる35歳～40歳の年齢層が少ないことから要望として挙げさせて頂いております。同じ理由で国土交通省にも要望を出させて頂き、現在は45歳に見直して頂いたという経緯もある。

### (広島県からの関連質問2)

- 45歳以下とする要望は理解しましたので、各社の年齢層のレンジ傾向を少し教えて頂けますでしょうか。

### (建設コンサルタンツ中国支部からの回答2)

- 協会として、個々に調査した事はないので調べた上でご回答させて頂く。

- ② モチベーション向上を目的とした若手技術者・女性技術者の表彰制度の検討をお願いします。

### 【広島県からの回答】

- 若手技術者や女性技術者を対象とした表彰制度についてはモチベーション向上などの観点からも必要な取組みであると考えている。表彰制度も含めて有効な方策を検討していく。

- ③ 「高年齢雇用安定法」の改正、施行を踏まえ、シニア人材活用のための制度についても導入検討をお願いします。(例えば、総合評価落札方式において、60歳以上の技術者を照査技術者として配置することの加点措置等。)

### 【広島県からの回答】

- シニア人材が継続して意欲的に活躍することは重要であると考えており、協会からのご意見等を踏まえて、国や他県の状況を参考にしながら検討していきたい。尚、照査技術者については配置要件として管理技術者実績等を含めておらず、必要な資格を有することで照査技術者として配置することは可能となっている。

## II. 技術力による選定

### (1) 発注者方式の改善(技術力を基本とした選定・発注の仕組みの導入促進)

- ① 業務の品質確保の観点から技術力により選定され、技術力を発揮した業務遂行が必要と考えています。「測量・建設コンサルタント等業務発注事務処理要綱・総合評価落札方式試行要領」に加えて、斜め象限図を活用した発注方式の採用・拡大をお願いします。

### 【広島県からの回答】

- 発注方式や総合評価の型式選定については業務の難易度や特殊性などに応じて適切に設定している。また、品質確保の観点から令和5年度6月より原則1,500万円以上の業務については総合評価落札方式を適用している。

## ■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び広島県からの回答

### (建設コンサルタンツ中国支部からの関連質問1)

- 災害前までは150～200件程の総合評価発注があったと認識している。協会としても是非積極的な導入を増やして頂きたいと考えているが、現在はどのくらいの発注量があるか教えて頂きたい。

### (広島県からの回答1)

- 正確な数字ではないが、今年度は6月の基準改訂以降、大凡発災前と同程度の発注量になると見込んでいる。特に設計業務については発注割合をかなり増やしており、実施した効果も見ながら拡大する方向で継続していきたい。今年度、総合評価は150件以上を発注している。但し、殆どが実績評価I型であり今後は技術評価型も増やしていきたい。

### (建設コンサルタンツ中国支部からの関連質問2)

- 今年度9月より調査基準価格の算出方法について見直しされたが、総合評価方式の案件では価格評価点のウエイトが少し高いため、技術力において高い評価を得ても逆転現象が予測されるため配点について再考頂けないでしょうか。

### (広島県からの回答2)

- 9月から調査基準価格の算定について変動型を導入しているが、今年度の入札状況を見ながら適宜検討していきたいと考えている。

- ② 県内の市町においても技術力による選定が必要と考えています。引き続き、技術力による選定のための市町の入札制度改定への指導をお願いします。

### 【広島県からの回答】

- 市町に対しては発注者協議会を通じて情報提供を行っており、引き続き適切に助言等を行っていく。

### (建設コンサルタンツ中国支部からの関連質問1)

- 市町において土木の基礎技術を専攻されていない方が業務を担当されるケースはどの程度あるか、ご存知であればご回答をお願いしたい。

### (広島県からの回答1)

- 具体的な割合は把握していないが、町等になると事務職で採用された方が技術部門に長く携わられて、そのまま業務を担っているという事もある。
- 県全体として、どのようにレベルアップを図っていくべきか仕組みを思案中。

### (建設コンサルタンツ中国支部からの関連質問2)

- 市町へ出向で支援をされるケースもあるのでしょうか。

### (広島県からの回答2)

- 現在、かなりの数の県職員を派遣している。新規採用を取っていない町などからは包括的なアドバイスを求められているケースもあるが、限られた人材の中で可能な範囲で対応をしている。

■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び広島県からの回答

Ⅲ. 品質の確保・向上

(1) 受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み

- ① エラー防止の取組みとして、受発注者合同現地踏査については、業務特性に応じて、特記仕様書に明示し、実施することになっています。受発注者間の情報共有、ひいては成果品の品質確保・向上に有効と考えられますので、引き続き、取組みの強化をお願いします。

【広島県からの回答】

- 受発注者による合同現地踏査については設計条件や施工留意点等の明確化を図ることで成果の品質向上に繋がると考えており、業務内容に応じて適用していきたい。併せて打合せ段階において業務仕様や設計基準等を受発注者間で確認のうえ品質確保並びにエラー防止に努めていきたい。

(2) 詳細設計及び三者会議等における総合的な品質の確保

- ① 施工段階で、発注者、設計者、施工者、三者間の設計思想の伝達や情報共有のための「三者会議」を実施していただいております。地質技術者を加えた合同会議は、設計者、施工者、地質技術者相互にとって、リスクの早期発見、品質確保、技術力向上に効果が期待されますので、引き続き、積極的な推進をお願いします。

【広島県からの回答】

- 三者会議については事業目的や設計条件・施工上の課題を等情報共有のうえ必要と判断される工事で適用しており、直近の説明会においても周知を図っている。

Ⅳ. 「DX推進の環境整備」

(1) DXの推進

- ① Web会議による打合せや検査の実施、遠隔臨場の導入等、ICTの活用により、業務の効率化が実現されつつあります。引き続き、ICTの積極的な活用の推進をお願いします。協会側からも必要に応じて積極的な活用をお願いをする予定です。

【広島県からの回答】

- Web会議や遠隔臨場については、新型コロナウイルスの感染拡大防止と目的として令和2年3月より取り組んでおり、令和5年5月に5類に変更された際にも業務効率化が図れるWeb会議や遠隔臨場について、引き続き積極的に取り入れるよう周知を図っている。

- ② 「広島デジフラ構想」において、電子契約システムの導入検討が実施されていますが、電子入札システム、情報共有システムと合わせて、契約関係書類の簡略化・電子化等、ICTを活用した業務手続きが効率化されるようお願いします。これらのシステムは、継続的に、モニタリングしていただき、必要に応じて改善検討をお願いします。

【広島県からの回答】

- 電子契約システムについては令和4年度に実施した建設コンサルタンツ協会へのヒアリング結果等を踏まえて、令和7年度からの運用開始を目指して現在取り組んでいる。
- 既存の電子入札システム、情報共有システムについてはレスポンスの向上などを図っており、建設コンサルタンツ協会等からのご意見を踏まえて引き続き、できることから改善を進めていく。

- ③ 広島県発行の「道路事業設計要領【設計編】」、「設計・測量チェックマニュアル」等、最新情報による改訂がなされていない基準類等がありますので、必要に応じて更新をお願いします。なお、改訂完了まで暫定的に、他機関の要領・マニュアル等を準用できるような措置をお願いします。



## ■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び広島県からの回答

### 【広島県からの回答】

- ・「設計・測量チェックマニュアル」については改訂に向けた取り組みを進めている。また、「道路事業設計要領【設計編】」については道路整備課の方で改訂に向けた検討を進めている。改訂できるまでの間、基準類等について疑義が生じた場合は、適宜、発注者と協議をお願いする。

- ④ BIM/CIM活用業務の拡大が図られていますが、種々の課題が明らかになりつつあります。引き続き、受発注者連携により、意見交換会等を通じた情報共有や課題解決の取り組みをお願いします。

### 【広島県からの回答】

- ・平成30年度よりCIM活用業務への取組を開始しており、今度より2,000万円以上の業務を対象に発注者指定型として発注を行っている。また令和7年度の詳細設計業務において100%導入を目指している。
- ・CIMモデルの活用拡大は建設事業全体の最適化に繋がると認識しているが、現在の主な活用は住民説明や関係機関協議など事業全体の関係者間での情報共有を容易にし、理解度の向上を図るなどの視覚化による効果に留まっていることから、ご意見等を踏まえながら引き続き進めたい。

### (建設コンサルタンツ中国支部からの関連質問1)

- ・今年度、CIM業務に担当技術者として携わった者が次年度以降、管理技術者として参加する場合、実績として評価を認めて頂けるのでしょうか。

### (広島県からの回答1)

- ・担当技術者の加点评価については、これから制度を検討していきたいと考えているが、担当技術者が業務の中で本当にCIMに携わったのか見極めが難しいところもあるので、慎重に進めていきたい。
- ・基本的には令和7年度に100%を目指して途中で、それまでに積み重ねた実績をどのように評価していくか等について、今年度の状況を見ながら判断していきたいと考えている

- ⑤ 3次元設計データ作成や3次元モデル作成における当面の業務量の増大に対する措置(余裕をもった履行期限の設定等)の検討をお願いします。合わせて、詳細度に応じた3次元モデル作成についての積算体系の早急な整備をお願いします。

### 【広島県からの回答】

- ・3次元設計データ作成や3次元モデル作成に係る業務実態を把握した上で、業務期間も含めて適切な設定に努めていく。また、積算体系の整備については国の基準・要領等の動向を注視しながら検討を進めていく。

■ 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び広島県からの回答

【特定テーマ】 インフラDX推進に向けた取組みについて

【情報提供等】

- 貴県における令和5年度上期までのインフラDXの取組みについての情報提供をお願いします(広島県)。

【広島県からの情報提供】

- 本県においては建設分野における担い手確保やインフラ老朽化などの課題等々に対応するため、令和3年3月に広島デジフラ構想を策定しており、県民の安全・安心や建設分野における生産性向上などを実現するために様々な取組を進めてきている。また、本年3月には、3項目を追加しており現在は50項目の取組を位置付けて取り組んでいる。これまでの取組における主な成果としては令和3年6月のインフラマネジメント基盤(DoboX)を介して災害リスク情報やボーリングデータや3次元点群データ等の様々なデータをオープン化したことで地域の防災担当や民間災害リスク研究者によるデータ分析など様々な方面で活用されている。また、「DoboX」に搭載されたデータの更なる利活用を図るために、今年6月にCIM業務において地形モデルを作成する場合は「DoboX」に搭載されている3次元点群データを原則活用することを策定した。これ以外にも昨年度、橋梁・砂防堰堤の点検マニュアルを見直し、ドローンを活用した点検などにおいて技術の高度化に取り組んできた。この50項目の詳細な取組状況については11/17の常任委員会において、この2年半の取組成果を公表させて頂く予定にしており県のホームページで公開し周知を図っていくので御確認をお願いしたい。

【情報提供等】

- 建設コンサルタンツ協会中国支部 ICT 委員会の活動について情報提供します(建設コンサルタンツ協会中国支部)。

建設コンサルタンツ協会中国支部 ICT委員会よりBIM/CIM活用事例について紹介がなされた。

【広島県からの質疑】

- CIMモデルの活用度は非常に広いと考えている。具体的に活用する中での課題などあれば教えて頂きたい。

【建コンからの回答】

- 現地に行かなくても境界立会説明について導入した事例があります。VRと現地の状況を正確に把握する必要があるが、現地に行かなくて良いことは利点と考えている。

【広島県からの質疑】

- 通常、3次元データを取っても現地で補足をしていかなければならないかと思うが、これまでの測量と比べて実際、どの程度の省力化に繋がるのか、あるいはプラスαがあるのかについて教えて頂きたい。

【建コンからの回答】

- 実際には現地に入人が出向くという作業面では省力化に繋がるという訳ではないが、モデルを作る事で様々な活用に繋がると思う。例えば、モデルを作ってしまうと、条件や角度を変えて見たい場合に、その都度現地に行く必要はなくなる事などから使い次第で広がっていく技術であると考えている。

## ■ 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び広島県からの回答

### 【広島県からの質疑】

- 人手不足と言う点からも現場へ赴く必要性は重要なポイントになるのではないかと考えるが、どういう事ができれば省力化に繋がるのか実現性についてアイデアがあればお聞かせ願いたい。

### 【建コンからの回答】

- 細かい部分においては未だ現場で確認が必要だが、広域的にみて事業全体に活用できる範囲は広いと考える。

### 【広島県からの情報提供】

- せっかくの機会なのでインフラマネジメント基盤(DoboX)の取組について紹介をさせていただきたい。

まず、「DoboX」には大きく3つの特徴があり、一つ目は各課がシステムで公開していた情報(道路規制情報とか河川水位情報など)を一元化し1画面で見ることが出来る点がある。3次元点群データをオープン化するサービスを提供しており地形モデルの構築にも使ってもらえる。更に「DoboX」の大きな特徴の一つとしてデータの融合があり、広島3Dマップの公開など、ハザードマップや都市モデル等を組み合わせる事でこれまで見えづらかったリスク情報等を視覚的に把握することができる。次にインフラマネジメント基盤(全国的にはデータ連携基盤ともいう)は、「DoboX」のAPI機能を使えば申請が必要だが誰でもサービスを受ける事が出来る仕組みを持っている。これまで個別であった16システムのデータを「DoboX」から一元的に情報を提供している。事業者の方々からも、このデータ連携機能によりコスト縮減が図れるという意見を確認している。データのダウンロードも年々増えており、今年では10万ダウンロードとなっており、避難情報など活発に活用が進んでいる。

### 【建コンからの意見】

- 人(住民)の情報なども取り入れて土木分野以外でもサービス連携をされていくのでしょうか。

### 【広島県からの回答】

- 防災や観光だけでなく、例えば都市のスポンジ化や空き家対策等に各方面との繋がり強化にも促進している。

### 【建コンからの意見】

- 広くアイデアを募って作り付けを行うのも良いと思いますが御考えは如何でしょうか。

### 【広島県からの回答】

- 今年度より国交省都市局のプロジェクト(PLATEAU)との連携を進めており、次世代ハザードマップ等によるより細かい表現や、交通分野、ユニバーサルデザインチームとの連携において視覚障害者の方でも3D都市モデルを使う事で経路検索の補助に繋がるなど様々な提案を頂いている。12月にコンテストを募集しており優秀者への表彰や全国エントリーなども考えている。



## ■ 広島市との意見交換会(R5.11.24開催)

令和5年11月24日(金)広島市中区地域福祉センターにおいて、広島市と建コン協中国支部の意見交換会が開催されました。

広島市からは三宅都市整備局次長をはじめ10名の幹部職員が、中国支部からは小田支部長、坪井副支部長、金本業務部会長をはじめ6名が出席しました。

今回は、「担い手の確保・育成のための環境整備」、「技術力による選定」、「品質の確保・向上」、「DX推進の環境整備」の4項目について意見を交わすことができました。

意見交換会の議事の要旨は、下表の通りです。



三宅都市整備局次長の挨拶



小田支部長の挨拶

### ● 広島市との意見交換会要旨

#### ■ 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び広島市からの回答

##### I. 担い手の確保・育成のための環境整備

##### (1) 建設産業全体の働き方改革と生産性向上に向けた受発注者協働による取組み推進・強化

- ① 納期(変更後)の年度末集中はかなり緩和され、改善していただいております。引き続き、発注時期の分散化や早期発注、繰越の柔軟な対応により納期平準化への取組みをお願いします。

##### 【広島市からの回答】

- (街路課)業務については早期発注に努めるとともに、業務規模に応じた適正な履行期間の確保に努めているところである。また、市の予算上、業務の発注時には年度末の工期を設定している場合が多くあるのは実情である。合理的な理由によって年度内に適正な履行期間の確保ができない場合には繰越の措置により適正な履行期間を確保し完了工期が年度末に集中しないように取り組んでまいりたい。
- (管路課)下水道局においても業務については早期発注や内容に応じた適正な履行期間の確保に努めている。予算の都合などにより発注時に納期を年度末に設定する場合や、履行中においても合理的な理由により期間の延長が生じた場合などには繰越などの措置により適正な履行期間を確保した納期としている。

- ② ウィークリースタンスについては、実施要領を策定いただき、令和2年度より施行いただいております。引き続き、実施状況をモニタリングしていただき、必要性に応じて改善施策の検討をお願いします。また、取組みが形骸化されないよう各所に対して継続的なご指導をお願いします。

## ■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び広島市からの回答

### 【広島市からの回答】

- (技術管理課)令和2年9月に広島市ウィークリースタンス実施要領を策定し、受発注者でウィークリースタンスに取り組んでいるところである。今後、必要に応じて国や広島県の取り組みなどを参考にしながら改善等を検討したいと考えている。
- (街路課)引き続きウィークリースタンス等の推進を図るべく、打合せは業務時間内に行うことや休日等に資料を作成しなければならない状況が発生しないように配慮することなどに努めてまいりたい。
- (管路課)作業指示などについては締め切りに余裕を持たせるとともに、就業時間外の打合せなどについては極力避けるように考えている。

- ② 業務スケジュール管理表による業務の進捗管理や条件明示チェックシートによる業務発注時や変更時の条件明示の徹底は、業務品質の確保、手戻り防止に有効です。これらについての導入検討を引き続きお願いします。

### 【広島市からの回答】

- (技術管理課)業務スケジュール管理表による進捗管理や条件明示チェックシートの導入については、今後国や他の自治体の取り組み状況等を参考にしていきたいと考えている。

## (2) 人材の確保・育成

- ① 人材確保・育成のためには、若手技術者・女性技術者の活用・育成のための入札・契約制度、シニア人材活用のための制度が必要と考えています。引き続き、導入に向けた検討をお願いします。

### 【広島市からの回答】

- (工事契約課)建設コンサルタント業務などにおいて若手技術者・女性技術者などの活用育成、およびシニア技術者の活用にダイレクトにつながっていくようなことを入札契約制度でやっていくというのは難しいと考え実施していない。例えばインセンティブを与えるというような間接的な話を含めてという意味であれば、他の自治体などの状況を調査するなどしながら検討していきたいと考えている。

## II. 技術力による選定

### (1) 発注方式の改善(技術力を基本とした選定・発注の仕組みの導入促進)

- ① プロポーザル方式による発注制度は既に導入していただいておりますが、技術力・品質に優れた企業を選定するため、発注量の拡大をお願いします。また、総合評価落札方式についても、技術力・品質に優れた企業を選定するために重要と考えられますので、導入検討をお願いします。

### 【広島市からの回答】

- (工事契約課)公共工事に関する測量・調査・設計業務などは社会インフラの品質を確保する上で非常に重要な役割を担っていると認識している。業務の内容や地域の実情に応じて適切な方法によって技術提案を求めるとともに努めることとされているので、技術競争による発注方式の活用については国の動向などを注視しながら考えてまいりたい。総合評価落札方式については事業担当課に活用していただくよう声掛けを行っている段階である。

■ 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び広島市からの回答

Ⅲ. 品質の確保・向上

(1) 受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み

- ① エラー防止の取組みとして、業務特性に応じて、受発注者合同現地踏査を実施することが、共通仕様書に明示されています。国土交通省では既に全ての業務において合同現地踏査が導入されており、その有効性が確認されていますので、引き続き、取組みの強化をお願いします。

【広島市からの回答】

- (技術管理課) 合同現地踏査については業務内容に応じて実施することは有効であると認識している。このため、事業担当課と情報共有を図っていききたいと考えている。また、合同現地踏査の実施については各事業担当課において必要に応じて実施していくものと考えている。
- (街路課) 合同現地踏査については重要構造物の有無等業務内容に応じて実施することは有効であると考えている。合同現地踏査については必要に応じて実施していくものと考えている。
- (管路課) 現地の詳細状況や制約条件などを共有し業務を実施することでエラー防止や品質の高い成果物につながると考えているので、業務の内容に応じて対応してきたいと考えている。

(2) 詳細設計等での三者会議等の実施における総合的な品質の確保

- ① 国土交通省をはじめとして中国地方の多くの地方自治体においては、施工段階で、発注者、設計者、施工者、三者間の設計思想の伝達や情報共有のための「三者会議」や地質技術者を加えた合同会議が実施されています。設計者、施工者、地質技術者にとって、リスクの早期発見、品質確保、技術力向上に効果がありますので、引き続き、貴市においても重要構造物(例えば、橋梁、トンネル等)を対象として、導入の検討をお願いします。

【広島市からの回答】

- (技術管理課) 本市では大きい工事があまりないため三者会議の制度を実施していない。今後、他の自治体の取り組み状況等を参考にしていきたいと考えている。

Ⅳ. 「DX推進の環境整備」

(1) DXの推進

- ① Web会議による打合せや検査の実施、遠隔臨場の導入等、ICTの活用により、業務の効率化が実現されつつあります。引き続き、ICTの積極的な活用の推進をお願いします。協会側からも必要に応じて積極的な活用をお願いをする予定です。

【広島市からの回答】

- (技術管理課) Web会議の実施については受発注者双方の負担軽減のため必要に応じて取り組んでいる。また、今後遠隔臨場についても導入に向けて検討したいと考えている。



## ■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び広島市からの回答

- ② BIM/CIM等、ICTの導入・活用推進により、計画～設計～施工～維持管理に係る生産性向上への取組みが必要と考えています。ICTに関する貴市の取組みの現状と今後の予定について教えてください(業務発注の現状および予定を含む)。

### 【広島市からの回答】

- ・(技術管理課)ICT技術の施工段階の導入・活用については平成30年度からICT活用工事として実施しており、その適用範囲を段階的に拡大している。また、計画・設計段階についてはこれまで業務特性に応じてレーザー地形測量などのICT技術を活用した業務実績がある。しかしながら、計画から設計・施工・維持管理の各段階を通して3次元モデルの情報共有を図り、一連の建設生産管理システムの効率化・高度化を図るBIM/CIMについてはまだ実績がないのが実情である。BIM/CIMが重要な取り組みであることを認識していることから、国の事例や他の自治体等の状況を調査するなど、引き続き研究してまいりたいと考えている。

- ③ 今後、すでに導入されている電子入札システムの改善検討、電子契約システム、情報共有システムの導入検討していく中で、各種書類の電子化をはじめとした入札・契約手続き、業務実施の効率化・省力化のための取組みの検討をお願いします。

### 【広島市からの回答】

- ・(工事契約課)既に導入している電子入札システムについては、効率化・省力化の観点も含めて日々改善の余地がないかということは考えながら、予算・システムの構造にもよるが、その都度できることは対応している。電子契約システムについては未導入である。社会情勢などを踏まえていずれは必要になるという認識は持っている。その導入に関しては他の自治体の状況等を参考に検討していきたい。政令市では神戸市が先行しているという状況なので、そちらのほうと話をしていきたい。
- ・(技術管理課)情報共有システムは生産性向上を目的として、令和3年度から一部の土木工事を対象に受注者希望型で試行を開始し、段階的に対象工事を拡大している。業務においては試行をしていないが、今後は他都市の事例等を参考にしていきたいと考えている。

## (2) 詳細設計等での三者会議等の実施における総合的な品質の確保

### ① ICT委員会の活動内容

- ・建コンに技術部会があり、その中に河川、道路などの委員会がある。昨年7月に7つ目の委員会としてICT委員会を設立した。メンバーは協会企業からの公募とした。
- ・ICT委員会の主な役割は、①i-ConstructionおよびBIM/CIMに関する事項、②各種ICT関連技術およびDX推進に関する事項、③地方整備局や関連する団体とのICT関連意見交換等への参画、④ICT及びBIM/CIM関連の本部情報の共有、および研修活動などである。
- ・意見交換会の開催については、広島県建設DX担当との意見交換会、建コン近畿支部ICT委員会との意見交換会などを行っている。
- ・研修講師の派遣については、国や地方自治体からBIM/CIMに関する職員研修の講師派遣依頼が増えており、ICT委員会でメンバーの人選を行い研修を実施している。研修依頼先は中国地整、広島市、岡山市等の各地方公共団体である。また、最近では広島高速道路公社からの研修依頼に対応しているところである。
- ・立ち上げから1年しかたっていないため、活動自体は手探りの面はあるが、各社からの「困りごと」等ざっくばらんな相談会や特定の内容に関する勉強会等も実施し、会員企業がWin-Winになれる環境づくりと、意見交換会等を通じて発注者への対応力強化を目指して活動している。

## ■建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び広島市からの回答

- 11月8日に中国地方整備局において産官学で構成する「中国地方生産性向上研究会」の会合があり、この中で今後“インフラDX推進計画2024”の策定を行うことや、「設計・施工のための点群データ活用ガイドライン(案)」(整備局と建コンが一緒になって作成)が公表されることが明かされた。同ガイドラインが非常に有効であるということで全国的にも着目を浴びている。

### ① BIM/CIM活動事例の紹介

#### (1) モデルの種類と概要

- 道路分野で使用するBIM/CIMモデルとして、使用する目的から2つの代表的なものがある。一つ目が土工形状モデルであり、ICT建機への入力を主目的として作成したモデルである。マシンガイダンスを用いてバックホウを操作するためのモデルである。二つ目が統合モデルであり道路の予備設計や詳細設計に使うものである。地元協議や警察協議などにも利用されている。
- 統合モデルには詳細度があり、詳細度200であれば道路の予備設計に利用される。詳細度300は道路の詳細の交差点の設計や路面の表示、ランプの構造、交差点などの詳細、用地幅杭などがわかるレベルである。

#### (2) 統合モデルの活用事例

- 関係機関協議では、統合モデルに信号や標識等の道路付属物を配置し、信号誤認リスクの把握や配置検討を実施するなど、警察協議にて活用が可能である。
- また、道路構造確認においては、建築限界等の道路構造について、モデルを活用することで効率的かつ効果的な照査が可能である。
- AR技術の活用では、作成した3次元モデルを使用し、AR機器を用いて現地の映像に投影することで、現地状況を確認しながら、将来計画等のイメージを共有することが可能。
- 3次元モデルができると3Dプリンタで模型を作成し地元説明に活用することも可能となる。
- VR技術の活用では、VR鳥観図を作成することによりVRのモデル中で類似の周辺眺望、景観の確認が可能となる。
- ストリートビューのような連続する360度画像を作成し、関係者との情報共有、デジタル境界立会などの活用が可能。

#### (3) 設計レベルに応じた地形モデル

- 先ほど紹介した「設計・施工のための点群データ活用ガイドライン(案)」に基づく事例として、3次元地形モデルについて紹介する。
- UAVレーザー測量データは点群データであり、設計に必要な情報(地物や道路端のエッジ)が表現されない、情報量が多くデータ容量が大きい、既設橋梁や家屋等の現況地物情報が欠損するため、そのままでは設計に活用しづらいというのが実態である。この点群データに補足の測量(道路端のエッジや水路の測量)を行うことで、3次元地形モデルが作成できる。3次元地形モデルは道路設計に必要な情報を保持しており、データ容量の縮小が可能となる。
- また、路線測量が省略できるメリットも生じる。

#### (4) その他

- 西広島バイパスについてデジタル空間モデルに計画の高架道路をはめ込んだモデルの紹介
- エキキタエリアの3次元都市空間作成モデル(デジタルツイン)の紹介

## ■ 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び広島市からの回答

### ■ 議題I～IVに関する意見交換

#### 【建コンからの意見】

- [I. 担い手確保・育成のための環境整備]に関し、業務スケジュール管理表および条件明示チェックシートについて導入に向けて検討したいとの回答をいただいたが、これに代わるようなものを広島市さんのほうで実施されていれば参考意見としてお伺いしたい。
- 配布資料「令和5年度地方ブロック意見交換会「要望と提案」及び【調査資料集】概要版」のp34～p36に「担い手確保・育成のための環境整備」として各地方整備局の総合評価落札方式で導入されている好事例を記載している。また、p37には政令市である北九州市の事例として若手・女性技術者表彰制度の事例を記載している。表彰していただくと励みになるので参考にさせていただきたい。
- 技術力の選定について、同じ資料のp43に総合評価落札方式の発注が多い都道府県・政令都市の10位までについて発注件数と割合を示しており、中国地方では鳥取県が10位以内に入っている。また、先般、広島県と意見交換会において災害が一段落したので今年度は200件程度が目標との話があった。簡便型の総合評価でもよいので是非導入していただきたい。

#### 【広島市からの回答】

- 業務スケジュール管理表や条件明示チェックシートの代わるようなものはもっていないが、研究は行っているところである。他の都市で事例を調べている。一部の市では導入しているが、多くの市では導入していない。国土交通省の様式は項目が多く、そのまま広島市に導入した場合に適切な運用ができるかどうかを研究している段階である。
- 若手・女性技術者およびシニアの活用・表彰制度の事例は参考になる。今後検討していきたい。

#### 【広島市からの意見】

- 建設業界全体にとって人口減少の影響を受けて担い手が減ってきている。担い手を確保するためには、就職する前の学生に建設業界の魅力をより一層宣伝していく必要があるのではないかと考える。広島市としてもインターン制度や非常勤講師の派遣を行っているが、これらについても業界の企業と連携をとりながら行っていくことが建設業界の発展につながると考えているので、何か提案等があればお聞きしたい。

#### 【建コンからの回答】

- 現在、建設コンサルタンツ協会としては、中国管内の大学・高専および工業高校に対し建設コンサルタントはどういったものかという説明を団体として行っている。支部管内を同じ資料をもって説明しているほか、各企業が個別に行っている活動もある。インターンシップについてはホームページで紹介を行っている。
- 配布資料「令和5年度地方ブロック意見交換会 要望と提案【調査資料集】」のp7に建設コンサルタント職員の年齢構成を示している。40代後半から50代前半の職員が多くなっているが、1995年前後に多く入社した職員が残っている。一方、30代後半から40代前半の職員が少ない。10年後には50代前後の職員が退職するため、現状での20代が残ってくれる、さらには退職者以上に入ってくれないとピラミッド型にはならない。現状のベテランが減ることによる10～15年後を危惧している。60歳を過ぎたシニアの活躍が必要と考えているほか、DX導入により生産体制を考えていかないといけない
- 配布資料「令和5年度 建設コンサルタント白書」p128に“官民連携による将来の担い手確保に向けた取組み”として北陸支部の取組事例を紹介しているので参考にさせていただきたい。



■ 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び広島市からの回答

■ ICT委員会活動報告に関する意見交換

【広島市からの意見】

- 以前、区役所でICT施工を行った経験がある。総合モデルは詳細度300くらいとの説明があったが、ICT施工の詳細度は500であったと記憶している。設計の詳細度と施工で必要とする詳細度が違うということになる。設計から施工、維持管理を考えたときに詳細度はどの程度が適正なのか、ご意見をいただきたい。

【広島市からの回答】

- 統合モデルは詳細度300ぐらいであると道路の構造が表現できる。交差点の形状やボックスの詳細については詳細度400が必要になる。以前は縮尺1/500の図面で詳細設計をおこなっていたが、これが詳細度400相当であると思われる。一般部は詳細度300、詳細な箇所では詳細度400が適正ではないかと考える。
- BIM/CIMのソフトが設計から同じソフトが使えるれば、予備設計では詳細度200、詳細設計では詳細度300、施工では必要な範囲に限定することで詳細度500にグレードを上げていくことができる。その中で施工に必要な路床や路盤データ等の詳細を取り入れるとデータは重たくなる。現状では施工機械メーカーがICT機械とセットで改めてデータを作成し、必要な範囲に限定することで詳細度500でも利用可能となっている。各段階でデータを改めて3次元化しているのが実態であり、設計～施工・維持管理までを一連で行おうとするとデータが大きくなりすぎる。我々も勉強して業務の中で取り組んでいるので、情報提供していきたい。
- DXに関わる課題は試行錯誤で行っている。いろいろな課題が今後出てくると思われるので引き続き意見交換や事例紹介等を行いたいと思っている。何かあれば事務局まで連絡いただきたい。



## ■ 協会本部と中国支部意見交換会(R6.3.4開催)

令和6年度の発注機関に対する「建設コンサルタントの要望と提案」の内容を固めるため、令和6年3月4日(月)に広島市南区のTKPガーデンシティ広島駅前大橋において、協会本部と中国支部の意見交換会が開催されました。協会本部からは中村会長はじめ大本副会長、多田副会長、常任理事の皆様が出席され、中国支部からは、小田支部長、坪井副支部長、小

谷副支部長、支部理事8名、支部監事2名、來山総務部会長、永田技術部会長、金本業務部会長、岩苔厚生部会長、各県委員長が出席しました。

あらかじめ本部で作成された令和6年度の「要望と提案」の一次原稿に対して、中国支部の意見を申し入れて調整をお願いしました。



## ■ 技術部会の開催

### 第1回技術部会・技術委員長合同会議

開催日：令和5年6月6日(火)

場 所：広島YMCA国際文化センター本館  
4階408号

- 内 容：(1) 中期行動計画(2023~2026)年次計画  
(2) 中国支部中期行動計画年次計画・実施計画  
(3) 各委員会活動報告  
(4) 協会表彰候補者推薦について  
(5) 工事見学会について  
(6) その他

## ■ 技術講習会、見学会等

### ● GIS講習会2023(ArcGIS/初級編) 開催報告

本部情報部会ICT委員会ICT普及専門委員会のもと、GIS講習会を開催しました。

開催日：令和5年9月14日(木) 初級編

場 所：WEB開催

目 的：コンサルタント技術者がGISを実業務に適用するための、実際にパソコンを操作しながらGISを業務に活用する方法を修得して頂くことを目的とする講習会。

令和5年度は、コロナ禍においてもGIS講習会を継続的に開催することを目的に、WEB(TV会議システム)を用いたArcGISによる初級編の講習会を開催しました。

中国支部参加【定員20名】：初級編 18名

スケジュール

9：30~10：00 TV会議システム参加時間  
受講準備

10：00~12：00 GIS講習

12：00~13：00 昼食・休憩

13：00~17：00 GIS講習  
(まとめ、アンケート記入を含む)

主な講習内容は、以下の通りです。

- 第1章 GISの基礎知識  
GISとは、用語解説、座標系など
- 第2章 ArcGIS Proの基本操作  
インターフェイスの説明、基本演習

- 第3章 震源地調査報告書の作成  
経緯度座標からポイントデータを作成、空間的位置関係からデータを特定して抽出、シンボルの設定、データの3D表示など
- 第4章 データの編集、加工  
ジオリファレンス、データの編集、加工、属性の演算、加工など
- 第5章 Web共有  
ArcGIS Onlineへマップを共有、ブラウザでマップを閲覧

### ● GIS講習会2023(SIS/初級編) 開催報告

本部情報部会ICT委員会ICT普及専門委員会協力のもと、GIS講習会を開催しました。

開催日：令和5年10月4日(水) SIS初級編  
オンライン(Web)形式

令和5年10月5日(木) SIS初級編  
集合(対面)形式

場 所：集合(対面)形式は、インフォマックス社  
研修室

目 的：コンサルタント技術者がGISを実業務に活用するための、実際にパソコンを操作しながらGISを修得して頂くことを目的とする講習会。

募集人数10名程度 中国支部参加者10名

スケジュール

10：00~10：55 講習の案内  
GISの基本の講習

11：05~12：00 SISの基本の講習



- 12:00~13:00 昼食・休憩  
 13:00~14:15 SISの基本の講習  
 14:25~15:40 SISの利用事例を交えた講習  
 15:50~16:50 SISの利用事例を交えた講習、質疑応答  
 16:50~17:00 アンケート記入など

### ● CIMハンズオン講習会開催報告

本部情報部会ICT委員会CIM技術専門委員会の協力のもと、CIMハンズオン講習会を開催しましたので報告します。

開催日：令和5年10月26日(木)

3次元モデル活用

令和5年10月27日(金)

3次元モデル作成

場 所：広島オフィスセンターG会議室

目 的：国土交通省では、建設生産性向上を図るi-Constructionの取り組みにおいて、3次元モデルを活用し社会資本の整備、管理を行うBIM/CIMの導入普及に取り組んでいます。平成28年度末にはCIM導入ガイドランが公表され、年次改定、適用工種の拡大が進められてきました。

令和5年度は、BIM/CIM原則適用として「直轄土木業務・工事におけるBIM/CIM適用に関する実施方針」が公表されています。

そこで、国土交通省のBIM/CIM実施内容を協会会員に周知し、実際にパソコンを操作することにより、CIMへの対応を体験してもらうハンズオン講習会をCIMに初めて取り組む初心者、初級者を対象に実施しました。

参加【定員各20名】：3次元モデル活用 11名  
 3次元モデル作成 11名

- 10月26日(木) 3次元モデル活用スケジュール  
 Autodesk Navisworks、InfraWorks 使用  
 9:30 受付開始  
 10:00 開会あいさつ(講習会目的等解説)  
 10:30 Navisworks による3次元モデルの活用  
 12:00 昼食・休憩  
 13:00 InfraWorksによる3次元モデルの活用  
 16:00 AutoCAD 3Dモデル作成  
 17:00 閉会あいさつ

- 10月27日(金) 3次元モデル作成実習スケジュール  
 Autodesk Civil 3D、Revit 使用  
 9:30 受付開始  
 10:00 3次元モデル作成実習  
 Civil3Dによる土工モデル作成  
 12:00 昼食・休憩  
 13:00 Civil3Dによる土工モデル作成  
 14:00 Revitによる構造物モデル作成  
 17:00 閉会あいさつ  
 講習、質疑応答  
 16:50~17:00 アンケート記入など



講習会の状況

## 現場見学会に参加して

いであ株式会社 中国支店  
沿岸・港湾部 岡本 経孝

### はじめに

令和5年9月12日に建設コンサルタンツ協会中国支部主催の下記現場見学会に参加した。

- 1) 徳山下松港栈橋設置工事 工事現場(RC床版製作、ジャケット栈橋築造現場)
- 2) 岩国港臨港道路 橋梁上部工工事 工事現場(上部工架設現場)

ここでは、それぞれの事業、工事概要と見学会での所感等について記す。

### 1) 徳山下松港栈橋設置工事 工事現場

- 事業概要：徳山下松港は、国土交通省から資源、エネルギー、食糧等の安定的かつ安価な供給のため、宇部港と併せて国際バルク戦略港湾(石炭)に選定され、海上輸送網の形成のため、船舶大型化に対応した係留施設整備を行っている。本工事の下松地区栈橋(-19m)は、同港内でも大水深のジャケット栈橋を築造している。
- RC床版製作：RC床版は実際の型枠、鉄筋、吊材を設置した状況を見学し、鉄筋と型枠の取り合いやコンクリート脱型に配慮した型枠内面へのシート設置など施工上の工夫がよく理解できた。また、アンローダーが設置される箇所の連続炭素繊維補強床版は、250mmピッチのポストテンション緊張材の端部固定部材やグラウト充填材用のホースなど密に設置され、ブロック製作にも相当な労力を要することがわかった。
- ジャケット栈橋築造現場：ジャケット部材の構成や腐食対策の状況が間近で見学でき、日本有数の大水深栈橋の規模感を体感できた。



写真1 ジャケット栈橋現場

### 2) 岩国港臨港道路 橋梁上部工工事 工事現場(上部工架設現場)

- 事業概要：港湾物流効率化を通じて、産業の立地競争力確保、周辺環境改善を図るため、岩国港のふ頭間を結ぶ臨港道路を整備するものである。室の木線橋梁は、船舶航行への配慮として桁高を低くできる「プレビーム桁」を採用している。
- 事前説明：プレビーム桁のプレストレスを与える機構について説明があり、工法自体は対応できるメーカーも少なく、富山から桁輸送をした工程など、説明、写真等でよく理解できた。
- 上部工工事現場：橋面上で壁高欄の施工や資材置き場としての状況を確認し、足場から桁下を見学でき、桁配置や支承部の細かな構造が間近で見学できた。プレビーム桁の間を床版化するための型枠がアーチ状で設置が容易な形状となっている点が印象的であった。



写真2 東亜建設工業(株) 事前説明の様子

### おわりに

見学会に参加し、コンサルタントでは考慮しきれない細部の施工上の工夫や仮設状況など貴重な情報が得られた。私自身今後もより施工への配慮を考え設計・図面作成等に取り組みたい。また、参加者は若い技術者が多く、工事担当の方に熱心に質問をしている姿を見て、見学会は大事な経験になるため、継続してほしいと感じた。

最後に、見学場所の提供、資料提供、工事説明をいただいた東亜・本間・りんかい日産建設JVおよび東亜建設工業(株)中国支店の皆様に感謝申し上げたい。

## 現場見学会に参加して

株式会社エイト日本技術開発  
国土インフラ事業部 宮川 爽登

### はじめに

令和5年9月12日、建設コンサルタンツ協会主催により開催された現場見学会に参加した。今回見学した対象場所は徳山下松港下松地区栈橋(-19m)と、岩国港臨港道路 室の木線橋梁である。ここではそれぞれの工事の概要、所感について記す。

### 徳山下松港下松地区栈橋(-19m)

本工事は徳山下松港・宇部港を一体とし、国際バルク戦略港湾に選定された国内有数の石炭取扱拠点において、大型船舶に対応した施設設備を行う内の栈橋上部工事を行うものである。構造形式にはジャケット式栈橋を採用しており、その工事の様子は圧巻であった。新素材である連続炭素繊維補強材を用いることによって軽量化や長期供用にも着手していた。今回の見学会では実際に栈橋の上を歩き施工状況を間近で確認させて頂いた。スケールの大きさは当然のことながら、この規模の工事での正確さ、技術力の高さを目の当たりにした。



写真1 徳山下松港下松地区栈橋(-19m)

### 岩国港臨港道路 室の木線橋梁

岩国港には埠頭間を結ぶ交通経路がない為、混雑する国道2号線の利用を余儀なくされ輸送時間の増加、コスト上昇の影響となっている。本工事の臨港道路の整備により国道2号線の回避、及び物流の速度向上を目的としている。工期短縮や安全面から採用されたプレビームの合成桁橋や、埋立地特有の軟弱地盤における地震時の共振を抑えるだけでなく地震時慣性力分散構造に比べ約0.8億円のコストカットへと繋がる中間多点固定構造が用いられていた。随所に安全面を配慮した点が見受けられた。



写真2 岩国港臨港道路 室の木線橋梁

### おわりに

材料や施工方法において最新技術を取り入れ、工期短縮やコストカットが行われていた。昔も今も何がベストかを考え続ける必要があり、それを考えるためには現場を見る必要があると感じた。

今回の現場見学会に協力頂いた関係者の皆様に、深くお礼申し上げます。



## 現場見学会に参加して

中電技術コンサルタント株式会社  
沿岸整備部 石田 晴香

### はじめに

2023年9月12日、建設コンサルタンツ協会中国支部主催の現場見学会に参加した。同見学会では、徳山下松港棧下松地区棧橋築造工事と岩国港臨港道路 室の木線橋梁工事を見学した。

### 徳山下松港下松地区ジャケット棧橋上部等工事

本工事は、国際バルク戦略港湾として船舶大型化に対応した船舶施設設備を施工するもので、その内の棧橋上部工事である。

最初に、下松第一埠頭での床版製作工事と床版据付工事を見学した。床版製作工事では、RC床版と連続炭素繊維床版の製作現場に行き、実際に製作途中の床版を見せていただいた。

本工事でジャケット棧橋に使用されている連続炭素繊維床版は、棧橋上のアンローダやベルトコンベア設置個所にのみ施工される。連続炭素繊維床版は錆びにくい素材であることからメンテナンスなどの維持管理が不要になるため、重要な箇所(石炭を荷揚設備および貯炭場へ搬送設備を設置する箇所)への施工は大変有効であるといえる。



架設前の連続炭素繊維床版

### 岩国臨港道路新港 室の木線橋梁上部工

本工事は、埠頭間の臨海交通ネットワーク構築による物流効率化および港湾関連車両の住宅地通行回避による生活環境の改善である。

本見学では、橋梁の上を歩いたのち、橋梁の主桁を間近で見せていただいた。本工事に使用している主桁はプレビーム主桁である。プレビー

ム桁の製作工程や特徴を説明していただき、実際にコンクリートが打設された下フランジを見学することで、橋梁の構造について知識が浅い私でも「どういう工程で主桁が施工されたか」を理解することができた。

プレビーム桁は富山県の工場で作成し、地組ヤードへ陸送で運搬される。輸送距離670km、輸送時間17時間にもなる輸送である。

地組みされたプレビーム桁6主桁は、日本初となる大型起重機船によって一括架設が行われた。大型起重機船による一括架設の利点は、工期短縮と安全性の確保である。一括架設実施にあたり、港内に起重機船を入港させるには通常利用している航路を塞ぐ必要があったため、周囲の漁協や港湾関係者と調整し、施工したという説明を受けた。



主桁下の様子

### おわりに

実際に棧橋や橋梁の工事現場を見学するのは本見学会が初めてであり、どのようにインフラ施設が作られているかという過程を机上ではなく自分の目で見て学ぶことができる大変貴重な機会となった。

本見学会で見学現場を提供し説明をくださった東亜・本間・りんかい日産特定建設工事共同体、東亜建設工業株式会社 中国支店の皆様、また本見学会を開催してくださった建設コンサルタンツ協会 中国支部 技術部会の皆様には、この場を借りて深く感謝申し上げます。



### ● マネジメントセミナー

- 開催日：令和5年10月4日(水)  
 会場参加とライブ配信を併用したハイブリッド方式で開催  
 【午前の部】9：40～12：30  
 【午後の部】13：30～17：00  
 ライブ配信の録画動画見逃し配信  
 10月12日(木)10時～  
 10月19日(木)16時
- 主催：本部技術部会マネジメントシステム委員会
- 内容：・建設コンサルタントとマネジメント  
 ・PPP/PFIの政策動向と事例紹介  
 ～多様化する建設コンサルタントの役割～  
 ・CM方式の更なる普及に向けて  
 ～多様化するマネジメント業務への対応～  
 ・「サステナビリティ経営の実践」に向けて  
 ～アンケート、ヒヤリング結果から見た実践例と取り組み方～  
 ・マネジメントシステムの効果的運用に向けて  
 ～マネジメントにおける“温故知新”の提案～  
 ・アセットマネジメントの社会実装に向けて  
 ～メンテナンスからマネジメントへ～
- 参加者：1,577名(中国支部 75名)

### 品質セミナー“品質の確保・向上に向けて”

- 開催日：令和5年11月2日(木)～11月12日(日)  
 場所：オンラインセミナー（ビデオ配信）  
 主催：本部技術部会品質委員会
- 内容：・品質委員会の活動概要と契約不適合の発生状況  
 主な内容：品質委員会の活動概要と契約不適合の発生状況を建コン賠償保険の支払傾向などから紹介
- ・国土交通省品質確保対策への対応(国交省及び都道府県発注業務)  
 主な内容：国交省業務の品質確保対策アンケート結果に加え、都道府県業務のアンケート結果の紹介
- ・高評価業務の品質確保と向上への取り組み(表彰業務の事例)  
 主な内容：表彰業務の技術者アンケート・ヒヤリングに基づく、品質確保事例と高評価を得るための工夫などを紹介
- ・エラー防止のために
- (1) 道路/トンネル
  - (2) 橋梁
  - (3) 土質・地質
  - (4) 港湾
  - (5) 河川構造物
  - (6) 砂防・急傾斜
- 主な内容：それぞれの技術分野におけるエラーに関して、単純なエラーから技術的な判断エラーまで、本年度収集した新しい事例を中心に取上げます。各分野の近年のエラー事例の傾向・分析・改善策について紹介  
 その他、品質に関する最近の話題の紹介
- 参加者(全国)：1,837名

## ■ 研修講師の派遣

### ①中国地方整備局

研修名	実施日	派遣講師
基礎技術Ⅰ研修	R5. 7.7 (金) ～ 7.11 (火)	高宮晃一・安富泰弘・内田広明 (復建調査設計株)
3DCAD①セミナー	R5. 7.18 (火) ～ 7.19 (水)	森田大也・吉屋和彦 (復建調査設計株)
基礎技術Ⅱ研修	R5. 8.1 (火)	野田直樹 (株ヒロコン)
橋梁設計研修	R5. 9.5 (火) ～ 9.7 (木)	藤田啓輔(株長大)・反田恒・林浩二郎 (株総合技術コンサルタント)
一般構造物設計研修	R5. 10.2 (月) ～ 10.6 (金)	錦織真樹・勝部浩志・楠窪 剛 (中電技術コンサルタント株)・ 堤敦洋・松岡誠二・佐々木真希生・矢田淳一・ 梶村博昭・久留島浩二郎・濱田祐二 (株荒谷建設コンサルタント)・ 藤田啓輔 (株長大)
BIM/CIM活用支援管理職セミナー	R5. 10.30 (月) ～ 10.31 (火)	玉置康雄 (株エイト日本技術開発)
橋梁管理実務者Ⅱ研修	R5. 11.9 (木)	反田恒 (株総合技術コンサルタント)
河川技術Ⅱ研修	R5. 11.29 (水) ～ 12.8 (金)	佐藤孝治・山本泰督 (中電技術コンサルタント株)
砂防・土砂災害対応研修	R5. 12.14 (木)	来須洋二 (中電技術コンサルタント株)

### ②広島市

研修名	実施日	派遣講師
土木専門研修 (アスファルト舗装)	R5. 6.22 (木)	橋本雄太 (復建調査設計株)
土木専門研修(構造物設計)	R5. 6.23 (金)	野田直樹 (株ヒロコン)

### ③公益財団法人岡山県建設技術センター

研修名	実施日	派遣講師
コンクリート構造物の点検・ 診断・補修(上級)	R5. 10.3 (火) ～ 10.4 (水)	増田修・高木正行・増田智彦・松浦寛司・ 寺田弘基 (株エイト日本技術開発)
会計検査指摘事項の検証	R5. 11.28 (火)	中谷武弘・金田博志 (株エイト日本技術開発)

## ④広島県

研修名	実施日	派遣講師
中級Ⅱ講座(設計技術)	R5. 6.15 (木)	蔭山洋亮・坂本幸久・小田浩司・後藤啓治・加藤公啓・内田広明(復建調査設計株)

## ⑤広島高速道路公社

研修名	実施日	派遣講師
橋梁設計勉強会	R5. 12.14 (木)	高龍(株)片平新日本技研
BIM/CIM勉強会	R5. 12.19 (火)	玉置康雄(株)エイト日本技術開発
橋梁設計勉強会	R6. 1.15 (月)	高龍(株)片平新日本技研
橋梁設計勉強会	R6. 1.29 (月)	高龍(株)片平新日本技研

## ⑥三次河川国道事務所

研修名	実施日	派遣講師
橋梁に関する基礎講座	R5. 10.25 (水)	高龍(株)片平新日本技研

## ⑦松江国道事務所

研修名	実施日	派遣講師
橋梁に関する基礎講座	R5. 11.22 (水)	高龍(株)片平新日本技研
交通工学に関する基礎講座	R5. 12.20 (水)	米村圭一郎(株)片平新日本技研
交通量推計について	R6. 1.17 (水)	生田 進(株)福山コンサルタント

## ⑧福山河川国道事務所

研修名	実施日	派遣講師
橋梁等勉強会	R6. 2.13 (火)	藤田啓輔(株)長大 岡本幸一郎(基礎地盤コンサルタンツ株)

## ⑨浜田河川国道事務所

研修名	実施日	派遣講師
橋梁等勉強会	R6. 2.15 (木)	日高卓也(株)長大 岡本幸一郎(基礎地盤コンサルタンツ株)



## ■ 河川委員会の活動報告

### ● 河川委員会の開催状況と主な活動内容

回	開催日	内 容
第1回	R5. 5.10 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度 役員の改選及び会員の変更について</li> <li>建設コンサルタント協会 技術部会・委員長合同会議報告</li> <li>本年度活動内容について</li> </ul>
第2回	R5. 6.21 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国地方整備局への河川技術研修の講師派遣について</li> <li>中国地方整備局との講習会・交流会・現地見学会について</li> <li>クリーン太田川の参加について</li> <li>業務事例報告勉強会</li> <li>川マップの更新について</li> </ul>
第3回	R5. 8.9 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリーン太田川の実施報告について</li> <li>中国地方整備局との現地見学会調整事項について</li> <li>川マップの更新(担当河川)について</li> </ul>
第4回	R5. 9.20 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国地方整備局との現地見学会調整事項について</li> <li>業務事例報告勉強会</li> <li>川マップの更新の実施状況確認</li> </ul>
第5回	R5. 10.18 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国地方整備局との現地見学会調整事項について</li> <li>業務事例報告勉強会</li> <li>川マップの更新の実施状況確認</li> </ul>
第6回	R5. 11.15 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国地方整備局との現地見学会の実施内容について</li> <li>業務事例報告勉強会</li> <li>川マップの更新の実施状況確認</li> </ul>

### ● 令和5年度「クリーン太田川」への参加

「クリーン太田川」は、広島県を代表する“太田川”を、河川清掃を通じて美しい河川環境にすることを目的として実施されており、今年度も河川委員会の活動の一環として、以下のとおり「クリーン太田川」に参加しました。

開催日：令和5年7月30日(日)

場 所：太田川放水路右岸  
三滝橋～己斐橋上流(約2km)

目 的：建設コンサルタンツ協会 中国支部  
河川委員会 25名  
(協会員各社からの参加)



河川清掃を終えた参加者

## ■ 道路委員会の活動報告

### ● 道路委員会3WG、西日本4支部連携中国支部WGの開催状況と主な活動

回	開催日	内 容
76回	R5. 4. 5 (水) 道路委員会3WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新たな課題研究に関する意見交換</li> <li>• 「自転車利用環境」に関する情報提供 (WG 報告)</li> <li>• 西日本4支部連携WGの合同提言に関する報告 (木原委員)</li> </ul>
77回	R5. 5. 10 (水) 道路委員会3WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新たな課題研究に関する意見交換</li> <li>• 道路設計に関わる技術的疑問に関する情報収集 (各社報告)</li> </ul>
78回	R5. 6. 7 (水) 道路委員会3WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「建設DX」、「土木遺産」、「ウォークアブル化計画」の3WG活動開始</li> <li>• 「自転車利用環境」に関する最終報告 (WG 報告)</li> <li>• 道路設計に関わる技術的疑問に関する情報収集 (各社報告)</li> </ul>
1回	R5. 6. 19 (月) 西日本4支部連携WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 中国支部の活動内容、予算について</li> </ul>
79回	R5. 7. 5 (水) 道路委員会3WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「建設DX」、「土木遺産」に関する情報提供 (WG 報告)</li> </ul>
2回	R5. 7. 27 (木) 西日本4支部連携WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 中国支部の活動方針について</li> <li>• 提言書作成、先進事例の取り組み内容について</li> </ul>
80回	R5. 8. 2 (水) 道路委員会3WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「建設DX」、「ウォークアブル化計画」に関する情報提供 (WG 報告)</li> <li>• BIM/CIMモデル活用の事例紹介 (ウエスコ)</li> </ul>
3回	R5. 8. 29 (火) 西日本4支部連携WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「令和5年度第1回西日本4支部意見交換会」の情報共有</li> <li>• 提言書作成に関するグループワーク</li> </ul>
81回	R5. 9. 6 (水) 道路委員会3WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「ウォークアブル化計画」、「土木遺産」に関する情報提供 (WG 報告)</li> <li>• 土地利用一体型水防災事業に関する事例紹介 (エイト日社)</li> </ul>
4回	R5. 9. 22 (金) 西日本4支部連携WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 現地視察(高速クルーザー「SEA SPICA(シースピカ)」)</li> <li>• 現地視察を踏まえた意見交換</li> </ul>
82回	R5. 10. 4 (水) 道路委員会3WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「土木遺産」、「建設DX」について中間報告(WG 報告)</li> <li>• 補強土壁の適用・維持管理と多数アンカーの新技术について (多数アンカー式補強土協会)</li> <li>• 西日本4支部連携WGの瀬戸内海視察結果報告(木原委員)</li> </ul>
83回	R5. 11. 1 (水) 道路委員会3WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「建設DX」、「ウォークアブル化計画」に関する情報提供(WG 報告)</li> <li>• 広島県道路改良事業における走行シミュレーション等の紹介(セトウチ)</li> </ul>
5回	R5. 11. 8 (水) 西日本4支部連携WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 瀬戸内クルーズ等のイノベーションエリアの提案について</li> <li>• 中国支部の提言とりまとめについて</li> </ul>
84回	R5. 12. 6 (水) 道路委員会3WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「ウォークアブル化計画」、「土木遺産」に関する情報提供 (WG 報告)</li> </ul>

### ● 道路技術者の有益な知見の蓄積と共有

道路委員長 平岡 敦彦  
令和5年度の道路委員会は4月～12月委員会まで道路委員会3WGは9回(通期76回～84回)、西日本4支部連携中国支部WGは5回を開催した。

本委員会は、今年度より新たな研究課題として3WG:「建設DX」、「土木遺産」、「ウォークアブル化計画」を立ち上げ、2か年に渡る議論をスタートさせ、併せて2018年度より活動している「西

日本4支部連携」の計4つのWGを中心に活動を行った。各回については、1回/月の定期開催を行っており14社39名の委員の約8割以上が参加し今年度も活発な活動となった。

主な活動内容は、上記一覧表のとおりであり、「自転車利用環境」については、6月に報告書を取りまとめ2年間の活動を終了した。令和6年度も引き続きWGを中心に活動し、コンサルタント間の交流の場、有益な知見を共有する場にしたいと考えている。 以上

## ■ 構造委員会の活動報告

### ● 構造委員会の開催

回	開催日	内 容
1	R5. 5.26 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部活動報告</li> <li>分科会活動(広報 WG、ミス防止 WG)</li> <li>自由討議</li> </ul>
2	R5. 9.22 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレストレスト・コンクリート建設業協会との意見交換</li> <li>令和5年度構造物設計Ⅱ研修実施報告</li> <li>外部活動報告</li> <li>分科会活動(広報 WG、ミス防止 WG)</li> <li>自由討議</li> </ul>
3	R5. 12.15 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本橋梁建設協会との意見交換 (道示改訂、鋼道路橋計画の手引き、架設工事の事故防止等)</li> <li>令和5年度PC技術講習会の実施活動報告</li> <li>分科会活動(広報 WG、ミス防止 WG)</li> <li>自由討議</li> </ul>

### ● ひろしま建設フェア2023

開催日：令和5年10月14日(土)  
場 所：子供が楽しめる体験型ブース展示  
(会場：広島マリーナホップ)  
主 催：広島県、一般社団法人広島建設工業協会、広島建設業協会連合会、建設産業専門団体中国地区連合会、一般社団法人広島県測量設計業協会  
内 容：1)積み木でアーチ橋の組立て  
2)ipadで3D体験

### ● 令和5年度PC技術講習会

開催日：令和5年11月27日(月)～12月8日(金)  
場 所：オンライン講習会  
主 催：(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会中国支部  
(一社)建設コンサルタンツ協会  
中国支部  
内 容：1)PC技術の最近の動向  
2)PC橋の設計施工に関する留意点  
3)PC橋の施工における新しい取り組み(i-Construction等)  
4)PC橋の補修・補強技術とその事例

### ● 講師派遣

講習会名：令和5年度 橋梁設計研修  
開 催 日：令和4年9月5日(火)～9月7日(木)  
派 遣 先：中国地方整備局  
講義内容：調査計画概論、橋梁予備設計、橋梁詳細設計、維持管理他

講習会名：令和5年度 橋梁管理実務者(Ⅱ)研修  
開 催 日：令和5年11月9日(木)  
派 遣 先：中国地方整備局  
講義内容：耐震補強概論

講習会名：令和5年度 橋梁設計勉強会(第1回)  
開 催 日：令和5年12月14日(木)  
派 遣 先：広島高速道路公社  
講義内容：橋梁計画と上部工設計議論

講習会名：令和5年度 橋梁設計勉強会(第2回)  
開 催 日：令和6年1月15日(月)  
派 遣 先：広島高速道路公社  
講義内容：下部工設計議論①(橋脚と耐震設計)

講習会名：令和5年度 橋梁設計勉強会(第3回)  
開 催 日：令和6年1月29日(月)  
派 遣 先：広島高速道路公社  
講義内容：下部工設計議論②(橋台設計と基礎工設計)

## ■ 港湾委員会の活動報告

### ● 港湾委員会の開催状況と主な内容

回	開催日	内 容
港湾委員会 第1回 (参加38名)	R5. 6.12 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幹事、名簿等の確認</li> <li>・ 技術委員長合同会議の内容報告</li> <li>・ 現場見学会について</li> <li>・ 令和5年度活動内容について</li> <li>・ 港湾若手の会について</li> <li>・ 技術交流会について</li> <li>・ 新技術説明会(大成建設(株)、三信建設工業(株))</li> </ul>
港湾若手の会 第1回 (参加15名)	R5. 7.24 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 港湾若手の会の活動方針の検討</li> <li>・ 活動内容の決定と今後の予定</li> </ul>
港湾委員会 第2回 (参加38名内 WEB3名)	R5. 9.5 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R3活動成果「実施設計業務委託歩掛の補正」の今後の扱いについて協議</li> <li>・ 港湾若手の会の実施方針について報告</li> <li>・ 勉強会各社発表(復建調査設計(株)、(株)荒谷建設コンサルタント、(株)エイト日本技術開発)</li> </ul>
現場見学会	R5. 9.12 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下松地区栈橋(-19m)(ジャケット栈橋工事)見学</li> <li>・ 岩国港 臨港道路(橋梁上部工)見学</li> </ul>
港湾若手の会 第2回 (参加20名内 WEB2名)	R5. 9.21 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PR資料の作成</li> <li>・ 港湾基準勉強会(株)エイト日本技術開発、中電技術コンサルタント(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)、明伸技術コンサルタント(株)</li> </ul>
港湾委員会 第3回 (参加45名内 WEB6名)	R5. 10.23 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 港湾若手の会活動報告</li> <li>・ 技術交流会について</li> <li>・ 現場見学会報告</li> <li>・ JCCA セミナー動画コンテンツ登録システム使用について</li> <li>・ 勉強会各社発表(基礎地盤コンサルタンツ(株)、中電技術コンサルタント(株)、広建コンサルタンツ(株))</li> </ul>
港湾若手の会 第3回 (参加16名内 WEB4名)	R5. 11.1 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PR資料の作成</li> <li>・ 港湾基準勉強会(株)荒谷建設コンサルタント、基礎地盤コンサルタンツ(株)、復建調査設計(株)</li> </ul>
港湾委員会 第4回	R5. 12.12 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術交流会について</li> <li>・ 港湾若手の会の活動報告</li> <li>・ 勉強会各社発表(パシフィックコンサルタンツ(株)、明伸技術コンサルタント(株))</li> <li>・ その他(次年度以降の取り組み他)</li> </ul>
技術交流会	R5. 12.12 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本埋立浚渫協会2題、建設コンサルタンツ協会中国支部2題の講演を行い、意見交換を行った。</li> </ul>

本年度の活動は、新型コロナウイルス感染症対策をいしつつ、対面会議を中心として実施した。



● 対外活動1：現場見学会

日 時：9月12日(火) 8:30～16:00  
(移動時間を含む)

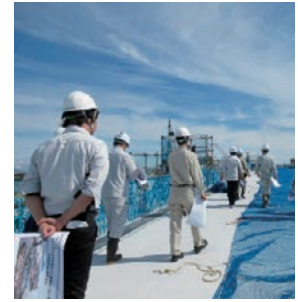
場 所：徳山下松港、岩国港

見学内容：徳山下松港棧橋工事  
(国際物流ターミナル整備事業、  
床版設置工事他)  
岩国港臨港道路橋梁上部工工事  
(物流輸送効率化)

参 加 者：港湾委員会参加10名  
(参加者総数30名)



徳山下松港にて工事責任者から事業概要・床版設置工事内容等の説明を受けて現場を見学。



岩国港にて工事責任者から事業概要・上部工工事内容等の説明を受けて現場を見学。

● 対外活動2：港湾関連技術交流会(講演会)

日 時：12月12日(火)

場 所：ひと・まちプラザ 研修室

参 加 者：72名(施工業者21名、  
建コン51名※内Web参加2名)

内 容：全4題の港湾工事及び港湾調査・  
設計関連の講演を行った。

施工業者(建設会社)	
五洋建設(株)	6
東洋建設(株)	2
若築建設(株)	1
東亜建設工業(株)	4
あおみ建設(株)	1
(株)大本組	2
(株)不動テトラ	2
みらい建設工業(株)	1
(株)本間組	1
りんかい日産建設(株)	1
合 計	21

設計者(建設コンサルタント)	
(株)荒谷建設コンサルタント	8
いであ(株)	3
(株)エイト日本技術開発	7
基礎地盤コンサルタンツ(株)	5
中電技術コンサルタント(株)	12
パシフィックコンサルタンツ(株)	4
広建コンサルタンツ(株)	1
復建調査設計(株)	8
明伸建設コンサルタント(株)	3
合 計	51

(内2名Web)

● 講演内容

1題目：中国地整管内におけるカルシア改質土の施工実績；

五洋建設(株) 野中 宗一郎

2題目：プレビーム合成桁橋6主桁海上一括架設；

東亜建設工業(株) 柏木 亮太

3題目：AUVを用いた水ソリューションサービス；

(株)エイト日本技術開発 木村 一朗

4題目：大水深における斜杭構造ドルフィンの設計事例；

パシフィックコンサルタンツ(株) 寺島 彰人



## ■ 防災委員会の活動報告

### ● 防災委員会の開催

回	開催日	内 容
1	R5. 4.28 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話題提供「溪流点検・施設点検におけるICTツールの活用」他1題</li> <li>・ 令和5年度活動方針について(防災教育、講演会・見学会、社会貢献活動)</li> </ul>
2	R5. 7.27 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話題提供「道路防災点検の現場と最近の動向」</li> <li>・ 防災教育 実施報告(広島市、岡山市)について</li> <li>・ 第1回WEB防災講演会について</li> <li>・ 吉井川総合水防演習について</li> </ul>
3	R5. 10.6 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話題提供「広島県 Doboxを使った地形解析」他1題</li> <li>・ 防災教育 実施報告(広島市)、岡山市での実施計画について</li> <li>・ 社会貢献活動(災害冊子作成)実施計画</li> <li>・ 現場見学会について</li> </ul>
4	R5. 12.15 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話題提供「靱トンネルの工事進捗状況について」他1題</li> <li>・ 防災教育 岡山市での実施報告と今後の予定</li> <li>・ 第2回WEB防災講演会について</li> <li>・ 現場見学会について</li> </ul>

### ● 第1回WEB防災講演会

「専門家連携による災害復興支援の進め方」  
 様々な立場・視点から専門家の連携について、現状の取り組み状況や課題についてのご講演をいただいた。主催者側は土木でのアプローチに長けた会員が多いと思われ、福祉士会や弁護士会や県議会での取り組みは新しい知見となったと思われる。

開催日：令和5年8月2日(水)  
 13:00～17:00

主 催：(一社)建設コンサルタンツ協会中国支部、  
 (公社)日本技術士会中国本部防災委員会

協 賛：広島県災害復興支援士業連絡会

後 援：中国地方防災研究会

参加者：430名(会場：90名、WEB：340名)

後 援：中国地方防災研究会

### 内 容：

講 演1 「大規模災害に備え、支援者に求められること」

神戸大学名誉教授・減災環境デザイン室顧問  
 室崎 益輝

講 演2 「建築士として近年の災害を経験して思ったこと」

(一社)岡山県建築士会会長  
 塩飽 繁樹

講 演3 「福祉専門職による防災、減災の取り組み」

(公社)広島県社会福祉士会会長  
 三上 和彦

講 演4 「災害復興支援における士業連携～弁護士から見た士業連携の重要性～」

広島弁護士会災害対策委員会委員  
 砂本啓介

講 演5 「災害に強いまちづくり、平時からの取り組み」

広島県会議員 西本 博之

●第2回WEB防災講演会

「これからの土砂災害対策」

近年、頻発している土砂・洪水災害について、これからの新しい対策方法やデジタル化の方向性等を交えながら、土砂災害対策の新たな展開についてお話し頂くとともに、学識経験者や行政ご担当者の方々を迎え、学術的なお話や効率的・効果的な対策についてご講演頂いた。

開催日：令和6年2月2日(金)

13:00～17:00

主催：(一社)建設コンサルタンツ協会中国支部、  
(公社)日本技術士会中国本部防災委員会  
広島県災害復興支援土業連絡会

後援：中国地方防災研究会

内容：

- 講演1 「土砂災害対策の新たな展開」  
(一社)全国治水砂防協会理事長  
(公社)砂防学会会長 大野 宏之
- 講演2 「近年にわが国で発生した土砂・洪水災害の特徴」  
山口大学特命教授 山本 晴彦
- 講演3 「広島西部山系砂防事務所の土砂災害対策」  
国土交通省中国地方整備局  
広島西部山系砂防事務所所長  
大山 誠
- 講演4 「広島県みんなで減災県民総ぐるみ運動」  
広島県危機管理監  
みんなで減災推進課課長  
橋本 裕之
- 講演5 「広島市豪雨災害伝承館について」  
広島市都市整備局都市整備調整課  
復興まちづくり担当課長 小林 靖

●防災教育

小・中学生や高齢者を対象に、今年度は広島市・岡山市の計10箇所で行いました。

R5.5.27 岡山市北区御南西公民館辰己町内会  
町内住民 35名  
(街歩き・防災マップづくり)

R5.6.9 青崎公民館  
高齢者 36名  
(座学、ハザードマップ・マイタイムライン作成)

R5.6.10 岡山市南区灘崎公民館  
自主防災会 57名  
(街歩き・防災マップづくり)

R5.6.15 皆賀公民館  
高齢者 20名  
(座学、ハザードマップ・マイタイムライン作成)

R5.7.6 広島市立翠町中学校  
中学1年生 251名  
(座学、ハザードマップ作成)

R5.7.13 広島市立日浦中学校  
中学1～3年生 93名  
(座学、ハザードマップ・マイタイムライン作成)

R5.9.2 薬師が丘町内連合会  
高齢者54名  
(座学、ハザードマップ・マイタイムライン作成)

R5.9.6 広島市立観音小学校  
小学4年生 93名  
(座学、ハザードマップ作成)



座学の様子



ハザードマップ(iPad使用)の作成



R5. 9. 20 広島市立山田小学校  
小学5年生 23名  
(座学、ハザードマップ作成)

R6. 3. 16 岡山市東区西大寺公民館  
自主防災会関係者 40名  
(街歩き・防災マップづくり)

### ●吉井川総合水防演習

開催日：令和5年5月27日(土)  
9:00～12:00

主催：国土交通省中国地方整備局、岡山県、和気町、岡山市、津山市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、美作市、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町

場所：岡山県和気郡和気町原地先  
(吉井川右岸河川敷き・和気橋下流)

内容：出展ブースでのパネル展示、防災動画の放映、防災冊子の紹介・配布

### ●防災見学会

開催日：令和5年12月20日(水)

場所：広島市豪雨災害伝承館・砂防堰堤見学会

参加者：20名

視察内容：

平成26年8月の広島豪雨災害から9年数ヶ月が経過し、現地では計画された砂防堰堤が完成し、溪流保全工や管理用道路、周辺施設の整備が続いています。広島市では令和5年10月に、豪雨災害により犠牲になられた方々への追悼と鎮魂の場となるシンボリックな拠点施設として、広島市豪雨災害伝承館を開設されました。今回の見学会では、広島市豪雨災害伝承館において、語り部による被災体験語りや災害復興の歩みから防災・減災について学ぶとともに、被災地及び完成砂防堰堤の現地視察を行いました。



パネル展示の様子



防災冊子の説明・配布



広島市豪雨災害伝承館



## ■ 地域計画委員会の活動報告

中国支部(地域計画委員会)では、社会貢献活動としての取り組みを行うため、定期的に委員会(会議)を開催し、(1)まちづくり出前授業、(2)公共空間を活用した販わいづくり、(3)小学生向けまちづくりコンテンツの作成、(4)フォーラムの開催、及び報告書のとりまとめなどの活動を行ってきました。

### ● 地域計画委員会の開催

回	開催日	内 容
1	R5. 4.19 (水)	・令和4年度の活動報告・令和5年度の活動テーマについて
2	R5. 5.17 (水)	・令和5年度の活動テーマについて
3	R5. 6.21 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車マップの作成について</li> <li>・チャレオとの連携策について</li> <li>・小学生向けまちづくりコンテンツの作成</li> </ul>
4	R5. 7.19 (水)	
5	R5. 8.21 (月)	
6	R5. 9.21 (木)	
7	R5. 10.24 (火)	
8	R5. 11.30 (木)	

### (1) まちづくり出前授業

広島市立三篠小学校(西区)の総合的な学習の時間において、下表の通り、出前授業を実施し、子どもたちのまちづくりや環境保全等への関心を高め、意識啓発を行いました。

テーマ	まち(三篠)のやさしさ (ユニバーサルデザイン)	大切なまち(三篠)の環境
実施日	令和5年5月30日(2コマ)	令和5年6月13日(2コマ)
対象者	三篠小学校3学年(児童140名+教員6名)	三篠小学校4学年(児童140名+教員6名)
対象者	JR横川駅を中心としたまちのユニバーサルデザインについて、PPTによる説明やクイズ形式での出題、車イスでの通行体験や透水性舗装の浸透実験など実物サンプルを使った仕組みの解説やルールなどについて講義を実施。児童は後日、実際に駅の周りの街を調べて歩き、気づきをまとめて発表した。	学校を取り囲む太田川や三滝山、廃棄物の埋立後に整備された竜王公園の歴史等を通じ、自然環境・生活環境・3R等についてPPTでの説明を中心に講義を実施。また、調査用のUAVの展示・解説も実施。児童は後日、実際に太田川放水路での調査や清掃活動を実施し、グループ発表を行った。



## (2) 公共空間を活用した賑わいづくり

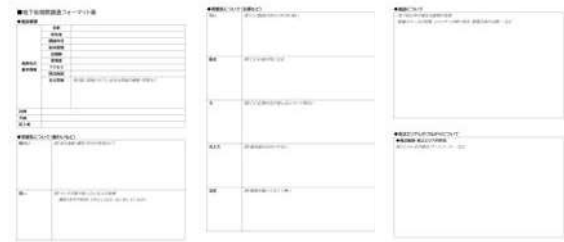
地域計画委員会では、公共空間を積極的に活用したまちづくりに取り組んでおり、広島市中心部の地下街「シャレオ」と連携した活動を進めています。

令和2年度は「まちなかの居心地の良さを測る指標(案)」(国土交通省)を用いた調査の実施、令和3年度はシャレオ内の多目的スペースを活用した無料休憩スペースの運用試験、令和4年度は具体的な施策の実証実験に向けた敷地内の五感調査を行いました。

ここ数年の調査や活動で、シャレオにおける問題点や課題を把握した一方で、他都市の類似する空間との比較ができていない状況となっていることから、今年度は、多様な視点から他都市の地下街や商店街を視察し、視察結果を今後のシャレオ又はその他の公共空間におけるにぎわいづくり企画に活用することとしました。



他都市の地下街視察(左：岡山、右：盛岡)



地下街視察調査票

## (3) 小学生向けまちづくりコンテンツの作成

地域計画委員会では、これまでまちづくりに関する様々な著作物を作成し、各所に配布・展開しています。昨年度は自転車マップを作成し、観光地や宿泊施設へ配布しました。

本年度は、小学生を対象に、まちづくりについて学んでもらうとともに建コンをPRするためのコンテンツ作りを進めています。メンバー間での議論や、他事例調査・試行を重ね、すごろく形式のプロトタイプを作成するまでに至りました。今年度の成果をもとに、来年度具現化に向けてさらに検討を進める予定です。



まちづくりすごろく(プロトタイプ)

## (4) フォーラムの開催

地域計画委員会では、これまで「公共空間」「自転車」「中山間地域」「スポーツ」などをテーマとしたフォーラムを開催し、地域住民への情報提供、意識啓発を行ってきました。今年度は、広島市中心部にできる新サッカースタジアムと周辺エリアの付き合い方について、関連団体の代表者によるパネルディスカッションを展開します。スタジアムへは広島駅、紙屋町方面からの来訪がほとんどと想定される中、最寄りの横川、白島方面や地元の基町はどうなるのか、今後の在り方・理想像などについて語り合いました。

地域計画委員会企画「まちトーク2023」

**祝・新サッカースタジアム開業!**

**「じゃないほう」の大作戦会議**

— YOUはここからスタジアムへ —

**日時** 2023年12月16日(土) 18:30~20:30

**会場** コジマホールディングス西區長文化センター 2Fスタジオ 西區横川駅前6-1

**主催** 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会中国支部 地域計画委員会

**入場無料**  
(先着150名)  
当日券を事前  
に申込みます

**プログラム**

- 18:30 開会挨拶：前田 建設コンサルタンツ協会中国支部地域計画委員会
- 18:45 事前アンケートアップ！～目標達成～  
「新スタジアムがやってきた！どうする？どうなる？わたしの街」  
～各エリアの取り組み～
- 19:00 開会挨拶キックオフ！～トークセッション～  
パネリスト：横川 日本土木学会長 長岡 西宮 氏  
白島 西宮 氏  
基町 西宮 氏  
空堀 西宮 氏  
湯原 西宮 氏  
湯原 アパート(駅5分) 自治会長 坂井 三子 氏  
コーディネーター：西宮 氏 地域計画委員会
- 20:30 閉会挨拶：前田 地域計画委員会

**お問い合わせ・申し込み先**

お申し込みは以下のいずれかの方法をお願いします。(※)

① 右記のQRコード ② Eメール (k-ogino@ccnt.or.jp)  
③ 電話 (082-256-2568) ④ 郵送 (082-256-2568 郵便局留)

※当日参加もOKですが、事前申し込みをご確認ください。 FAXは審査をご利用ください。

【お問い合わせ】 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会中国支部 地域計画委員会  
申請棟 建設コンサルタンツ株式会社 まちトーク2023担当 前田 (電話: 082-256-3352)

フォーラム チラシ

## ICT 委員会の活動報告

### ● ICT 委員会の開催状況と主な活動

回数	開催日	主な活動内容
第4回	R5. 4.17 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本部ICT委員会からの報告事項</li> <li>BIM/CIM関連の講習(広島市・岡山市)報告</li> <li>広島県建設DX担当との意見交換会報告</li> <li>点群データに関する情報交換</li> <li>3DCADソフトに関する情報交換</li> <li>第1回技術部会技術委員長合同会について</li> </ul>
第5回	R5. 6.16 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>点群データ処理の勉強会</li> <li>本部ICT委員会からの報告事項</li> <li>本部ICTセミナーの開催方法意見聴取</li> <li>BIM/CIM関連の講師派遣依頼</li> <li>オートデスク製品のライセンス仕様の変更について</li> <li>ICT建機の土工データについて</li> <li>3DCADソフトに関する情報交換</li> </ul>
第6回	R5. 8.21 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本部ICT委員会からの報告事項</li> <li>GIS講習会について</li> <li>CIMハンズオン研修について</li> <li>BIM/CIM関連の講師派遣依頼</li> <li>近畿支部ICT研究委員会との意見交換会について</li> <li>3次元での数量算出に関する情報交換</li> <li>土木学会全国大会の案内</li> </ul>
臨時	R5. 8.23 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>近畿支部ICT研究委員会との意見交換会(24日に近畿支部主催の山口県建設DX推進班との意見交換会に同行)</li> </ul>
臨時	R5. 9.13 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本部ICT委員会との意見交換会</li> </ul>
第7回	R5. 12.8 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本部ICT委員会からの報告事項</li> <li>報告事項(GIS講習会、ICTセミナー)</li> <li>意見交換会(本部、近畿支部、山口県)</li> <li>広島高速道路公社 BIM/CIM研修について</li> <li>今後の活動内容について</li> </ul>

ICT委員会は2022年10月から活動を始め、公募により15社から25人のメンバーでスタートしました。最近では、国や自治体からのBIM/CIMの講師派遣依頼が増えており、メンバーで分担しながら対応しています。また、中国地整や広島県との意見交換会にも参加し情報交換を行いました。

ICT委員会では、3次元点群データ処理の勉強会や各社の困りごとをみんなで解決する「困りごと相談会」の実施、オートデスク製品のライセンス仕様などのトピックの共有などを通じて、各社がWin-Winの関係になれるような活動を目指しています。



## ■ 令和5年度親睦活動

厚生部会では、支部協会員の親睦と健康維持を目的としてスポーツ大会を開催しています。今年度は11月2日にゴルフ大会、11月11日にフットサル大会、12月8日にボウリング大会を

開催しました。3つの大会ともコロナ禍前以上の参加者が集い、賑やかに開催することができました。ありがとうございました。

### ■ 第58回ゴルフ大会

- (1) 個人戦は荒谷建設コンサルタントの森貞安雄さんが優勝!
- (2) 団体戦は坪井俊郎さん(中電) 出来谷規人さん(長大) 立野慎二さん(セトウチ) 岩苔宏さん(荒谷)チームが制覇!
- (3) 第3回となる会社対抗戦は中電技術コンサルタント(坪井俊郎さん、縄田和成さん、蔵重耕一さん)チームが、なんと3連覇達成!

令和5年11月2日(木)に第58回の親睦ゴルフ大会を「千代田ゴルフ倶楽部」で開催しました。参加は11社(内、2名以上参加9社)で初参加の5名を含め32名(8組)と過去最多となりました。平均スコア(グロス)は一昨年の110.0点から昨年は105.0点に、そして今年は102.3点へと改善しました。ハンディはダブルペリア

方式で行い、個人戦はワンツースリーを荒谷建設コンサルタントが独占し、森貞さんがグロス83、ネット71.0で優勝されました。ただし、今年で3回目となる会社対抗戦(2名以上参加した会社が全員のNET平均で競う)では、中電技術コンサルタントチームがなんと3連覇を達成されました。



スタート前の集合写真

### 成績

#### (1) 〈個人戦〉

	氏名(会社名)	OUT	IN	G	HD	NET
優勝	森貞 安雄(荒谷建設CT)	41	42	83	12.0	71.0
2位	岩苔 宏(荒谷建設CT)	47	41	88	16.8	71.2
3位	新谷 保則(荒谷建設CT)	50	48	98	26.4	71.6



## 《ゴルフ大会優勝者の声》

森貞 安雄さん(写真左)

株式会社荒谷建設コンサルタント

年 齢：56歳

役職位：福山支店長

出身地：広島県廿日市市

家族構成：妻、子2人

趣 味：妻と一緒にカーブ観戦  
(毎年6~7試合)

ゴルフ歴：40年くらい



### ① ゴルフを始めたきっかけ

高校1年生の時に父親に練習場に連れて行ってもらったのがきっかけです。その練習場のオーナーさんがとても上手な方だったのでよく教えてもらったりしていました。また、週末には近くのゴルフ場でキャディのアルバイトをしながらコースでの練習もしていました。

### ② 一番思い出に残っていること

もう18年前になりますが、クラブチャンピオンになれたことです。スコア自体は、そこまでよくはなかったのですが大きく崩れることもなくなんとか勝つことができました。そのゴルフ場には、まだクラブチャンピオンのプレートが掲示されているので息子たちに自慢したりしています。

### ③ ゴルフが上手くなるには

ゴルフを始めたときに父親にはマナーについて厳しく指導されました。始めたばかりの頃に、スコアが悪く態度に出してしまった事がありましたが、こっぴどく叱られました。その時のことはいまだによく覚えています。いい時も悪い時も同伴者に不快な思いをさせないように楽しくプレーができればそれが一番いいのではないのでしょうか。

### ④ 今回の勝因

今回は11月とは思えないような陽気で半袖でプレーしても汗ばむような感じでした。

ゴルフ場のコンディションも最高で楽しくプレーできました。1ヶ月前に練習ラウンドをしてコースの状態が把握できていたことが一番の勝因だと思います。

### ⑤ その他一言

今回は8組32人という大勢の参加で大変賑やかな大会となりました。そんな中で弊社社員が個人戦の1~3位を独占するという快挙を成し遂げました。(会社対抗戦では優勝できせんでしたが)また来年以降も賑やかな大会となりますように祈念します。最後に、大会の準備等でいつもお世話になっております事務局の皆様にご挨拶を申し上げます。

(2) 〈団体戦〉

順位	メンバー（会社名）		NET平均点
優勝	坪井 俊郎（中電技術CT）	出来谷 規人（長大）	75.1
	立野 慎二（セトウチ）	岩苔 宏（荒谷建設CT）	
2位	新谷 保則（荒谷建設CT）	大河 淳（陸地CT）	76.3
	坂本 祐樹（長大）	村上 欣也（復建調査設計）	



団体優勝チーム  
立野さん 坪井さん 岩苔さん 出来谷さん

(3) 〈会社対抗戦〉

順位	会社名	メンバー	NET平均点
優勝	中電技術コンサルタント	坪井 俊郎、縄田 和成、蔵重 耕一（3名）	75.3
2位	荒谷建設コンサルタント	島田淳次、林 栄一、宮本 寿夫、 新谷 保則、岩苔 宏、森貞 安雄（6名）	75.5
3位	長大	出来谷 規人、坂本 祐樹、栢裕 一郎（3名）	75.6



会社対抗戦3連覇の中電技術コンサルタントチーム  
坪井さん 縄田さん 蔵重さん

(4) 〈平均スコア〉

順位	58回(今回)	57回	56回	55回
参加人数	32	24	24	16
平均スコア(グロス)	102.3	105.0	110.0	103.4

前回からさらに改善され目標の100切りが見えてきた!?

## ■第13回フットサル大会

西日本高速道路エンジニアリング中国が平成30年第10回大会以来の6度目優勝！

14社、23チーム、220名が参加。最多参加者数を更新し、今年も盛り上がりました。

令和5年11月11日(土)、第13回フットサル大会を初会場となる「フットサルドームPIVOX広島」で開催しました。本会場は、屋内コート2面と屋外に1面の3コートを使用できるため、試合数や試合時間(5分ハーフ)が確保できました。ただし、雨天の場合も考慮して屋内2コートのみ使用する場合の組合せや試合時間(4分ハーフ)による対戦表も準備する等、運営委員の皆様には準備から大変にお世話になりました。お陰様で朝早くから夕方(9時~17時半)まで楽しく過ごし、参加者の家族も含め親睦を深めることができました。

真剣リーグ(勝負にこだわる7チーム)の結果

は、予選リーグから順位決定戦に4チームが残り、決勝戦は西日本高速道路エンジニアリング中国が復建調査設計に勝利し6回目の優勝を果たしました。おめでとうございます。3位決定戦はウエスコが中電技術コンサルタントに勝利しました。親睦リーグ(親睦を楽しむ16チーム)では、勝敗数でなく参加チームの投票により、チームワークの良かった5チームがチーム賞に選ばれました。また今回は、建設コンサルタンツ協会中国支部若手の会のご協力により、お昼の休憩時間には「トイドローン体験」を開催し、キックターゲットと併せて多くの子供たちが興味津々に楽しんでいました。



開会式の後、全員で柔軟体操

### 真剣リーグ 成績と順位

チーム名	会社名	予選リーグ	順位決定戦
VVVハーディア	西日本高速道路エンジニアリング中国(株)	4勝2敗	優勝
FGEXブルー	復建調査設計(株)	4勝2敗	準優勝
NCW.FC	(株)ウエスコ	3勝1敗2分	3位
CEC多久和∞	中電技術コンサルタント(株)	2勝2敗2分	4位
あらあらたにたに	(株)荒谷建設コンサルタント	2勝3敗1分	予選敗退
い〜じえつくA	(株)エイト日本技術開発	1勝2敗3分	予選敗退
KSGFC guerra	(株)片平新日本技研	0勝4敗2分	予選敗退

順位は、予選リーグの1位対2位、3位対4位の対戦により決定しました。



## チーム賞・個人受賞者

賞		チーム名・個人名	チーム、受賞者
親睦リーグ	チーム賞	KSGFC paz	(株)片平新日本技研
		相生エンジ	相生エンジニヤリング(株)
		ウエスコFC	(株)ウエスコ
		The DCEN	大日本ダイヤコンサルタント(株)
		たにたにあらあら	(株)荒谷建設コンサルタント
個人賞	MVP(男性)	亀本 一将	西日本高速道路エンジニアリング中国(株)
	MPV(女性)	笠崎 仁菜	大日本ダイヤコンサルタント(株)
	MVP(50代)	武田 靖男	(株)エイト日本技術開発
	M G P	砂 侑奈	中電技術コンサルタント(株)
	M G P	丸尾 愛美	西部技術コンサルタント(株)
選手宣誓		岩原 雄大	復建調査設計(株)

※)MGP賞は“もっともがんばったで賞”として頑張った2名に贈られました。

## 【優勝記】

## 西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社

## 田中 修平さん

私たち「VVVハーディア」は、前回大会からメンバーの若返りを図り、チーム名も新たに参加させていただきました。その前回大会では、決勝戦でPK戦の未敗れるという非常に悔しい思いをしましたので、今回優勝することができ大変嬉しく思います。

今大会に向けては、雪辱を晴らすべく大会直前合宿を行うなど入念な準備をしてきました。合宿では、4時間みっちり基礎練習、ゲーム練習を行い、夜はチームワーク向上のためのBBQ大会を行うなど、しっかりと準備を整え、満を持して挑んだ大会でした。直前で絶対的エースの業務都合による離脱というアクシデントもありましたが、そのおかげかチームワークはさらに高まり、何とか優勝を勝ち取ることができました。

また、15人という大所帯での参加でしたが、

1試合全員出場という目標を掲げ、ローテーションをしながら挑むことで、社会人あるあるの体力不足を少なくできたことも優勝の一因だと感じました。

今大会は、各チームともにゴレイロが目立った大会で、ロースコアでの決着も多く、スーパーセーブが多く出た大会だと思います。全体的なレベルも拮抗しており、予選リーグでは最後の1試合までどのチームが決勝戦、3位決定戦にあがるかわからない、緊迫した戦いを繰り広げました。ここまでの真剣勝負を行う場はないので、フットサルの難しさ、緊張感、苦しさ、そして一番は楽しさを再認識できる大会となりました。

最後になりましたが、大会を開催していただきました建設コンサルタンツ協会中国支部の皆様、大会運営に関われた皆様及び参加者の皆様に感謝申し上げます。

次回大会は、今大会覇者として恥ずかしくない戦いをして連覇を目指したいと思います。



優勝のVVVハーディアチーム



### 【男性MVP】

西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社  
亀本 一将さん

この度は、男性MVPに選んでいただき誠にありがとうございます。このような栄えある賞をいただけるのは初めてのことなので大変光栄に思います。

前回大会は、決勝戦でPKを止めることができず悔しい思いをしました。そのため、今大会にかける思いは人一倍あり、全試合無失点を目標に挑んでおりました。目標達成とはいきませんでしたが、決勝戦を無失点に抑えることができ、チームメイトの得点もあり優勝すること

ができ大変嬉しく思います。

今大会は、改めてスポーツの楽しさを実感した大会になりました。当たり前のことですが、試合に勝ったら嬉しく、負けたら悔しい気持ちになります。それも試合に取り組むみんなが真剣に向き合うからこそであり、時には熱くなりすぎることもあります。それだけ白熱したい闘いができているのだと感じました。そして、これこそがスポーツの醍醐味だと改めて実感しました。

最後に、楽しくかつ白熱した大会を開催、運営して下さい皆様、そして参加者の皆様に感謝を申し上げますとともに、次回開催を心待ちにしております。

### 【女性MVP】

大日本ダイヤコンサルタント株式会社  
笠崎 仁菜さん

この度は素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。

昨年に引き続き2回目の出場でした。昨年はシュートを決めることができず、悔しい結果でし

たが、今年は沢山アシストしていただき、念願のシュートを決めることができ、女性MVPもいただきとても嬉しいです。

チームの皆さん(母の会社の方々)はとても優しい方ばかりで、一日楽しく過ごせました。来年はもっとシュートを決めて、チームに貢献したいと思います。

### 【50代MVP】

株式会社エイト日本技術開発  
武田 靖男さん

この度は50代MVPに選んでいただき誠にありがとうございます。第1回大会から参加させていただいておりますが、初めてこのような栄誉ある賞をいただき大変嬉しく思っております。

思い起こせば第1回大会は、真剣リーグと親睦リーグの分けが無く、寄せ集めの半分素人集団で参加して、ボコボコに打ちのめされて悔しい気持ちで帰ったのを覚えています。それから14年の月日が流れて、気が付けば50代。気持ちでは若者たちに負けたくありませんが、やはり体が思うように動かなくなってきました。ただ、シュートを決めたら2点もらえる特権をいただいたので、年寄り想いの若者たちがいいア

シストをくれて、今回の受賞に繋がったのだと思います。来年は、体を鍛え直して、真剣リーグのMVPを目指します!

最後に、大会運営に携わっていただいた皆様、業務をこなしながらの準備、開催大変ご苦労されたと思います。心より感謝を申し上げます。



左から 笠崎さん 武田さん 亀本さん  
(女性MVP) (50代MVP) (男性MVP)





キックターゲットの様子



ペナルティーエリアを“トイドローン体験飛行コース”に



## ■第56回ボウリング大会

団体戦は相生エンジニアリングチームが優勝!

個人戦は、男子は陸地コンサルタントの伊藤秀幸さん、女子はエイト日本技術開発の大塚純子さんが共に初優勝!

12月8日(金)に第56回ボウリング大会を広島市中区八丁堀の広島パークレーンで開催しました。今回は12チーム(36人)の参加があり、2階、3階のフロアに分かれて行いました。



投球開始前の集合写真

### 〈個人戦〉

	氏名(会社名)	1G	2G	3G	HD	計
優勝	伊藤 英幸(陸地CT)	193	147	174	-	514
準優勝	岩原 涼介(ヒロコン)	141	180	179	-	500
女子優勝	大塚 純子(エイト日本技術)	108	132	141	45	426

### 〈団体戦〉

順位	会社名・メンバー	NET平均点
優勝	相生エンジニアリングチーム	1,194
	岩瀬 大佑(335) 豊口 佳祐(437) 塩田萌絵子(422)	
準優勝	陸地コンサルタントチーム	1,169
	伊藤 英幸(514) 安田 隆男(386) 池田 美遥(269)	

## 【優勝記】

## ■ 団体優勝 相生エンジニアリングチーム

この度、第56回建設コンサルタンツ協会ボウリング大会に参加させていただきありがとうございました。非常に有意義な時間を過ごすことができました。

今回の優勝は相生エンジニアリングに社名を変更後、初優勝となります。参加したメンバーは入社3年目1名、1年目2名という若手で構成したチームで、仕事においてはまだまだ未熟ではありますが、違った形で会社に貢献することが出来たと勝手に思っています。社内では久しぶりの優勝を祝して社長からチーム3名に美味しい料理をご馳走になる程、優勝したことで盛り上がりました。改めて大会を振り返ると、最初はとても緊張しましたが、ゲームが進むにつれて笑い声や歓声があがりいつの間にか時間を忘れてチーム一体となって大会に臨んでいました。昨今、なかなか人と集まることができない時期が続きましたがこのような大会が継続して開催されることは非常に嬉しいことだと感じました。若手のチームと自称しつつも、張り切りすぎたお陰で土曜日から水曜日まで筋肉痛が続きましたが心地よかったです。次回は防衛戦頑張ります。

建設コンサルタンツ協会中国支部厚生委員の皆様におかれましては、このような楽しい親睦の機会を与えていただきまして、誠にありがとうございました。



団体優勝の相生エンジチーム  
塩田さん、岩瀬さん、豊口さん

## ■ 男子個人優勝 株式会社陸地コンサルタント 伊藤 英幸さん

昨年に続き2回目の参加ですが、思いもかけぬ個人優勝という好成績に大変驚いています。

私のボウリング歴は、約30年前に同僚に誘われて始めました。当時はマイボールを何個も持っていた時もありましたが、数年後に股関節を痛めてからは練習にも行かなくなり、いつの間にかボールは粗大ごみに出されていました。あれから20年位はボウリングをしていませんでしたが、数年前に同僚に誘われてマイボールを買い、年に5・6回程度は投げています。今年9月開催の社内ボウリング大会ではアベレージ128.5と最悪、10月の某大会ではアベレージ145.5少し良くなり、今大会ではアベレージ171と近年で最高です。

乱高下の激しいスコアですが、これからも機会がありましたら、参加させていただきたいと思えます。本当に有り難うございました。



## ■ 女子個人優勝 株式会社エイト日本技術開発 大塚 純子さん

この大会はいつも気楽に参加していたのですが、まさか自分が優勝するとは1ミリも思っていなくて、とても驚きました。もともと運動が苦手なので、ボウリングも1年に一度この大会に参加するかしないかの頻度の私がかまさか・・・です。会社としても昨年より成績が上がっていたので、満足です。またいろいろな親睦会に参加したいと思いますので、その時はよろしくお願ひします。いつもお忙しい中、企画・運営をして頂いてる皆様に感謝です。





## コウノトリから繋がるネットワーク

復建調査設計株式会社

環境部 若宮 慎二

### 1. はじめに

コウノトリは、翼を広げると2mにもなる大型の鳥です。空を舞う姿を真下から見ると、白と黒の翼のコントラストやその雄大な姿、美しさに誰もが圧倒されます(写真1)



写真1 白と黒のコントラストが美しいコウノトリ

日本のコウノトリは、1971年に兵庫県豊岡市で最後の野生個体が絶滅しました。その後、兵庫県と豊岡市による保護増殖事業で飼育個体数が100羽を超えるようになり、2005年から野外放鳥などによる野生復帰が本格的に始まりました。2023年には、400羽近くのコウノトリが全国の空を羽ばたくまでに至っています。

### 2. コウノトリと私の繋がり

国土交通省の研究機関である国立研究開発法人 土木研究所(当時:独立行政法人)へ出向中の2002年、当時の研究テーマでもあった“エコロジカルネットワーク”の一環で、豊岡市へ視察に行く機会がありました。ちょうどその頃、豊岡市では野生のコウノトリ(8月5日に飛来したことから“ハチゴロウ”と呼ばれていた)(写真2)が飛来し、一級河川円山川水系の自然再生事業も計画策定に向けて本格的に動き始めていました。

私は、その翌年の2003年から国土交通省の業務で円山川水系の自然再生事業の調査や計画検討に携わることになりました。その中で、野生コウノトリの“ハチゴロウ”の行動や採餌場

所、採餌物などを調査した縁もあり、2006年からは豊岡市と兵庫県が計画するコウノトリのための湿地(“ハチゴロウ”の戸島湿地)整備事業にも携わることになりました。



写真2 ナマズを食べる“ハチゴロウ”(愛称)

### 3. “ハチゴロウ”の戸島湿地の計画づくり

“ハチゴロウ”が主に餌場にした場所は、豊岡市城崎町戸島地区に位置する昔ながらの低湿地の水田でした。この水田を豊岡市が買い上げ、2006年からコウノトリの餌場になるよう整備計画づくりが始まりました。円山川の下流域に位置するこの場所は、汽水、淡水、水田、樹林、溪流のそれぞれの環境と多様な生態系が凝縮された、まさに生物多様性の玉手箱のようでした。

計画づくりでは、この多様な環境を保全しながら、湿地の汽水域と淡水域の面積の割合や形状、水深、維持管理方法など、様々な議論すべき点がありました。その中で一つの大きな課題が、汽水域と淡水域を繋ぐ構造でした。湿地の一部は農業用水としても利用されるため、干満による塩水遡上を防ぐ必要があり、一方で、汽水域と淡水域を行き来する魚類等の移動経路を確保する必要がありました。この課題を解決すべく計画したのが、塩水遡上を防ぎ魚道機能(遡上・降下が可能)を持った浮体式の起伏ゲートです(写真3)。この構造が“ハチゴロウ”の戸島湿地のエコロジカルネットワークを構築し、生物多様性を一層高めるポイントの一つになっているものと自負しています。



写真3 魚道機能を持った浮体式起伏ゲート

この“ハチゴロウ”の戸島湿地では、設置された人工築塔で2008年から現在まで毎年コウノトリが繁殖しており、生物多様性が高く、コウノトリにとって安定した生息環境になっていることを証明してくれています(写真4)。

#### 4. 豊岡市での様々な取組み

豊岡市で仕事をする中、地域の方々との交流も広がり、湿地の草刈り(写真5)や湿地造成、森林整備、外来種駆除、アユ産卵場造成、小学校での環境学習、貴重植物のフジバカマ保全活動(写真6)、アサギマダラの観察会(写真7)など、様々な社会貢献活動を行う機会も増えました。これらの活動は、地域の方々だけでなく、弊社のいろいろな部署の技術者、営業関係者なども参加し、社内外の新たな繋がりをつくるきっかけにもなっています。また、豊岡市長より感謝状をいただいたことも、さらなる活動への励みになっています。

参加された方々、ご苦労様でした。この場をお借りし、改めて感謝申し上げます。



写真5 ハチゴロウの戸島湿地での草刈り作業 (2023.10.7)



写真6 フジバカマの葉を用いたワークショップ (2023.7.29)



写真7 アサギマダラの観察会 (2023.10.7)



写真4 ハチゴロウの戸島湿地の全景 (2012年撮影)



## 5. 新たなコウノトリの繋がり

2023年3月、突然に広島市内の自宅近所の鉄塔に2羽のコウノトリが止まりました。広島県内ではこれまでに何度か飛来情報はありましたが、まさか我が家の近所とは!驚きでした。

またこの年、広島県内では初の繁殖が世羅町でありました。その母鳥は、なんと私たちが関わってきた豊岡市の“ハチゴロウ”の戸島湿地で生まれた個体です。また新たな繋がりができました。この繋がりに、2023年11月には世羅町で開催されたコウノトリの集い(写真8)の運営にも携わることになりました。



写真8 世羅町で開催されたコウノトリの集い (2023.11.23)

## 6. おわりに

近年の気候変動への対策としてカーボンニュートラルへの取組みが世界規模で始まっています。併せてもう一つの国際的な潮流がネイチャーポジティブです。ネイチャーポジティブとは、2030年までに生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せ、さらに2050年までに自然を増幅し自然共生社会を実現しようとする考えです。

これまで20年近くに渡って培ってきたコウノトリに関する知見、情報、そして人々との繋がりを、今後は世羅町などでの生物多様性の保全活動(写真9)にも活かすとともに、コウノトリから様々な繋がるネットワークをさらに広げて、世界的な目標でもある生物多様性の保全に貢献していきたいと思えます。



豊岡市で保全活動を行っているフジバカマに飛来したアサギマダラ (2023.9.27)



写真9 世羅町で生まれたコウノトリJ548 (2023.9.15)



## 企業対抗リレーマラソンinひろしま ～出場報告～

中電技術コンサルタント株式会社

永井 純平

8月26日(土)、ひろしまゲートパーク(旧広島市民球場跡地)で開催された『企業対抗リレーマラソンinひろしま』に参加し、部門2位という好成績を収めることが出来ました。県内初開催であり、私の呼びかけにより参加者を募ったところ、私を含め当社からは10名が出場しました。以下、大会の様子について紹介します。

### ■大会の概要

- ◆競技時間：16：30～19：30 (3時間耐久)
- ◆コース：1周750m周回コース
- ◆チーム数：男子部門 43チーム  
男女混合部門 82チーム

※当社は男子部門で出場

※1チーム5～15名、

全参加者数は約1,200名

### ■大会の様子

#### ●競技前

15時前に集合し、テント設営や作戦会議(走順等)を行い、その後、コースの下見も兼ねて皆で軽くジョギングしました。しかし、日差しが強く、15時時点で気温32℃と、既に汗だくの状態でした。

#### ●開会式

メインステージ前に参加者が集合し、アップテンポなBGMとともに開会式が始まり、MCの掛け声や、“イマナマ!女子駅伝部”の登場に

会場はかなりの盛り上がりを見せていました。

#### ●競技中

125人が一斉にスタートし、1周目は団子状態となりました。各企業がそれぞれオリジナルTシャツを着て走っており、当社もチームTシャツを新調し出場しました。

1周750mという距離が絶妙に辛く、全力に近いスピードで走ることが出来る反面、20分余りの待ち時間で脚には乳酸が溜まり、次のランでもう一度自分を鼓舞しなければなりません。レース中盤以降は、櫂に取り付けられたチップの情報から、自分達が上位であることが認識でき「益々妥協できない」という気持ちになりました。

終盤は日が落ちて涼しくなってきたものの、メンバーの多くは体力が限界に近づいており、私自身も両脚がつり、ラップタイムも序盤から15秒ほど遅くなりました。それでも皆の頑張り次第に3時間を走り切りました。

終わってみれば66周を走り、男子部門で2位でした(1位は69周)。3位の企業とはわずか250m程度の差と思われ、最後の粘りが2位という結果に繋がったことは間違いありません。

#### ■最後に

閉会式では副賞として、第2回大会の招待券を頂きました。大会参加による社内連携の促進、企業PRの観点から、来年も心身ともに鍛え出場したいと思います。



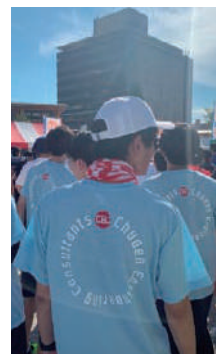
力強い若手の走り



表彰式



出場メンバー



チームTシャツ

## 創立60周年を迎えて

八千代エンジニアリング株式会社  
執行役員支店長 河辺 真一

### 1. 八千代エンジニアリングの誕生

八千代エンジニアリング株式会社は2023年1月29日に創立60周年を迎えました。鹿島建設株式会社の会長(当時)故鹿島守之助、同社副社長(当時)故石川六郎が中心となり、海外にも通用する強力なコンサルティングエンジニアリング企業を目指して1963年1月29日に創立しました。

当社の社名は「千代に八千代に生き続け、未来永劫にわたって人類社会のために貢献し、発展して欲しい」という願いを込めて命名されたものであり、略称をyecと定め、これを社章としました。

### 2. これまでの歩み

#### 1) 創業期(1963年～1972年)

当社は1964年に制定された建設省の「建設コンサルタント登録規定」に基づき、17部門中、トンネル・下水道・森林土木・建設機械および造園部門を除く12部門について申請し登録を行いました。



創業時の東京都赤坂本店ビル

#### 2) 開拓期(1973年～1982年)

公共設備投資は増加し当社の業績も順調に拡大する一方、業界内での受注競争が熾烈になる中、当社は営業体制の強化を図り、新技術の開発と市場の開拓、そして経営の効率化に努め、建設コンサルタントとしての体制を整えました。また海外援助の増大により建設コンサルタント企業が海外で担う役割も増大し、イラン、インドネシア、リビア、イラクに事務所を開設しました。この海外事業は、建築・道路交通・河川・ダム等、ほとんどの部門が携わっていました。

#### 3) 成長期(1983年～1992年)

1983年から急激な円高を受けた総需要抑制政策により受注環境は悪化しましたが、この危機に際し当社は組織革新として事業部制の導入と首都圏事業拡大推進本部の設置による受注拡大策を展開し1988年には100億円の受注高を達成しました。

#### 4) 充実期(1993年～2002年)

公共事業の増加に比例して受注・利益高も上昇し、砂防や都市計画・環境分野への技術サービスの拡大と1998年からはPFI事業への取り組みに着手しました。

またこの時期は企業コンプライアンスにも取り組み、ISO9001、ISO14001の全社認証を取得しました。

#### 5) 変革期 I期(2003年～2012年)

バブル崩壊が招いた景気後退は2007年にかけて回復したものの、2011年に未曾有の災害となった東日本大震災が発生し、持続可能な国土・地域づくりに向けた組織・体制の改革・転換が求められ、当社も事業部所を横断する部門別技術グループ制を導入したマトリックス組織としました。

1997年に議決された京都議定書の影響により事業推進は環境問題に配慮したマネジメントが要求され、当社は廃棄物処理や水循環に注力し、環境分野のサービス提供を開始しました。

#### 6) 変革期Ⅱ期(2013年～2017年)

2015年に5ヵ年計画となる第13次長期経営計画を策定し、「次世代につなぐ経営」を目指し取り組みました。本計画では、「残業時間」、「有給休暇取得」についても計画を加え、社員のより良い勤務環境の改善を目指しました。

#### 7) 変革期Ⅲ期(2018年～)

2018年に、「この世界に、新しい解を。」をビジョンとして掲げた10ヵ年計画となる「長期経営方針」を策定し、これまでの官公庁事業だけでなく、民間事業への拡大推進を始めました。さらに技術創発研究所を創設し、研究・開発にも注力しています。2021年には、長期経営方針の「第2次中期経営計画」をスタートさせ、サステナビリティ経営のもと、事業を通じた社会価値創造・社会課題解決およびSDGsやESGといった社会要請に対応することで、人々の生活が豊かになる社会を目指した経営を進めています。

### 3. 創立60周年記念事業

2023年5月20日、東京都文京区のホテル椿山荘にて、また同日仙台・名古屋・新潟・広島・博多在所の支店各所にて役員・社員およびOBの方々とその家族が集い、創立60周年の記念式典が行われました。

また当社が掲げるビジョン「この世界に、新しい解を。」を体現する代表的な実績を取り上げ、当社が60年にわたって培ってきた建設コンサルタントとしての技術や知見をどのように社会に対して「解」としてきたのかを、3部作の動画にして公開しました。



第1弾 角島大橋編(山口県)  
奇跡を起こした角島大橋誕生秘話に迫る



第2弾 メラピ山編  
みんなの笑顔をつくるインドネシアの砂防施設



第3弾 東日本大震災編  
新しい挑戦で想いをつなぐ復興支援を

### 4. 新たな挑戦

近年、気候変動に伴う自然災害の頻発、国際情勢の不安定化など社会課題は山積しています。八千代エンジニアリングは、これら社会課題に立ち向かうため、これまで培ってきた技術力にさらに磨きをかけ、総合コンサルタントとして人々が安全・安心を実感でき、豊かな暮らしとなるよう新たな技術を創出・探索し続けていきます。



## パラクライミング応援に行ってきました

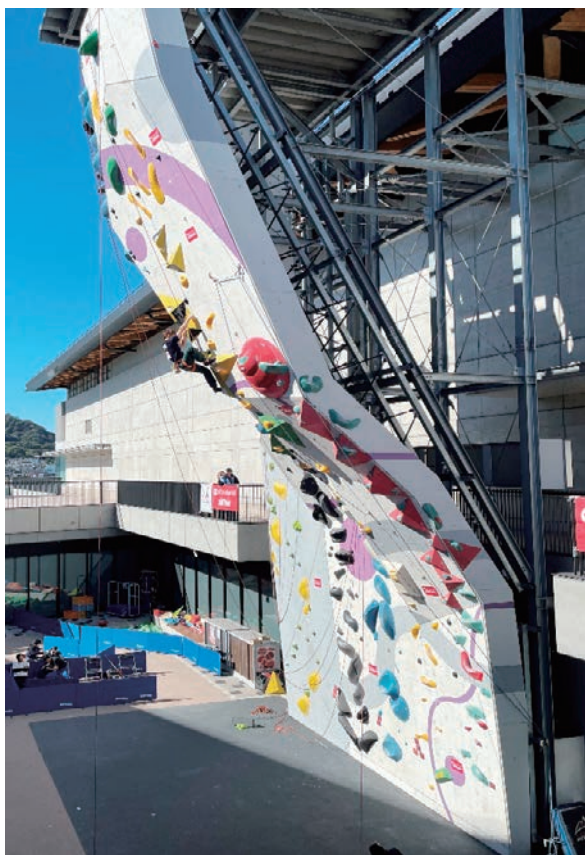
株式会社エイト日本技術開発

四宮 好和

### ■はじめに

「10時」、「1時」、静けさの中に響き渡る声。声に合わせて15mの頂上を目指して壁を登っていく選手の姿を固唾をのんで見守る観客。

晴れ渡る空の下、2023年10月下旬に障害者アスリートがクライミング競技を行うパラクライミングジャパンシリーズ第1戦が開催されました。当社社員が選手として参加すると聞きつけ、社内では有志を募り応援に駆け付けました。



クライミング壁の全容

### ■パラクライミングとは

パラクライミングとは、障害を抱えている人が行なうクライミング競技のことをいいます。ロッククライミングの要素をそのまま持ち、ボルダリング壁やクライミング壁を使って、最高点を目指します。しかし、身体的に制限があるため、その人に合った技術や戦略が必要となり

ます。障害の程度に応じて、選手は特別な装置を使用したり、特殊なルールに従う必要があり、一般的に、下肢の欠損、上肢の欠損、視覚障害などのカテゴリで競われます。

### ■応援して感じたこと

クライミングという競技を映像の中でしか見たことがなく、実際に見ることは初めての体験であり、非常に新鮮な気持ちで会場に向かわせていただきました。会場に着くと、足に障害を抱えている人、目に障害を抱える人が、一般の健常者でも登れないような傾斜のある壁を登っていく姿が目に入り、言葉が出ないほど圧倒された記憶が鮮明に残っています。

今回選手として参加した当社従業員の濱ノ上文哉さんは、視覚障害部門であるブラインドクラスに出場していました。



濱ノ上文哉選手

視覚障害者がどのようにクライミングを行うかと言いますと、競技者と指示役の人の2人1組で参加し、例えば競技者の向かって左斜め上の方向に、ホールドと言われる捕まるとっかかりがあれば、指示役の人が「11時」といった感じで、時計の時間の針を方向に見立てて指示を行い、その指示を聞いた競技者が、その方向に向かって手探りでホールドを探すという作業を繰り返して、頂上を目指します。

通常のクライミングですと、自分自身でホールドを見つけ、登っていけるため、指示を待ちホールドを手探りで探すという作業は発生しませんが、視覚障害者のパラクライミングでは、指示を待つ時間と手探りで探す時間分、自身の身体を支える時間が増えるため、本人の強靱な身体能力と、指示役との連携が非常に重要であると感じさせられました。

ブラインド競技は、指示役の声のみが手掛かりとなりますので、応援を行う者は競技者の邪魔にならないように声は出さずに応援するという独特な空気の中で競技が行われていきます。応援をしたいという気持ちと、声が出せないも

どかしさが葛藤することで作られる独特の雰囲気は、実際の会場でないと感じられない非日常的な体験となりました。

また自身の競技後、他の選手の応援を行う選手の姿が多く、選手同士の仲の良い姿が見られるなど、他の競争競技ではあまり見られない光景が見られたことも印象に残りました。

濱ノ上丈哉選手は視覚障害者が参加するB2クラスにて優勝されました。

## ■おわりに

パラクライミングのジャパンシリーズは日本代表選考会として毎年2回、広島県と神奈川県で開催されております。世界大会でメダルを取る選手も参加されますので、実際に世界のトップレベルのクライミングを間近で見ることができます。実際に現地の会場で競技を見ることは、テレビやスマホの画面で競技を見ることはまた違った感動を得ることができると思います。

機会があれば皆さん是非パラクライミングの応援に参加してみたいはいかがでしょうか。



応援団の記念撮影



## フリーアドレスの紹介

株式会社 荒谷建設コンサルタント  
白石 友則

### 【はじめに】

株式会社 荒谷建設コンサルタントでは、働き方改革の一環として2021年より全社的なフリーアドレス導入を推進しています。加えて、社員数増加に伴い不足する執務空間を確保するため、2023年5月にリフォームされた本社第1別館をご紹介させていただきます。

### 【導入まで】

#### ①2022年3月 推進メンバー選出

各部署から選出された推進メンバーにより、まずは推進メンバーがフリーアドレスを正しく理解するため、既実践している企業を訪問させていただき理解を深めました。



写真1 見学会の様子

#### ②2022年8月 第1回断捨離

部署や個人の荷物を断捨離。まずは1人あたりの目標を設定。

- 書類収納スペース：書棚2段(W=90cm)
- 個人PCや文房具等：約40cm×40cm

それに向けて、各自書類の電子化や処分を実施しました。



写真2 第1回 断捨離風景

#### ③2022年9月 プラン素案決定

フリーアドレスに向けた提案をコンペにて決定し、詳細なレイアウト・仕様検討に着手、及び来春運用開始に向け綿密なスケジュール調整を行いました。

また、運用方針について、グループアドレスを基本とし検討を重ねました。

※グループアドレス(当社での考え)

9部署を4グループにグルーピングし、執務エリア内で定期的にグループエリアを移動。従業員はグループエリア内で自由に席を選んで働く。

#### ④2023年3月 部分工事着工

いよいよ、工事着工です。まずは書類や荷物が片付けできるよう書庫をリフォーム。



写真3 書庫設置



## ⑤ 2023年4月 第2回断捨離

本工事に向け、各自大規模な断捨離を行いつつ、先行して完成した書庫に荷物を搬入。



写真4 第2回 断捨離風景

## ⑥ 2023年GW本工事、5月運用開始

ゴールデンウィーク期間(4/29~5/7)で本工事が行われ、5/8より運用が開始されました。

## 【導入後の変化】

導入から半年が経過し、大きなトラブルもなく

順調にフリーアドレスが運用されています。これまでの役職別ひな壇席が無くなり、ベテラン・若手が分け隔てなく、日常的にコミュニケーションを図りながら執務を行っています。

また、退社時には、その日利用した席を片付け退社するので、クリアデスクも完璧、毎朝リフレッシュした気持ちで執務が始まります。

## 【おわりに】

建設コンサルタントの仕事は、成果品・基準書・協議書類など非常に多くの紙書類を利用しています。今回フリーアドレス導入に際して、最も大きな課題が文書整理でした。収納スペースの目標設定を明確にすることで、従業員一丸となって電子化・断捨離に取組み目標以上の紙文書の削減に成功し、やれば出来る事を実感しました。

また、コロナ禍を経てWeb会議やテレワークなど様々に働き方が変化しています。今回のフリーアドレス導入も、データとデジタル技術で社会の変化に対応することであるDX(デジタルトランスフォーメーション)の成果と感じています。

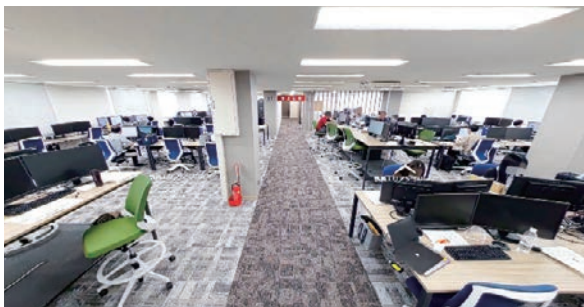


写真5 執務エリア

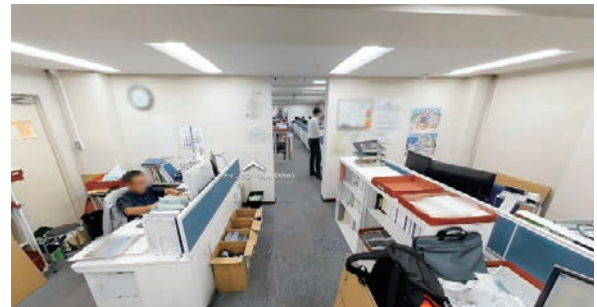


写真6 新しく設けられたミーティングスペース

## 1年を振り返って



株式会社 長大  
構造事業本部 第2構造事業部 広島・高松構造技術部 **和田 龍汰**

皆様、初めまして。4月に株式会社長大(広島支社)に入社いたしました、和田龍汰です。私は現在、橋梁の設計業務に携わっております。橋梁に関する仕事がしたいと思い長大へ入社し、希望通りの部署へと配属されたことへ感謝しております。橋梁の設計には多くの専門知識と様々な経験が必要不可欠であると感じ、経験のない私は、日々、必死に食らいついていくことで精一杯です。しかし、やりたかった仕事をさせてもらえる喜び、日に日に任される業務が増え、成長を感じられる充実感、そして上司、先輩社員の方々にも恵まれ、とても充実した日々を過ごしております。

今思えば2023年は怒涛の1年でした。大学卒業から入社、そして様々な業務に携わらせて

いただきました。環境の変化、生活の変化など大きな変化が訪れ、新しいことばかりであったという間に1年が過ぎました。私生活にも変化がありました。アクティブな同期に連れられ、素潜りに釣り、登山、キャンプなど新しいことに挑戦しました。自然に触れることで日々の疲れを癒したり、体を動かすことで、デスクワークで凝り固まった体をリフレッシュできたりとアウトドアの魅力にはまりました。

入社して間もなく1年となりますが、上司、先輩社員の方々から教えていただいたことを自分なりに考え理解を深めながら、1日でも早く広島・高松構造技術部の戦力となれるよう精進していきます。

## 入社して感じたこと



株式会社 エイト日本技術開発  
中国支社 国土インフラ部 河川・港湾グループ **安食 大輝**

2023年4月に入社致しました、株式会社エイト日本技術開発の安食と申します。配属先では主に河川計画、河川設計の業務に携わっています。

学生時代は土木分野の学科に所属しており、トンネル施工における若手技術者の育成を目的としたVRシステムの構築について研究していました。この業界を選んだ理由は、中学生の頃から、設計や計画の仕事をしてみたいと思っており、この業界を選びました。

私が所属する河川グループの仕事は、学生時代の研究内容とは全く違う分野でした。入社した当初は、主に水理計算を行っていましたが

結果に対する考察など、設定した値、結果の値ひとつひとつに理由を持つことが必要で、その理由が持てず、難しいと思っていました。

難しいと思う気持ちは今もありますが、何回も計算をするごとに理由も持てるようになり、分からないところは上司の方が教えてくださるため、理解を深めることができました。

今後も、知識や経験、技術がないため、担当した業務で悩む機会が多いと思います。早く頼ってもらえる一人前の技術者になれるよう、日々自分へ課題を与え、それを達成して成長していきたいです。

## 入社して感じたこと



株式会社 エイト日本技術開発  
インフラ保全部 傍士 智佐子

令和5年4月より、エイト日本技術開発に入社しました傍士と申します。中国支社のインフラ保全部に配属され、橋梁の保全にまつわる業務に日々取り組んでおります。

大学時代は、生物系の学部に所属しており、今の業務に関係する学問には触れてこなかったため、勉強の日々ですが、周りの先輩方に恵まれ、少しずつですが成長を感じております。岡山県で育ち、常に自然に囲まれていたためもあって、橋梁の現地調査等で時には草木をかき分けて調査をすることがありますが、楽しみながらできております。

趣味はKPOPとお笑いライブを見ることです。今年の夏は、韓国旅行にて好きなアイドルの事務所に行ったり、韓国料理を楽しんだりと最高なリフレッシュとなりました。また、休みの日はお笑い芸人のライブに行くなど活動的に過ごしております。

入社してからさまざまな業務に挑戦する中で感じたのは、知識が無いと業務が進むスピードについていけないということです。今の私はまだまだ知識が足りないため、知識をつけるためには、忙しい中でも、自分で時間を決めて勉強を続けていきたいです。

## 入社してからを振り返って



復建調査設計株式会社  
地盤環境部 地盤環境課 逢阪 勇輝

2023年4月に復建調査設計株式会社に入社し、地盤環境部地盤技術課に配属となりました逢阪と申します。現在、私は主に現地踏査やボーリング調査、水文調査など様々な業務に携わっております。入社する前は主に土質を勉強してきたこともあり、地質に関する知識に乏しく、ほぼゼロからのスタートでしたが、現地を歩くことで岩の見方や山の歩き方、モノレールルートのお考えなど新しい知識がついていくのを感じながら、日々楽しく働いています。

水文調査では地元の方の井戸を対象に調査

を行いますが、説明能力やコミュニケーション能力が重要であることを実感しました。井戸水を飲み水に使われている方も多くいるため、調査結果を聞かれる時があります。その際に調査結果などの専門知識を分かりやすく伝える力が非常に重要であることを学びました。

これから働いていく中で説明能力やコミュニケーション能力以外にも身に付けていかなければならないことがたくさんあります。一人前の技術者になれるよう、日々の業務に主体的に取り組んでいきたいと思っております。



## 入社1年目を振り返って



復建調査設計株式会社  
環境部 生物環境課 鮫島 裕貴

令和5年4月に復建調査設計株式会社に入社し、希望していた生物環境課に配属となりました。入社後は同期社員全員で1か月間のDX研修を受け、その基礎を学ぶと同時に、同期の仲を深めることができました。研修成果の発表では社長賞を受賞し、大きな達成感をえました。

6月からは配属先の生物環境課で生物調査を中心とする実務に携わっており、九州、中国、関西、東海と日本中の現場を駆け回る日々を過ごしています。配属当初は社内の環境や仕事そのものに慣れていないため、戸惑うことばかりでしたが、先輩社員の助けを借りながら、少しずつ仕事にも慣れてきたところです。若手主体で実施した魚類調査の現場は、大変でしたが、無事工程を終えたときの達成感が印象に残っています。

最近では、協議への参加や、報告書の作成

に携わることが増え、コミュニケーションの大切さを痛感しています。業務の進捗を管理することは私にはまだできません。しかしながら、部分的な作業であっても先輩社員や発注者と密にコミュニケーションをとりながら、ミスなく、安定した成果を上げることで業務全体に良い影響を与えられると考えています。わかりやすく、実直な報告・連絡・相談を欠かさないことに、これからも気を付けていきたいです。

国内外の環境政策の動向に目を向けると、ネイチャーポジティブや脱炭素など新たな展開が活発化しています。弊社は、これらの動きに対し新たな技術開発や提供サービスの検討に取り組んでいます。私は、環境分野の技術者としての土台をしっかりと築きつつ、新しい風を吹かせられるような社員に成長できるよう、これからも真摯に業務に取り組んでいく所存です。

## 入社して感じたこと



中電技術コンサルタント株式会社  
情報企画部 岩室 明日葉

2023年度、中電技術コンサルタントに入社した岩室と申します。入社して早くも8か月が経ちました。出身は広島で、広島市立大学情報科学部を卒業し、弊社の情報企画部に配属されました。入社当初、大学時代まで土木・建設分野に関わった経験の無い私にとって、この会社でやっていけるのか不安はありましたが、情報システム部門として日々業務に携わることで、少しずつ仕事に慣れ、徐々にですが出来ることも増えてきました。

最初は不安だった社会人生活も、丁寧で優しい先輩・上司や、楽しく個性的な同期のおかげで、当初心配していたよりも遥かに楽しく仕事に臨んでいます。大学時代はコロナ禍で思うように活動が出来なかった部分もありましたが、現在は以前よりも制限が緩和され、人との距離感も戻りつつあると感じています。入社当初は、

打合せで専門用語等が多く、議事録作成でも手こずる部分がありましたが、少しずつ、打合せの会話にも参加できるようになってきました。普段お世話になっている周囲の方々のためにも、業務等に関する知識・経験を身に付けていきたいです。

私生活では、中学校の頃から吹奏楽を続けており、現在は一般の社会人吹奏楽団と、中国電力吹奏楽団に所属しています。中国電力吹奏楽団は、社内の方数名を含めた、中国電力グループの社員等で構成されています。中国電力本社でのクリスマスコンサートや、フラワーフェスティバルでの演奏等を通じて、有意義な時間を過ごせています。

これからも、仕事とプライベートどちらも主体的に行動し様々な経験を重ね、人としても成長できるように努力していきたいと思っています。

## 入社して感じたこと



中電技術コンサルタント株式会社  
解析ソリューション部 谷 直樹

2023年度、中電技術コンサルタント株式会社に入社しました谷と申します。入社して早くも8か月が経ちました。入社当初は分からないことばかりで不安な毎日を過ごしてきましたが、優しい先輩方に支えられ、少しずつではありますが業務の一部を任せてもらえるようになりました。

私は現在、解析ソリューション部に所属しており、主に原子力発電所の地盤安定解析に携わっています。大学で習ったことのある専門用語などが出てきても、思い出せなかったり、使いこなせなかったりなど、学んだことの振り返りの必要性を実感するとともに、日々、新しいことを吸収し、努力しています。

業務を通じて、何事も目的を持つことの大切

さを感じました。解析を実行して出てきた結果を鵜呑みにするのではなく、なぜその結果が出たのか考えることでミスもなくなりより良い成果が出せると感じました。

プライベートの面では、コロナによる制限も落ち着き、大学時代より自由な時間は少ないもののスポーツや買い物などやりたいことを思いっきり楽しむことができます。また、会社のイベントやテニス部に参加しており、普段かかわりのない社内の方とお話することができ、とても有意義な時間を過ごしています。

これから社会人として生活していく中で、仕事もプライベートも目的をもって行動し、有意義な生活をしていきたいと思っています。

## 振り返りと今後の目標



株式会社 荒谷建設コンサルタント  
四国支社 営業部 栗 栖 健太郎

令和5年4月に株式会社荒谷建設コンサルタントに入社し、四国支社 営業部営業課に配属となりました栗栖と申します。

生まれは広島、大学は大阪に進学したため、初めての土地での営業で、場所と地名を覚えるところから私の営業業務はスタートしました。大学では、社会学を専攻し高校、大学ともに文系だったため、入社前は建設コンサルタント業界でやっていけるのか、という不安が大きかったです。設計や地盤調査、測量や補償など分からないことばかりでしたが、専門用語を覚えたり、上司の方々に教えていただいたりなどして少しずつ建設コンサルタントの業務を理

解できてきました。それに伴って普段の生活でも、今まで気にしてこなかった道路や橋、法面などを意識してみるようになりました。

営業の業務では広く知識をつける必要がありますが、部署など関係なく多くの上司や先輩方に指導していただきとても感謝しています。

今後の目標としては、社内・社外問わず人との繋がりを大切にし、発注者と技術者の懸け橋になるような営業マンになりたいと考えています。そのためにも多くの人とコミュニケーションをとりながら少しずつ確実に成長していけるよう努力していきます。

## 入社して感じたこと



株式会社 荒谷建設コンサルタント  
岡山支社 技術部設計1課 小池 智文

令和5年度4月に株式会社荒谷建設コンサルタントに入社いたしました、小池と申します。私は現在道路設計の部署に所属しています。部署に配属されてからは業務に関して覚えることがたくさんあり、上司の方々の仕事のスピード感についていくのに必死で、日々緊張感の絶えない生活を送っています。

現在は道路改築の設計業務に携わっていますが、業務に携わることで普段何気なく使っている何の変哲もない道路でも、数多くの細かい基準や条件を考慮して設計されていると知り、道路設計の奥深さと大変さを知ることができました。そして、道路設計業務に携わったことにより、普段使っている道路も少しだけ設計者の目線で見えるようになりました。今後の楽しみは

現在設計を行っている道路が完成した後に、実際に自分で車を運転して走ってみることです。今後は基準書を読むことや積極的な勉強会への参加を通して、業務や土木に関する知識を深めていきたいと思います。

仕事では難しいことや作業に時間のかかることも多く、上司や先輩方のように仕事ができるようになる日は来るのかと不安な気持ちになることもあります。出来なかったことが出来るようになったときには楽しいと感じることも多くあります。私は中学生のころから土木が好きで土木の仕事に憧れてこの業界に入ったので、常に「土木が好きだ」という気持ちを忘れずに日々精進していきたいと思っています。

## 一年目を振り返って



八千代エンジニアリング株式会社  
広島支店 業務企画部 営業課 加藤 唯

2023年4月に八千代エンジニアリング株式会社に入社いたしました加藤と申します。入社後本店での3か月間の研修を終え、7月より広島支店へ配属となりました。現在は、業務企画部営業課で主に契約業務に携わっております。

入社当初、文系出身の私にとって聞きなれない用語ばかりで戸惑うことも多くありましたが、研修時には理解できなかったことが今となって理解できるなど、成長を実感し嬉しく思っております。また、本配属後は仕事を覚えることに

必死で5か月があっという間に過ぎました。そんな中、いつも温かく見守り、丁寧にご指導くださる上司の方々や先輩方のおかげで、業務全体の流れを理解できるようになってきました。そして少しずつではありますが、自分なりに考えながら、やりがいを感じながら業務に励むことができています。

まもなく入社して1年が経とうとしています。まだまだ未熟で自分のことで精一杯な部分もありますが、日々様々なことを吸収し成長していきたいと思っております。



## 入社して感じたこと



八千代エンジニアリング株式会社  
広島支店 技術部技術第二課 末広 明穂

2023年4月に八千代エンジニアリング株式会社に入社し、広島支店技術部技術第二課に配属となりました末広と申します。

大学では土木の幅広い分野を勉強し、研究室では交差点における左折車線交通流率の影響要因について研究を行いました。

私が当社を志望したきっかけは、インターンシップへの参加でした。実際の事故対策業務について課題を与えられ、事故対策案を立案する体験をさせていただきました。その中で、業務の流れや考え方を学ぶことができ、また親身に対応して下さる社員の人柄や社内の雰囲気

に惹かれました。さらに、道路は誰もが利用する社会インフラであるため、安全で快適に利用できる道路を整備することは多くの人に貢献できる仕事だと実感し、魅力を感じたため志望しました。

配属後は、交通計画の業務に携わらせていただいております。知識や技術が足りず、自分の無力さを痛感する日々ですが、上司は根気強く指導してくださっています。一日も早く一人前の技術者となり、戦力となれるよう日々精進していきたいと考えています。

## 入社して感じたこと



八千代エンジニアリング株式会社  
広島支店 技術部技術第一課 松田 隼輝

2023年に八千代エンジニアリング株式会社に入社した、松田隼輝と申します。3カ月の本社での研修を経て、広島支店に配属になって半年が経ちます。

現在は、主に補修設計や長寿命化計画策定の業務を行っております。そのなかで自分自身の知識不足を痛感し、必死に食らいついているという状況です。普段から上司の方をみていて驚いたことは橋が好きという気持ちの強さです。普段の業務ではもちろん、飲み場でも橋のことを語り合っておられ、本当に橋が好き

なんだなと感じます。

今はとにかく必死に頑張るという気持ちですが、根には橋が好きだという気持ちをもって働くことで、前向きに取り組むことができるのではないかと、そしてその結果が今の先輩方の姿だと思いました。

忙しい時、苦勞している時には忘れてしまいそうになりますが、橋が好きでそれに携わっているという喜びを忘れずに日々励んでいきたいと思っております。

## 大学生から社会人へ



株式会社 ウエスコ  
水環境デザイン事業部 水環境デザイン部 上水道2課 近藤 らら

令和5年4月に株式会社ウエスコへ入社いたしました近藤ららと申します。

学生時代では生態学、分類学を専攻していました。これまでに学んできた専門分野とは違いましたが、人々の暮らしを支えている点に興味を持ったため建設コンサルタントを志望しました。大学では泥だらけの胴長と白衣ばかりを着ていましたが、社会人となり憧れの作業着に袖を通すことができ非常にうれしく思います。

私は熊本県の出身で、大学は同じ九州の大分県で過ごしました。そのため、入社が決まり勤務地の岡山に来るまでは片手で数えられるほどしか九州から出たことがありませんでした。毎日の慣れない業務だけでなく初めての土地だったこともあり、入社してからは不安な日々を過ごしていました。そんな私に丁寧に仕事内容を教えてくださる先輩や、業務以外でも関わってくれ

る同期のおかげで今では楽しく過ごせています。

私は現在、水環境デザイン事業部の上水道2課へ配属され、主に配管設計などに携わっています。最近は配水池や水源地等の水道施設の調査を実施する機会があり、野外調査にも多く出ています。山腹にある配水池までの斜面を登っていると、学生時代の懐かしい気持ちが蘇ると同時に大学での経験を活かしているようでとてもうれしいです。

水道は私たちの生活に深く関わっているため責任も大きいですが、その分やりがいもあります。私にとって水道分野は、すべてが初めてで毎日新しい発見があります。様々な講習会にも参加し、知識を蓄える機会もたくさん得ています。まだまだ知らないことばかりで未熟ではありますが、毎日楽しんで知識をつけ、早く一人前になれるよう努力していきたいと思っています。

## 建コンの営業職を選んで



株式会社 ウエスコ  
営業部 営業課 木村 勇翔

令和5年4月に株式会社ウエスコに入社いたしました、営業課の木村と申します。現在は、日々先輩に同行し営業活動を学んでいます。

よく驚かれるのですが、私は大学で土木系の学部を卒業し営業職に携わっています。就活時代に建コンについて調べていく中で営業職の存在を知り、その後縁あって現在の部署に配属となりました。大学では交通計画の研究室に所属しており、初めは都市計画分野の技術職を志望していました。ですが、より人と関わることを仕事の中心にしたいとの思いから営業職に興味を持ち、両方の職種を視野に入れるようになりました。そして、現在の私の上長と話した機会をきっかけに、営業職での入社を決めました。

技術職と営業職間の人事的な行き来では、技術者が営業を担当する例をよく耳にします。

実務経験のある人材であればより具体的な営業活動を行うことができるため、技術者として経験を積んだ後に営業を担当することはキャリア的に可能性があるとお聞きしました。ですが、私は1年目から営業職を選びました。業界的には珍しいキャリア選択のようで、私もこの選択が今後何かのプラスになるかは分かりません。しかし、今は営業として、発注者と社内の双方が気持ちよく仕事ができるようにすることが目標です。自分の手で業務を行うのでは無くとも、業務を円滑に進める立場として仕事に関わっていくことが、今の私が目指すべき役割だと感じています。発注者からも社内の人からも気軽に話しかけてもらえる、話を聞いて本質を汲み取れる営業マンになれるよう、精進していきたいです。

## 入社して感じたこと



株式会社 長大  
環境事業部 社会環境4部 川西 翔

2023年4月に株式会社長大に入社しました川西翔と申します。

入社後は、環境部門に配属され、インフラ事業の環境アセスメントや自然再生事業に携わっています。学生時代は海を中心に生物や環境を学んでおり、遊びも釣りや魚突き、登山など常に自然に囲まれていました。そのため、社会人になっても、環境を舞台とした仕事に携われることをとても嬉しく思っています。しかし、業務に就くと、知識・経験不足に直面し、毎日

が勉強だと感じました(唯一、体力だけは大丈夫でした!)

現在の仕事内容としては、資料作成や会議だけでなく、動植物等の現地調査も行っており、忙しくも楽しい毎日を送っています。現在は、まだ業務の流れや技術を先輩方から教えてもらいながら仕事をしていますが、今後は発注者の目線で物事を考えられる技術者になりたいと考えています。



## 新任のご挨拶



応用地質株式会社 広島営業所  
営業所長 小林 誠二

このたび、前任の広島営業所長永矢泰之の後任として新たに赴任して参りました小林誠二と申します。

1992年に応用地質株式会社に入社し当時の関西事業本部へ配属となりました。その後、中国地区、四国地区で営業職を経験し、今年4月より関西事務所に再配属となりました。弊社の広島営業所では兼務という形で営業所長として勤務しております。

今、国・自治体では国土強靱化対策を促進しています。中国地区も例外ではなく、各地で自然災害への対応や社会資本の老朽化対策など防災・減災、国土強靱化のための多くの課題を抱えています。このような社会情勢の中で、

「安心・安全」「持続可能な社会の実現」のため、我々建設コンサルタントが担う役割は日々重要なものとなっています。

一方で、若手技術者の減少のため技術の継承や空洞化が生じてきています。これは地域における社会資本の整備や維持管理に重大影響を及ぼす喫緊の課題であり、この課題を解決することが非常に重要となります。

このような課題に対し、弊社も建設コンサルタント協会の一員として微力ながら取り組んで参りたいと思います。皆様におかれましては、なお一層のご支援ならびにご指導をよろしくお願い申し上げます。

## 新任のご挨拶



株式会社 計測リサーチコンサルタント  
代表取締役社長 梅本 秀二

このたび、前任の花倉宏司の後を継いで、代表取締役社長に就任しました梅本秀二と申します。

私は、計測リサーチコンサルタントに入社して28年間、軟弱地盤や土留めを対象とした計測管理、社会インフラの維持管理における調査・モニタリング、センサやモニタリングシステムの研究開発等に携わってきました。

当社は、昨年、創業50周年を迎えましたが、時期を同じくして新体制へと交代しました。新たなスタートの年に代表取締役社長に就任することになり、その重責を痛感しております。

私たちが暮らす社会は、ヒト、モノ、サービ

ス、ニーズ、すべてが急速に変化し続けています。建設業界では、少子高齢化に伴う人材不足、社会インフラの老朽化などの問題が山積しています。そのような中、これからも、当社の企業理念である「常に変化する社会のその半歩先へ」は変わることなく、社会のニーズに的確にこたえられる研究開発型企业として、ずっと先ではなく、半歩先の技術を目指して技術展開を図り、建設技術情報サービスを通じて社会に貢献して参ります。また、これからは、建設コンサルタント協会中国支部の活動にもお役に立てればと思っております。

ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

## ご挨拶



セントラルコンサルタント株式会社  
執行役員広島支店長 大野 徹也

このたび、2022年12月からセントラルコンサルタント株式会社の広島支店長を仰せつかりました。

わたしは、株式会社マエダ(平成11年迄)を経て、セントラルコンサルタント株式会社に入社して、24年間、道路交通計画や構造物設計に携わってきました。また、広島支店の赴任前は、本社および東京事業本部に勤務し、建コン本部の技術部会や資格・CPD部会の活動に参加させていただきました。

建設コンサルタント業界では、改正労働基準法の施行以降、働き方改革と担い手の確保・育成、品質の確保・向上や技術力向上等を課題として、取り組んできました。なかでも、DXの推進は最重要課題であり、国が掲げる労働生産性20%向上やデジタルトランスフォーメーション、コロナ禍でのテレワークやWEB会議

など、これまでの仕事のやり方が大きく変わろうとしています。その中でもBIM/CIMへの取り組みは最も大きな変革といえます。私自身含め業界では、30年程前に紙図面からCAD図面への大きな変革がありましたが、今回のBIM/CIMの推進は、それ以上の変革であると考え、より一層努力し、取り組んでいきたいと考えています。

私はこれまで、中国エリアに居住したことはありませんでしたが、趣味のウォーキングを通じ、まちなかを散策しながら、グルメを満喫することや、ゴルフや温泉、観光等を楽しみにしています。最後に、支部活動を通じて、建設コンサルタント協会の発展にお役に立ちたいと考えていますので、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



## 新任のご挨拶



株式会社 長大 広島支社  
道下 順一

このたび、前任の大塚の後を継いで、総務部会委員を仰せつかりました。

30年余り九州地区で業務に携わってまいりましたが、この度広島に異動となりました。九州地区では広報委員会の一員として支部活動に

携わった経験もございますが、中国地方は初めての地域で「気分一新」頑張っております。微力ですが、建設コンサルタンツ協会の発展にお役に立ちたいと考えていますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

## 技術部会委員新任のごあいさつ



大日本ダイヤコンサルタント株式会社  
中国支店 稲塚 裕右

このたび、中国支部技術部会委員を仰せつかりました。専門はまちづくり計画で、これまで都市計画や施設計画等に携わり、近年は官民連携による各種のマネジメント計画に携わっています。

広島に赴任し、3年経過いたしました。この間、国や地方公共団体からわたしたち建設コンサルタントへの期待、要請内容が変化しており、それらを担い、支えるわたしたちの働き方も大きく変わってきています。新たな動き

に対し、わたしたちは建設コンサルタントにおけるこれまでの技術領域を磨きつつ、新たな技術領域を切り開いていく必要があると考えています。

これまで、わたしは建コン活動に関わるものがほとんどありませんでした。これからは多様な支部活動や本部活動など、建設コンサルタント協会の発展に微力ながら寄与していきたいと考えます。ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

## 新任ご挨拶

このたび、前任の若槻幹穂さんの後を継いで、中国支部技術部会委員を仰せつかりました。

昭和60年に建設省中国地方建設局(現国土交通省中国地方整備局)に入省して38年間、主に道路関係に関わる業務を中心に経歴を重ねて参りました。

企画部技術管理課時代には、技術調整担当

として意見交換会などの調整役として当会と関わったこともありました。

これまでの経験を活かし、これからはさまざまな支部活動や、所属する委員会などを通じて、建設コンサルタンツ協会の発展にお役に立ちたいと考えていますので、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



株式会社 ニュージェック  
松本 信雄

## 新任のご挨拶

前任者である長棟業務部委員の後を継ぎ、此度、中国支部業務部会委員を拝命致しました。

(株)オリエンタルコンサルタンツ中国支社 寺田芳弘と申します。生まれも育ちも広島です。

平成元年3月1日に別業界からコンサル業界へ転職し、コンサル営業職一本で早34年目と成りました。

転職当時の業界と今とでは考え方や世の流れも大きく様変わりし、近年更にその変化スピー

ドは加速度を増した様に感じます。老輩の私も時代に乗り遅れない様、水が器の形に合わせて己が姿を変えるが如く、日々変化する状況を見据え進化して行きたいと思っております。

本委員会においては、業界全体の魅力向上、延いては会員皆様の個人パーパスを満足させる事が重要課題だと理解して居ります。私も委員の方々と一緒に其の課題解決に向け尽力出来ればと思います。皆様どうぞ宜しくお願い申し上げます。



株式会社 オリエンタルコンサルタンツ中国支社  
寺田 芳弘

## 新任のご挨拶



株式会社 ヒロコン  
岡谷 武英

このたび、前任の中田業務部会委員の後を継いで、中国支部業務部会委員を仰せつかりました。

生まれてから今までずっと広島の地で育ち、広島県安西高校から1年の駅前大学の後、広島工業大学を経て、今の株式会社ヒロコンに入社して32年が経とうとしています。ヒロコンに入社して以来、橋梁設計、橋梁点検、橋梁補修・補強設計等、橋梁に関する業務を主に携

わってきました。

建コンの活動に関わることは始めてでございますが、中国支部業務部会の活動を通じて、建設コンサルタンツ協会の発展及び建設コンサルタントで働く将来の若者にとっての働きやすい環境整備のために少しでも、お役に立ちたいと考えていますので、ご支援のほど、よろしくお願いたします。



## ご挨拶



復建調査設計株式会社  
青木 順

このたび、中国支部業務部会委員を仰せつかりました。

島根県職員として38年間勤め、令和4年3月に退職し、4月から復建調査設計株式会社に入社いたしました。島根県職員時代は主に道路関係の仕事に従事し、特に「松江第五大橋道路(松江だんだん道路)事業」の調査、設計に携われたことは、今でも大きな思い出となっております。

います。

私はこれまで、建コンの活動に関わることはありませんでしたが、これからは、業務部会を通じて、建設コンサルタンツ協会の発展に微力ではありますがお役に立ちたいと考えていますので、ご支援のほど、よろしくお願いたします。



## 新任のご挨拶

このたび、前任の辻の後を継いで、中国支部業務部会委員に就任しました小谷と申します。

島根県松江市出身で、関西の建設コンサルタント会社を経て、2001年に(株)エイト日本技術開発(入社時の社名は(株)エイトコンサルタント)に入社、以来23年間にわたり、技術職、企

株式会社 エイト日本技術開発  
小谷 満俊



画職等で様々な経験を積んでまいりました。

支部活動への参加はこれまでありませんでしたが、これからは建設コンサルタント業界の魅力を広め、業界全体の発展に寄与することを目指していきます。皆様のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

## 新任のご挨拶

このたび、前任の川上の後を継いで、中国支部業務部会委員を仰せつかりました長谷川と申します。

株式会社エイトコンサルタント(株)エイト日本技術開発の前身)に、平成3年(1991年)に入社して以来32年間にわたり、営業職に携わってきました。

入社後、中国地方や関西地方の支社支店で

株式会社 エイト日本技術開発  
中国支社 長谷川 忠司



勤務し、令和5年6月中国支社(岡山)に着任しました。建コンの活動としましては、鳥取支店在籍の5年間、鳥取県委員会の幹事として色々と経験させていただきましたが、これからもさまざまな支部活動を通じて、微力ではございますが、建設コンサルタンツ協会の発展にお役に立ちたいと考えていますので、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

## ■ 支部日誌(5年4月～6年3月)

- 4月 5日(水) 第76回道路委員会
- 4月10日(月) 令和4年度中国支部監査
- 4月17日(月) 第4回ICT委員会
- 4月19日(水) 第1回地域計画委員会
- 4月20日(木) 第53回定時総会
- 4月26日(水) 若手の会リーダーミーティング
- 4月28日(金) 第1回防災委員会
- 5月10日(水) 第1回河川委員会
- 5月10日(水) 第77回道路委員会
- 5月17日(水) 第2回地域計画委員会
- 5月20日(土) 防災教育事前打合せ
- 5月26日(金) 第30回若手の会
- 5月26日(金) 第1回構造委員会
- 5月27日(土) 令和5年度吉井川総合水防演習
- 5月27日(土) 防災マップづくり 岡山市御南西公民館
- 5月30日(火) まちづくり出前授業 広島市立三篠小学校
- 6月 5日(月) 土木技術者育成会議
- 6月 6日(火) 第1回技術部会・技術委員長合同会議
- 6月 7日(水) 第78回道路委員会
- 6月 7日(水) リクルート活動(山口大学)
- 6月 9日(金) 防災教育 広島市青崎公民館
- 6月10日(土) 防災教育 岡山市灘崎公民館
- 6月12日(月) 第1回業務部会
- 6月12日(月) 第1回港湾委員会
- 6月13日(火) まちづくり出前授業 広島市立三篠小学校
- 6月15日(木) 研修講師派遣(広島県) 「中級Ⅱ講座(設計技術)」
- 6月15日(木) 皆賀ふれあい大学 広島市皆賀公民館
- 6月16日(金) 第5回ICT委員会
- 6月19日(月) 第1回西日本4支部連携WG
- 6月21日(水) 第2回河川委員会
- 6月21日(水) 第31回若手の会
- 6月21日(水) 第3回地域計画委員会

- 6月22日(木) 研修講師派遣(広島市) 「アスファルト舗装」
- 6月23日(金) 研修講師派遣(広島市) 「構造物設計」
- 6月27日(火) 第1回総務部会・県委員長合同会議
- 7月 4日(水) リクルート活動(呉高等専門学校)
- 7月 5日(水) 第79回道路委員会
- 7月 6日(木) 中学生を対象とした防災教育 広島市立翠町中学校
- 7月 7日(金)～11日(火) 研修講師派遣(中国地方整備局) 「基礎技術Ⅰ研修」
- 7月13日(木) 中学生1～3年生を対象とした防災教育 広島市立日浦中学校
- 7月18日(火)～19日(水) 研修講師派遣(中国地方整備局) 「3DCAD①セミナー」
- 7月19日(水) 第4回地域計画委員会
- 7月19日(水) 第32回若手の会
- 7月20日(木) 国土交通功労表彰
- 7月24日(月) 第1回港湾若手の会
- 7月26日(水) 第1回役員会
- 7月27日(木) 第2回防災委員会
- 7月27日(木) 第2回西日本4支部連携WG
- 7月30日(日) クリーン太田川
- 8月 1日(火) 研修講師派遣(中国地方整備局) 「基礎技術Ⅱ研修」
- 8月 2日(水) 第80回道路委員会
- 8月 2日(水) 第1回WEB防災講演会
- 8月 9日(水) 第3回河川委員会
- 8月10日(木) 中国ブロック意見交換会
- 8月21日(月) 第5回地域計画委員会
- 8月21日(月) 第6回ICT委員会
- 8月25日(金) 第1回厚生部会
- 8月29日(火) 第3回西日本4支部連携WG
- 9月 1日(水) 令和5年度災害時対応演習
- 9月 1日(金)～10月31日(火) RCCM資格試験
- 9月 2日(土) 高齢者を対象にした防災教育 薬師が丘町内連合会
- 9月 5日(火)～7日(木) 研修講師派遣(中国地方整備局) 「橋梁設計研修」
- 9月 5日(火) 第2回業務部会
- 9月 5日(火) 第2回港湾委員会



- 9月 6日(水) 第33回若手の会
- 9月 6日(水) 第81回道路委員会
- 9月 6日(水) 小学4年生を対象とした防災教育 広島市立観音小学校
- 9月12日(火) 技術部会現場見学会
- 9月13日(水) 本部ICT委員会との意見交換会
- 9月14日(木) GIS講習会2023(WEB開催)
- 9月20日(水) 小学5年生を対象とした防災教育 広島市立山田小学校
- 9月20日(水) 第4回河川委員会
- 9月21日(木) 第6回地域計画委員会
- 9月21日(木) 第2回港湾若手の会
- 9月22日(金) 第2回構造委員会
- 9月22日(金) 第4回西日本4支部連携WG
- 9月27日(水) 第1回独占禁止法特別委員会
- 9月29日(金) レジリエンス強化研修(若手の会)
- 10月 2日(月)～6日(金) 研修講師派遣(中国地方整備局) 「一般構造物設計研修」
- 10月 3日(火)～4日(水) 研修講師派遣(岡山県建設技術センター) 「コンクリート構造物の点検・診断・補修(上級)」
- 10月 4日(水)～5日(木) GIS講習会(SIS/初級編)
- 10月 4日(水) 第82回道路委員会
- 10月 4日(水) マネジメントセミナー
- 10月 6日(金) 第3回防災委員会
- 10月12日(木) 建設関連5団体共催独禁法講習会
- 10月14日(土) ひろしま建設フェア2023
- 10月18日(水) 第5回河川委員会
- 10月19日(木) 近畿支部・北陸支部・中国支部意見交換会(若手の会)
- 10月23日(月) 第3回港湾委員会
- 10月24日(火) 第7回地域計画委員会
- 10月24日(火) リクルート活動(山口大学)
- 10月24日(火)～25日(水) 建設技術フォーラム2023inちゅうごく
- 10月25日(水) 研修講師派遣(三次河川国道事務所) 「橋梁に関する基礎講座」
- 10月26日(木)～27日(金) CIMハンズオン講習会
- 10月27日(金) 第1回JCCA中国編集会議
- 10月30日(月)～31日(火) 研修講師派遣(中国地方整備局) 中国地方BIM/CIM活用支援管理職セミナー

- 11月 1日(水) 第83回道路委員会
- 11月 1日(水) 第3回港湾若手の会
- 11月 2日(木) 第58回ゴルフ大会
- 11月 2日(木) リクルート活動(松江工業高等専門学校)
- 11月 2日(木) ~ 12日(日) 品質セミナー
- 11月 7日(火) 広島高速道路公社との意見交換会
- 11月 8日(水) 第5回西日本4支部連携WG
- 11月 9日(木) 研修講師派遣(中国地方整備局) 「橋梁管理実務者Ⅱ研修」
- 11月10日(金) 第34回若手の会
- 11月11日(日) 第13回フットサル大会
- 11月11日(日) トイドローン体験会
- 11月14日(火) 中国地方整備局との意見交換会
- 11月15日(水) 第6回河川委員会
- 11月16日(木) 広島県との意見交換会
- 11月18日(土) まちあるき(総務部会)
- 11月22日(水) 研修講師派遣(松江国道事務所) 「橋梁に関する基礎講座」
- 11月24日(金) 広島市との意見交換会
- 11月27日(月) ~ 12月8日(金) PC技術講習会
- 11月28日(火) 研修講師派遣(岡山県建設技術センター) 「会計検査指摘事項の検証」
- 11月29日(水) ~ 12月8日(金) 研修講師派遣(中国地方整備局) 「河川技術Ⅱ研修」
- 11月30日(木) 第8回地域計画委員会
- 12月 5日(火) リクルート活動(鳥取大学)
- 12月 6日(水) 第84回道路委員会
- 12月 6日(水) リクルート活動(島根大学)
- 12月 8日(金) 第7回ICT委員会
- 12月 8日(金) 第56回ボウリング大会
- 12月12日(火) 第4回港湾委員会
- 12月12日(火) 技術交流会(港湾委員会)
- 12月13日(水) 現地見学会(河川委員会)
- 12月14日(木) 研修講師派遣(中国地方整備局) 「砂防・土砂災害対応研修」
- 12月14日(木) 研修講師派遣(広島高速道路公社) 「橋梁設計勉強会」
- 12月14日(木) 第2回総務部会

- 12月15日(金) 第3回構造委員会
- 12月15日(金) 第4回防災委員会
- 12月16日(土) まちトーク(地域計画委員会)
- 12月19日(火) 研修講師派遣(広島高速道路公社) 「BIM/CIM勉強会」
- 12月20日(水) 防災見学会
- 12月20日(水) 研修講師派遣(松江国道事務所) 「交通工学に関する基礎講座」
- 12月21日(木) リクルート活動(広島工業大学)
- 1月 4日(木) 官民合同新年互例会
- 1月11日(木) リクルート活動(広島工業大学)
- 1月15日(月) 研修講師派遣(広島高速道路公社) 「橋梁設計勉強会」
- 1月17日(水) 研修講師派遣(松江国道事務所) 「交通量推計について」
- 1月19日(金) 岡山県との意見交換会
- 1月23日(火) 第3回業務部会
- 1月24日(水) 第2回役員会
- 1月29日(月) 研修講師派遣(広島高速道路公社) 「橋梁設計勉強会」
- 2月 2日(金) 第2回WEB防災講演会
- 2月 6日(火) 鳥取県との意見交換会
- 2月13日(火) 研修講師派遣(福山河川国道事務所) 「橋梁等勉強会」
- 2月15日(木) 研修講師派遣(浜田河川国道事務所) 「橋梁等勉強会」
- 3月 4日(月) 本部・支部意見交換会
- 3月16日(土) 防災マップづくり 岡山市西大寺公民館
- 3月下旬 JCCA中国Vol.52発刊

## ■ 事務局からのお知らせ

### ● JCCA中国会誌のホームページへ掲載について

この中国支部の広報誌は、JCCA vol.38の発行から中国支部ホームページにPDF版にて掲載していますのでご利用ください。

<http://jcca-cg.jp/>

### ● JCCA中国へのご寄稿依頼

中国支部の広報誌JCCA中国は、年1回発行しています。

会員の皆様のグループ活動、読者のコーナー、連載寄稿等の自由なご寄稿を頂きますようお待ちしております。

ご寄稿頂きますと心ばかりのお礼をさせていただきます。



## ■ 編集後記

新型コロナによる行動制限が順次解除されてきています。私自身、こんなにも長い間、あらゆることが変化したことは衝撃の連続でした。「緊急事態宣言」という聞き慣れない言葉、ガラガラになった街中、会話の自粛とマスク着用を求める電車内のアナウンス。三密、換気、消毒・・・ふと振り返ると、それはつい先日の出来事です。今はどうでしょうか。多くの人がマスクを外しはじめ、入口に「門番」のようにあった、アルコールと非接触型の体温計は端っこに追いやられています。そう考えると、コロナ禍からの回復が街中にはあふれていると感じます。

しかし、回復しているとはいえ「元の生活」に完全に逆戻りしているとはいえません。私たちの仕事はコロナ禍後、大きく変化しました。在宅勤務、リモート協議、遠隔臨場など、コロナ以前には、なかなか定着しなかった働き方が部分的にはあっても定着しつつあり、もはや普通になってきました。考えてみれば、私たち建コン業界の仕事は、内業に関していえば、社内においても一人で業務を進めている時間が長いことに気づきます。もちろん、打ち合わせなど意見を出し合う時間はとても重要で必要なことであり、そうした部分は時間を決めて進めることで、生産性がアップすることもわかってきました。

それぞれの分野で「元の仕事のやり方」から「新しい仕事の進め方」に変化しているのだと感じます。ベテラン職員からは「対面でないと

伝わらない」という言葉をよく聞きます。私もその点はアナログ人間なので共感します。しかし、コロナ後の世界では、「対面」と「リモート(非対面)」の使い分けがスタンダードになっていること、さらに言えばマストなビジネススキルであることを、私も含めて社会人経験の長い中高年のみなさんは、あえて意識しないといけないのかもしれない。

一方、学生時代をコロナ禍で過ごした入社間もない若手社員たちは、コロナ禍でも、オンラインで講義や試験を受け単位を取得し、卒論・修論を書きあげ、さらには就職活動においてもオンラインで競争を勝ちぬき、合格を勝ち取った「成功実績」を持った人たちです。その人達が立派に建設コンサルタント業界を支えてくれることは、業界にとって本当に明るいことです。

私も含めた中高年のみなさんは、コロナ禍前のちょっぴり時代おくれの成功体験のみを武勇伝のごとく語るだけでなく、若手職員から謙虚な姿勢で学ぶことにも頑張りたいものです。そこにVUCA(ブーカ)時代を生き抜くためのヒントがあるのではないかと感じています。

この度、寄稿・投稿頂きました文献には、そうした新しい時代を意識した貴重なエッセンスが多く含まれております。大変お忙しい中、ご執筆にご協力いただきました皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。

(KT)

■「JCCA中国」の編集は次の者が担当しております。今後とも皆様のご協力を頂きますようお願い申し上げます。

来山 尚 義 (復建調査設計株式会社)  
小 笹 俊 成 (株式会社福山コンサルタント)  
檜 崎 拓 也 (株式会社エイト日本技術開発)  
大 下 倫 明 (株式会社荒谷建設コンサルタント)  
柘 野 功吉郎 (株式会社ウエスコ)  
大 場 健太郎 (中電技術コンサルタント株式会社)  
下 紺 裕 人 (復建調査設計株式会社)  
中 村 正 和 (八千代エンジニアリング株式会社)  
石 田 勝 己 (建設コンサルタンツ協会中国支部)

「JCCA中国」に対する照会は事務局へ  
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会

中国支部事務局  
「JCCA中国」編集グループ  
〒730-0013  
広島市中区八丁堀1番8号  
八丁堀 GRIT 8F  
TEL (082)227-1593  
FAX (082)227-4940  
E-mail cg-jcca@sage.ocn.ne.jp

R6.3 発行

## 一般社団法人建設コンサルタンツ協会倫理綱領

会員は、社会のニーズに応じて、技術に関する知識と経験を駆使し、社会の健全な発展に寄与する建設コンサルタントの使命と職責を自覚し、信義に基づき誠実に職務の遂行に努め、職業上の地位及び社会的評価の向上を図らなければならない。

そのため次の事項を遵守するものとする。

### 1. 品位の保持

会員は、常に建設コンサルタントとしての品位の保持に努めるものとするとともに、会員相互の名誉を重んじなければならない。

### 2. 専門技術の権威保持

会員は、常に幅広い知識の吸収と技術の向上に努め、依頼者の良き技術的パートナーとして、技術的確信のもとに業務にあたらなければならない。

### 3. 中立・独立性の堅持

会員は、建設コンサルタントを専業とし、建設業者又は建設業に関係ある製造業者等と、建設コンサルタントとしての中立・独立性を害するような利害関係をもってはならない。また、依頼者の支払う報酬以外いかなる利益をも受けてはならない。

### 4. 秘密の保持

会員は、依頼者の利益を擁護する立場を堅持するため、業務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

### 5. 公正かつ自由な競争の維持

会員は、公正かつ自由な競争の維持に努めなければならない。

## 一般社団法人建設コンサルタンツ協会中国支部会員名簿

- ・支 部 長 小田 秀樹 (復建調査設計(株)代表取締役会長)
- ・副支部長 坪井 俊郎 (中電技術コンサルタント(株)代表取締役社長)
- ・副支部長 小谷 裕司 (㈱エイト日本技術開発代表取締役会長)

会 社 名		
相生エンジニアリング(株)	(株)建設技術研究所中国支社	(株)東京建設コンサルタント中国支社
アサヒコンサルタント(株)	国際航業(株)西日本支社広島支店	(株)なんば技研
アジア航測(株)広島支店	国土防災技術(株)鳥取営業	西日本高速道路エンジニアリング中国(株)
(株)荒谷建設コンサルタント	シンワ技研コンサルタント(株)	(株)日水コン広島支所
いであ(株)中国支店	西部技術コンサルタント(株)	日本工営(株)広島支店
(株)ウエスコ	(株)セトウチ	日本シビックコンサルタント(株)広島事務所
(株)宇部建設コンサルタント	セントラルコンサルタント(株)広島支店	(株)ニュージェック中国支社
(株)エイテック中国支社	(株)総合技術コンサルタント中国支店	パシフィックコンサルタンツ(株)中国支社
(株)エイト日本技術開発	(株)大広エンジニアリング	広建コンサルタンツ(株)
応用地質(株)広島営業所	大日本ダイヤコンサルタント(株)中国支店	(株)パスコ
(株)オリエンタルコンサルタンツ中国支社	ダイホーコンサルタント(株)	(株)ヒロコン
(株)片平新日本技研中国支店	中央開発(株)中国支店	(株)福山コンサルタント中四国支社
川崎地質(株)中国支店	中央復建コンサルタンツ(株)中国支社	復建調査設計(株)
基礎地盤コンサルタンツ(株)中国支社	中国開発調査(株)	明伸建設コンサルタント(株)
ケイ・エム調査設計(株)	中電技術コンサルタント(株)	八千代エンジニアリング(株)広島支店
(株)計測リサーチコンサルタント	(株)長大広島支社	(株)陸地コンサルタント
(株)建設環境研究所広島支店	(株)千代田コンサルタント広島支店	

令和6年3月1日現在(50社)





*JCCA*

*Japan Civil Engineering Consultants Association  
Chugoku Branch.*